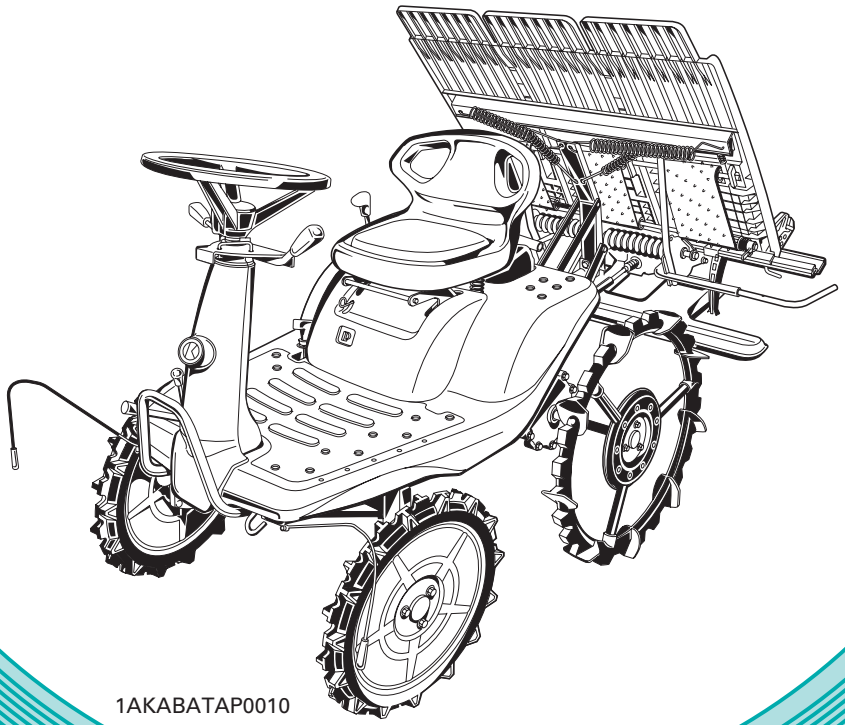
クボタ 乗用 田植機

取扱説明書

WELSTAR キュート

EP3



1AKABATAP0010

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

Operator's Manual

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	エンジン回転数“**低回転**”		エンジン回転数“**高回転**”
	チョーク		

専門用語の説明

● **主変速レバー**	**“前進”・“後進”・“停止”**の切換え及び走行速度をコントロールするレバー
● **植付クラッチレバー**	植付部（苗のせ台）の**上昇←→下降**，植付部への動力伝達の**“入”**，**“切”**を行なうレバー
● **アクセルレバー**	エンジン回転をコントロールするレバー
● **ブレーキペダル**	踏込むと動力を断ちブレーキが掛かるペダル
● **あぜ越アーム**	機体から降りて走行するとき，機械の浮き上がり防止・引上げ・方向修正などを行なうアーム
● **あぜ越レバー**	機体から降りて走行するとき，機体の走行を一時停止するレバー
● **安全クラッチ**	植付爪に障害物が詰まったとき，植付部のギアの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
● **フロート**	ほ場表面に浮き、整地するための部分
● **しゅう動板ガード**	植付部のしゅう動板があぜなどに当り、変形するのを防止するためのパイプ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

『EP3』使用の流れ

事前点検・準備

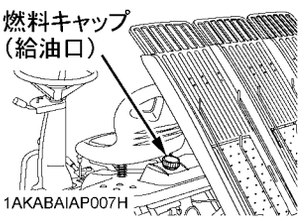
【参照】

日常点検 — P8～

燃料補給 — P41～

※初回のセット時のみ

満タンで約7時間の植付作業



1AKABAIAP007H

始動・停止

【参照】

エンジン始動 — P10～

発　進 — P14～

エンジン停止 — P16～

重要 運転席に座り，周囲に合図して始動してください。
リコイルハンドルはブレーキをロックしないと引けません。

移動・運搬

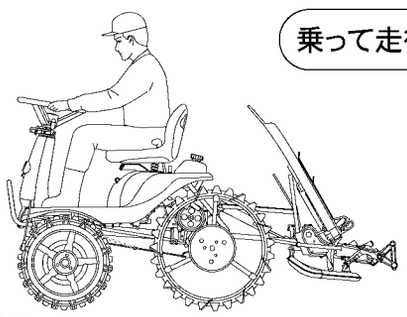
【参照】

移動・積み降ろし — P17～

安全のためヘルメットをかぶり，苗は降ろして走行してください。
☆公道は走れません。

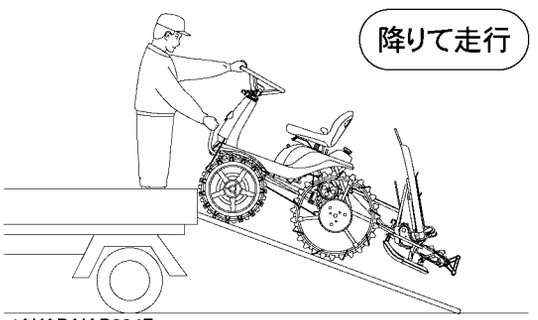
重要 積み込み，積み降ろしなど傾斜走行は，次の点に注意してください。

乗って走行


1AKABAIAP004G

重要 積み込みのときは必ず後ろ上がりで走行。

降りて走行


1AKABAIAP004F

重要 降りて走行するときは必ず前上がりで走行。

停止・駐車

重要 できるだけ平たん地でブレーキ操作し，停止，駐車してください。

荷台への固定

ブレーキと油圧をロックして
ください。
主変速レバーを**(N)[中立]**
以外にしてください。
燃料コックを閉じてください。

P19～

1AKABATAP0050

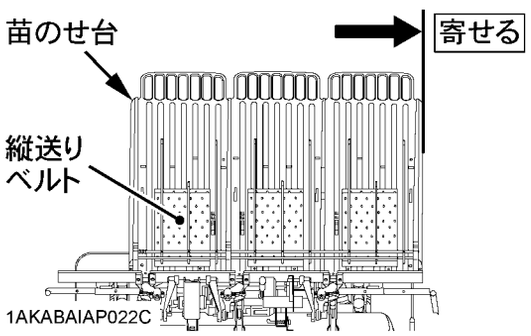
植付け作業の準備

【参照】

ほ場と苗の確認　代かき，苗の状態が適正か確認してください。　P20～

植付条件をセット　必ず植付けの駆動を止めて調整してください。　P28～
・植付けの深さ
・苗取り量
・苗ステー，苗おさえ棒

苗　補　給　初回の補給時は最右か最左にセットしてください。　P24～



植付け作業の準備

【参照】

あ　ぜ　越　主変速レバーを**[あぜ越]**位置にし，ゆっくり入ってください。　P23～
急な傾斜ではあゆみ板を使うか，降りて後進してください。

直　　進　主変速レバーは，必ず**[植付]**にセットしてください。　P25～
アクセルレバーは好みの速度にセットしてください。

旋　　回　ハンドルを切って次の植付地点に移動してください。
☆ゆっくり廻りたいときはアクセルレバーで減速してください。
☆変形田等で廻りにくいときは一度止まるか切り返してください。

枕地植え　ほ場の外周に合わせ，ゆっくり植えてください。

あぜ越・後作業　あぜ越速度で，ゆっくりとほ場から出てください。　P27～
あぜが緩やかなときは植えながら出ることができます。
あぜが急なときは降りて前から操作してください。
苗ステーを後方に開き，残り苗を取り出してください。

格納・メンテナンス

【参照】

格　　納　燃料を全て抜き，清掃と注油をして格納してください。　P32～
シーズン前には，参照ページの一覧表に基づき点検してください。

トラブル時の対応　参照ページの**[不調と処置]**の内容をまず確認してください。　P50～
もし解決しないときは最寄の販売店にご相談ください。

1AKABAIAP0170

目　次

⚠安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください 1
2. 表示ラベルと貼付け位置 10
3. 表示ラベルの手入れ 11

サービスと保証について

走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称 **2**
各部の名称とはたらき **3**
エンジンスイッチ 3
リコイルハンドル 3
チョークレバー 3
アクセルレバー 3
主変速レバー 4
ブレーキペダル 4
ブレーキロックレバー 4
あぜ越レバー 4
あぜ越アーム 4
運転席（シート） 4

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称と働き **5**
植付クラッチレバー 6
フィットセンサレバー 6
苗取り量調節レバー 6
植付深さ調節ピン 6
油圧ロックレバー 7
隣接マーカ 7
苗ステー，苗押さえ棒 7

運転前の点検

日常点検項目 **9**

移動走行と輸送

新車時の扱いかた **10**
ならし運転について 10
エンジンの始動と停止のしかた **10**
始動のしかた 10
停止のしかた 11
移動走行について **12**
移動走行前の準備 13
発進のしかた 14
旋回のしかた 14
降りて走行するとき 15
停車･駐車のしかた 16
輸送について **17**
トラックとあゆみ板の準備 17
田植機の準備 17
田植機の積み込み・積み降ろしのしかた 18
トラック上での処置 19

田植作業のしかた

ほ場と苗の条件 **20**
ほ場条件 20
苗条件 21
田植機の準備 **22**
作業前の準備 22
植付作業のしかた **22**
ほ場の出入りのしかた 23
植付作業の手順 24
植付手順 26
残り苗の取り出し方 27
作業に合わせた各部の調節･調整 **28**

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた **33**
センタカバーの脱着のしかた 33
各部の掃除のしかた **33**
掃除のしかた 33
各部の注油のしかた **34**
注油のしかた 34
植付作業後の手入れ **36**
毎日の作業後 36
長期格納時 36
定期点検一覧表 38
給・注油（水）点検一覧表 39
定期点検 **40**
廃棄物の処理について 40
洗車時の注意 40
使用者が行なってはいけない修理 40
燃料･オイルの点検･補給･交換 41
燃料フィルタポットの点検・掃除 43
ミッションオイルフィルタの点検･掃除･交換 44
エアクリーナエレメントの点検･掃除 44
点火プラグの点検･掃除･調整 45
パイプ･ホース類の点検･交換 45
ミッション駆動ベルト・ポンプ駆動ベルトの点検 46
植付爪･押出し金具の点検･調整･交換 46
苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 48
ブレーキペダルの点検･調整 49
タイヤの点検 49

乗用田植機の不調と処置

欠株が出る **50**
浮苗が出る・植付けが乱れる **52**
浮苗が出る・植付けが悪い **53**

目　次

植付けが乱れる・欠株が出る 54
その他の不具合 55

付表

主要諸元 56
付属部品 57
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 58
苗キーパ 58
クリーナ 58
ラインマーカ 58
予備苗台 58
前部ウエイト 59
株間切り替え 59
横送り切り替え 59
苗スライドストッパー 60
消耗部品（純正品を使いましょう） 60
植付爪 60
点火プラグ 60
クボタ純オイル 61

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

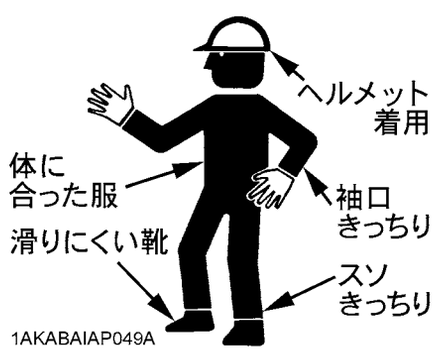
⚠安全指示順守

- 本書及び本機の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。

1AKABAIAP048A

⚠作業に合った服装および健康状態

- 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。
- ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用してください。



1AKABAIAP049A

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，過労，病気の方は使用しないでください。
- 初めて運転する方は操作に慣れるまで，低速で運転してください。

1AKABAIAP050A

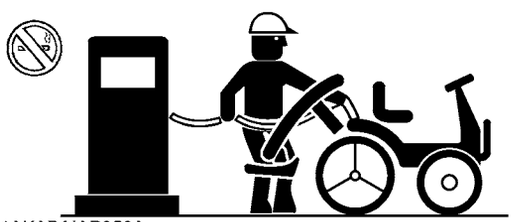
⚠子供が近づくのは危険

- 点検，整備中及び田植作業中，本機に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。

1AKABAIAP051A

⚠使用前の準備・点検

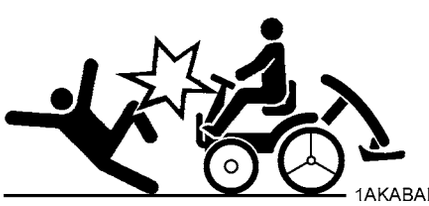
- 使用前の点検は必ず行なってください。
  特にブレーキペダルの点検は忘れないでください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。
- 平たんな場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧ロックレバーを**［閉］**にするとともに，台などで支えをして落下を防止してください。


1AKABAIAP052A

1AKABAIAP053A

⚠エンジンの始動

- エンジンを始動するときは，運転席に座り，主変速レバーと植付クラッチレバーが**（N）［中立］**になっているか，レバーを動かして確認してから始動してください。
- 始動時はブレーキペダルを踏み，ペダルをロックし，リコイルハンドルをしっかりにぎって引き上げ始動してください。
- 機械を始動および動かすときは，周囲の人に合図して安全に気をつけてください。
- エンジンの排ガスは有毒です。屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。


1AKABAIAP054A

1AKABAIAP055A

⚠走行運転

- この機械は一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進する場合は，植付部が最上昇位置にあることを確認して，植付クラッチレバーの**（N）［中立］**を確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して，ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。

1AKABAIAP056A

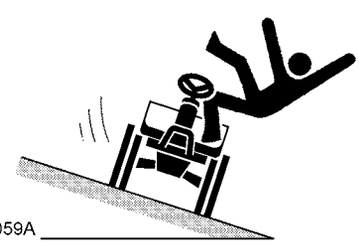
- 道のりが遠くても，その他どのような場合でも，絶対に運転者以外の人を乗せないでください。
- オプション部品の予備苗のせ台の上などに物を乗せないで，荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 停止するときは，必ずブレーキペダルを踏込んで主変速レバーを**（N）［中立］**位置に戻してください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。

1AKABAIAP057A

- 油圧ロックレバーを**［閉］**にし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・ラインマーカ（オプション部品）を収納状態にしたあと，苗のせ台を機械中央で止めるようにしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。特に，苗のせ台の接触には注意してください。

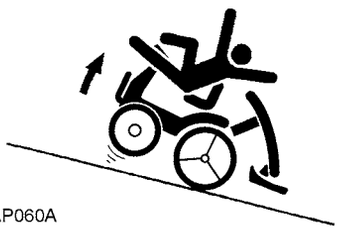
1AKABAIAP058A

- 機械が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。

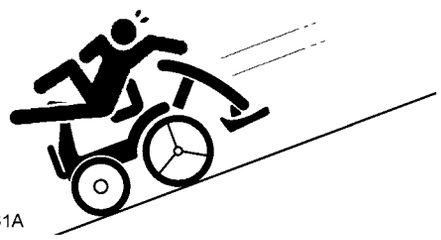

1AKABAIAP059A

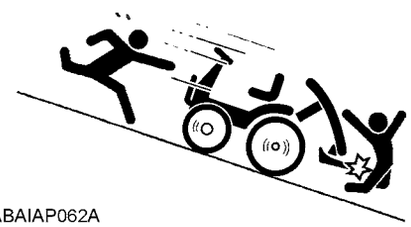
⚠坂道走行

- 坂の手前で一旦停止して，主変速レバーを**［あぜ越］**位置に切換えてから，坂道の登り降りをしてください。
- 坂を下るときはブレーキペダルは踏込まないで，必ずエンジンブレーキでおりてください。
- 急発進はしないでください。
- 坂が急で，前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は，後進で登るようにしてください。
- 坂の途中で主変速レバーを**（N）［中立］**位置にしないでください。


1AKABAIAP060A

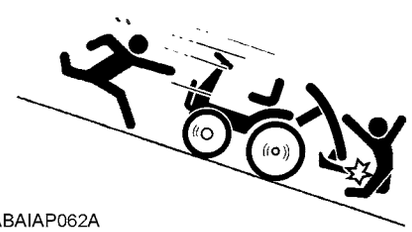
- 坂の途中では，できるだけ停止しないようにしてください。危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込んで主変速レバーを**（N）［中立］**位置に戻してください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。
- 坂道では，できるだけ駐車しないようにしてください。やむをえず駐車する場合は，駐車ブレーキをかけて，石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は，主変速レバーを**［あぜ越］**位置又は**［植付］**位置に入れておいてください。


1AKABAIAP061A


1AKABAIAP062A

⚠降りての走行

- 降りて走行するときは，アクセルレバーを**［低回転］**位置，主変速レバーを**［あぜ越］**位置にしてください。
- 降りて走行するときは，機械の周囲に人を近づけないでください。特に，傾斜（坂道，あゆみ板上，あぜ越など）のあるところでは機械後方に人がいないことを確認してください。


1AKABAIAP062A

- 傾斜のあるところでは，機械前部を傾斜上方向にして上り下りしてください。

1AKABAIAP076A

⚠農道，ほ場の移動

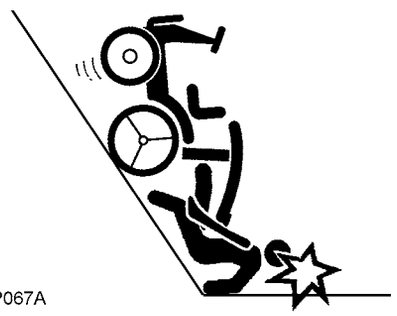
- 主変速レバー**【移動】**位置で，植付部を上昇させて，ゆっくり走行してください。
- 油圧ロックレバーを**【閉】**にし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカを収納状態にしてください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では，機械から降りて確認するようにしてください。このとき必ずエンジンを止めて行なってください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。
- 機械が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。

1AKABAIAP065A

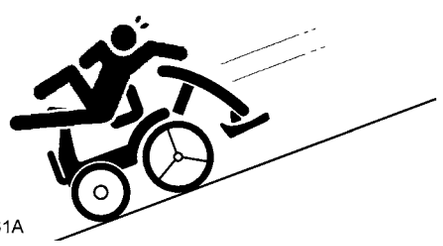
1AKABAIAP059A

⚠ほ場の出入り

- 降りて走行するときは**［降りて走行するとき］**の項（15 ページ）を参照してください。
- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め，主変速レバーを**［あぜ越］**位置にし，植付クラッチレバーで植付部を下げ，アクセルレバーを**［低回転］**位置にし，ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に，植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は，ほ場に出入口の傾斜をつくり，溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，あぜ越のときには，必ずあゆみ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって，後進で登ってください。
- あゆみ板は，機械の重量に耐える強度（金属製）で，段差に対して４倍以上の長さのもの，また，横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い，平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真っ直に直し，真っ直に登ってください。


1AKABAIAP067A

- 途中で主変速レバーを**（N）［中立］**にしないでください。
- 途中で危険回避などのために機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。


1AKABAIAP061A

⚠ほ場での作業

- 苗を補給するときは，主変速レバーと植付クラッチレバーを**（N）［中立］**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- 補助者がいる場合は，互いに合図で確認するようにしてください。
- あぜぎわで旋回するときは，あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
- 作業条件により，前輪が浮く場合は，オプションの前部ウエイトを取付けてください。
- ウエイト代りに，人や物を乗せないでください。

1AKABAIAP070A

1AKABAIAP071A

- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物をかみこんだときは，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから取除いてください。

⚠機械から離れるとき及び走行，作業途中の駐車・点検

- 機械から離れるときは，坂道などの傾斜地を避け，平たんな場所へ移動してください。
- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは，主変速レバーを**［あぜ越］**位置又は**［植付］**位置に入れたあと，植付クラッチレバーを**（N）［中立］**位置にしてエンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてください。
- エンジンをかけたままで，草やワラの上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。
- 植付部を上昇させて点検するときは，油圧ロックレバーを必ず**［閉］**にするとともに，下に木の台などを置いて落下防止の歯止めをしてください。

1AKABAIAP071A

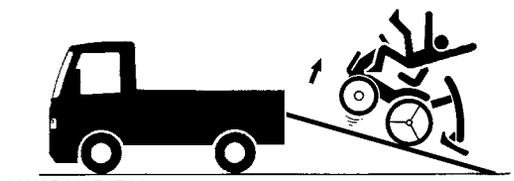
1AKABAIAP072A

⚠ヤケド防止

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。

1AKABAIAP071A

⚠トラックなどへの積み込み・積み降ろし


1AKABAIAP073A

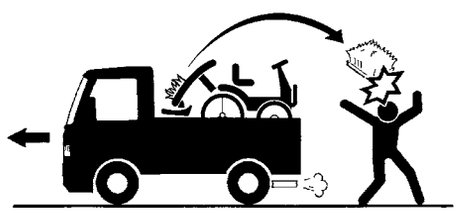
- 乗って積み込むときは必ず後進で行ない，降りて積み込むときは前進前あがりで行なってください。
- 降りて走行するときは，ハンドルとあぜ越アームを使用してください。
- 積み・降ろしを開始する前に，トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 主変速レバーを**［あぜ越］**位置にし，アクセルレバーを**［低回転］**位置にしてください。
- 途中で主変速レバーを**（N）［中立］**にしないでください。
- あゆみ板は，段差の４倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30 ㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が 250 kg以上の重量に耐えうる

- 誘導者を付け，周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また，機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。

⚠トラックなどでの運搬


1AKABAIAP074A

- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープはけん引フック（機体前部）と後輪に掛け，確実に固定してください。
- 苗のせ台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。
- 苗のせ台を中央に移動させたあと，苗のせ台を最上昇させ，油圧ロックレバーを**［閉］**にしてください。

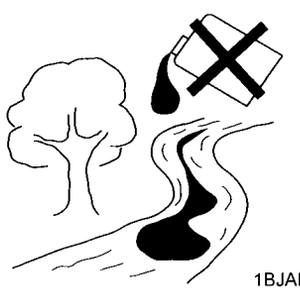
⚠使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 格納するときは，平たんな場所に植付部を下げておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けておいてください。
- 本機カバーなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。
- 長期格納時には，燃料タンク及び燃料コックのフィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

1AKABAIAP075A

⚠廃棄物の処理について

- 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
- 廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。


1BJABAAAP0180

2. 表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番　PK301-8924-2

⚠ 注　意

点検・整備する時の注意

1．センタカバーを外しての作業は、回転物・高温部によるケガのおそれがあるのでエンジンを止め、冷えてから行うこと。
また、作業後はセンタカバーを取付けること。
2．植付部を上げての作業時は、はさまれるおそれがあるので、油圧昇降を必ずロックすること。

潤　滑　油

給油箇所	油量	油の種類
エンジンオイル（油量上限／油量下限）	0.55ℓ	クボタ純オイル G10W 30
ミッションオイル（給油口／ブリーザ／機械後方 燃料タンク下）	4.7ℓ	クボタ純オイル スーパー UDT

1AKABAIAP1770

(2) 品番　50080-1689-2

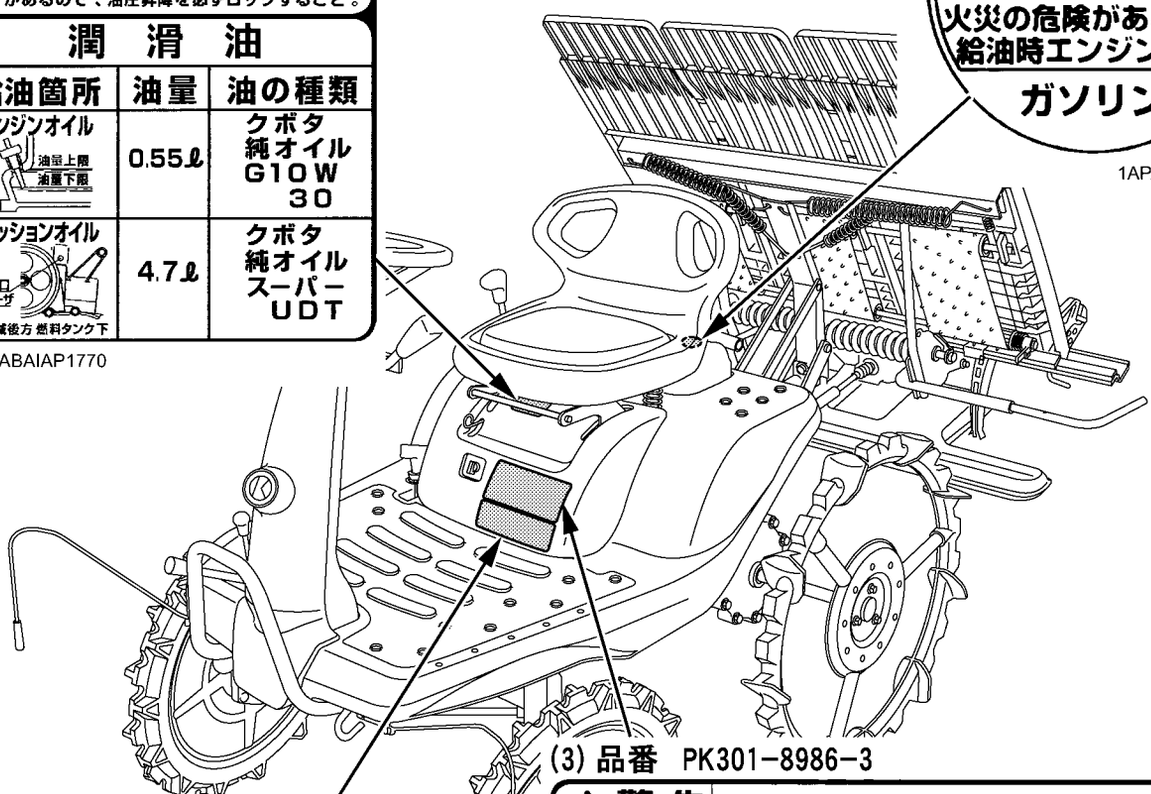
⚠警告

火気厳禁

火災の危険があるので給油時エンジン停止

ガソリン

1APAAADAP1120



(3) 品番　PK301-8986-3

⚠ 警 告　転倒や暴走のおそれがあるため、下記事項を守ること。

エンジン始動時
ペダルを踏み、主変速及び植付レバー位置『N』で始動すること。ペダルを踏まないと始動できません。

走行時
高速走行時に急停止・急旋回しないこと。

作業時
苗補給や乗降時は、主変速レバーを『N』にして、ブレーキペダルをロックすること。

トラック等への積み降ろし・あぜごえ・急な坂道での走行時
1．機械から降りて、主変速レバー位置『あぜ越』で、アクセルを低速とすること。
2．段差の4倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して前輪を直角方向に向けること。
4．下り坂では急ブレーキをかけないこと。

1AKABAIAP1730

(4) 品番　PK301-8987-1

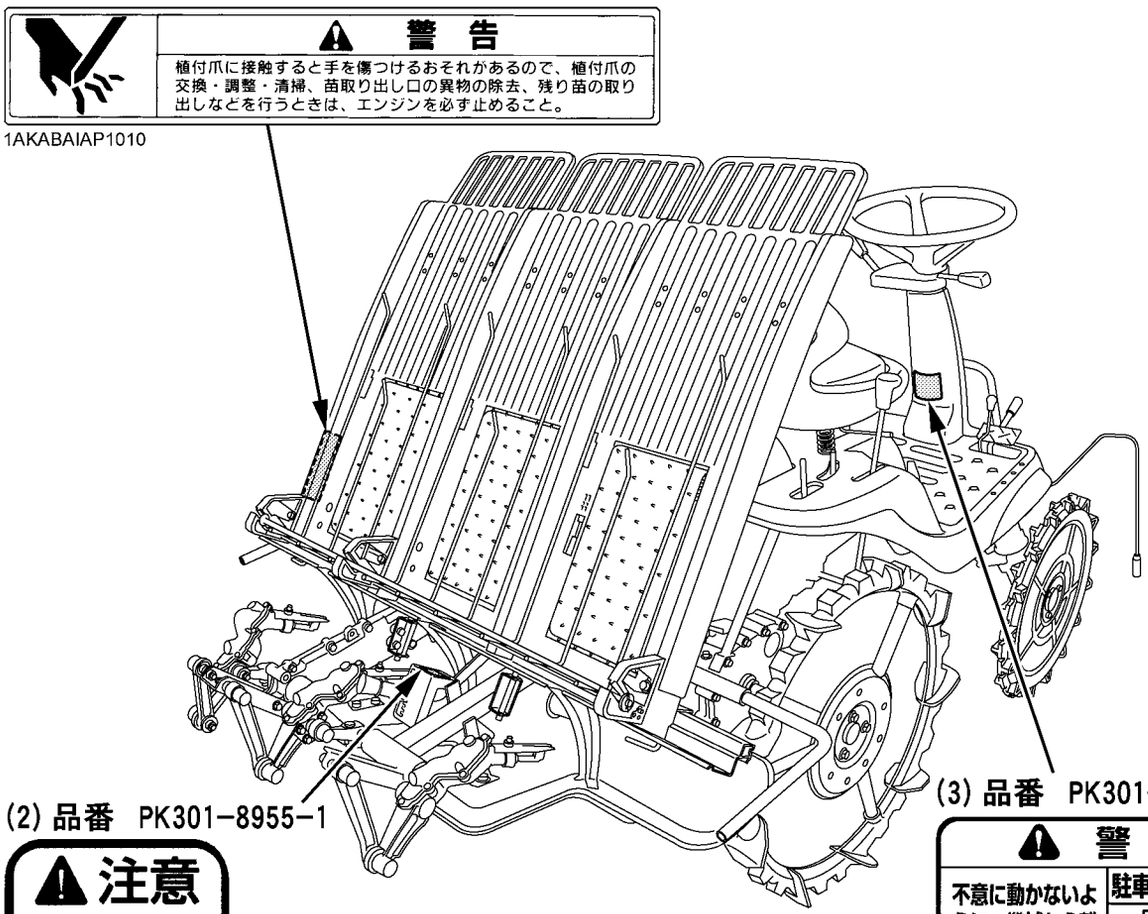
⚠ 注 意　安全作業のため、取扱説明書を読んでから作業すること。

移動走行時
1．この機械は公道走行はできないため、トラックで運搬すること。
2．転倒などのおそれがあるため、傾斜地・がけ際・路肩の軟弱な農道は乗って走行しないこと。
3．転落や破損のおそれがあるため、運転者以外の人や物をのせないこと。
4．植付部が不意に下降して挟まれるおそれがあるので、植付部を上げての移動時は、油圧昇降をロックすること。

作業時
衝突や転倒のおそれがあるので、夜間作業はしないこと。

1AKABAIAP0240
1AKABATAP002B

(1) 品番　PA401-8943-1



3. 表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

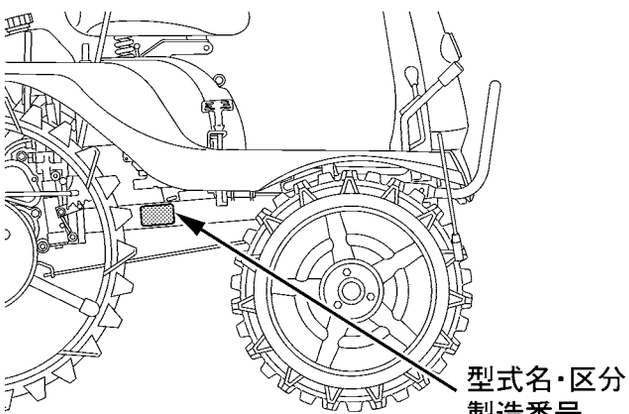
- ラベルはいつもきれいにして，傷つけないようにしてください。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

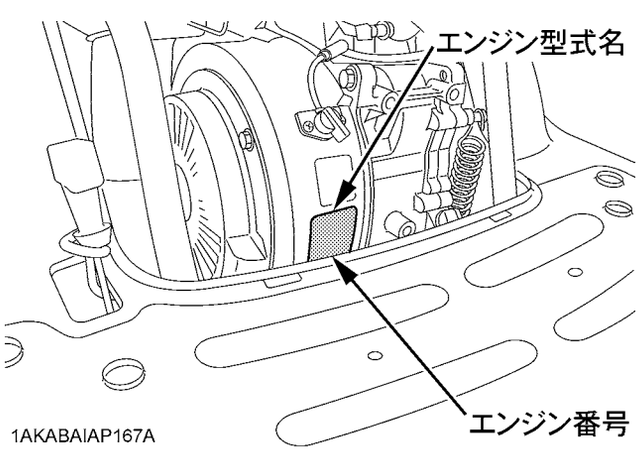
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1) 型式名・区分と製造番号
　　(2) エンジン型式名とエンジン番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。



1AKABAIAP001G

農業機械の種類	田植機（土付き苗用）
型式名	クボタ
販売型式名	
区分	
製造番号	
製造会社	株式会社クボタ

1AKABAKAP036A



1AKABAIAP167A

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆ 認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

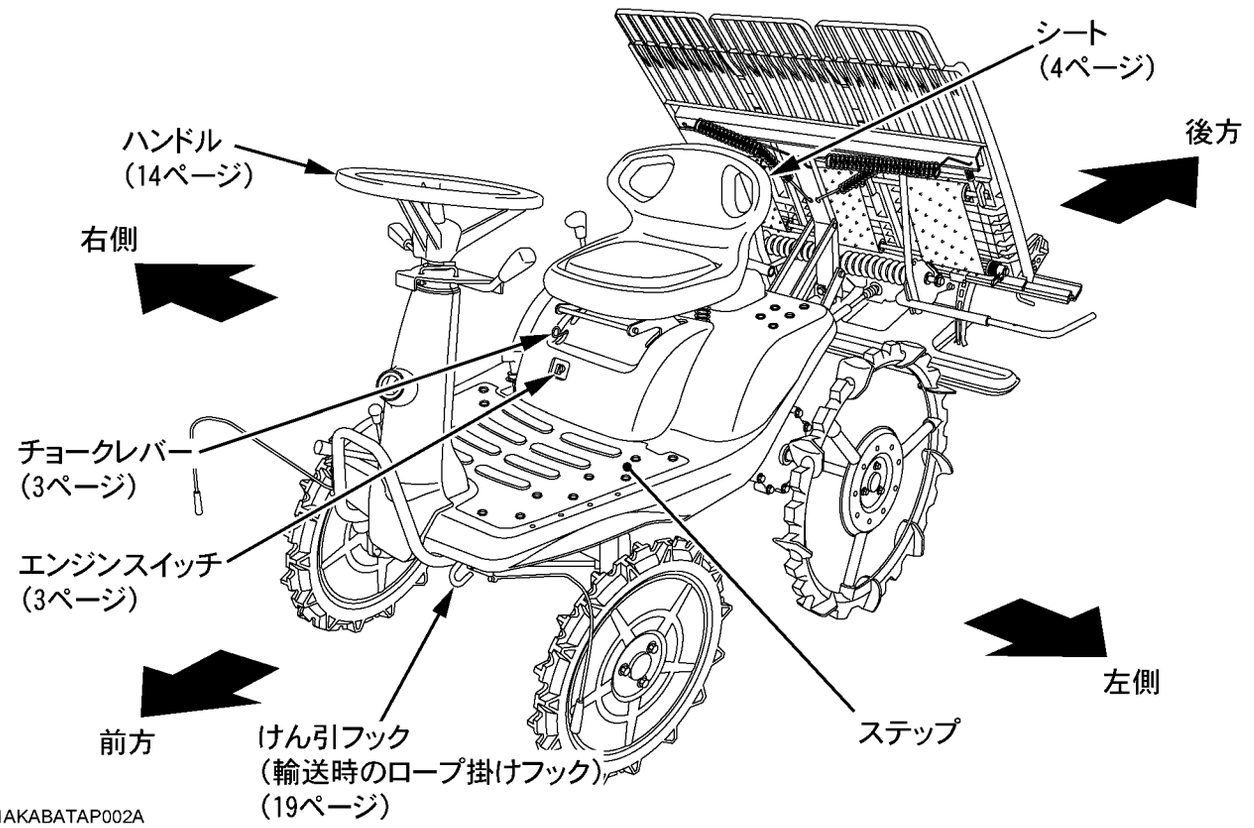
型式名	安全鑑定番号
クボタ EP3	36057

◆ 補修用部品の供給年限について

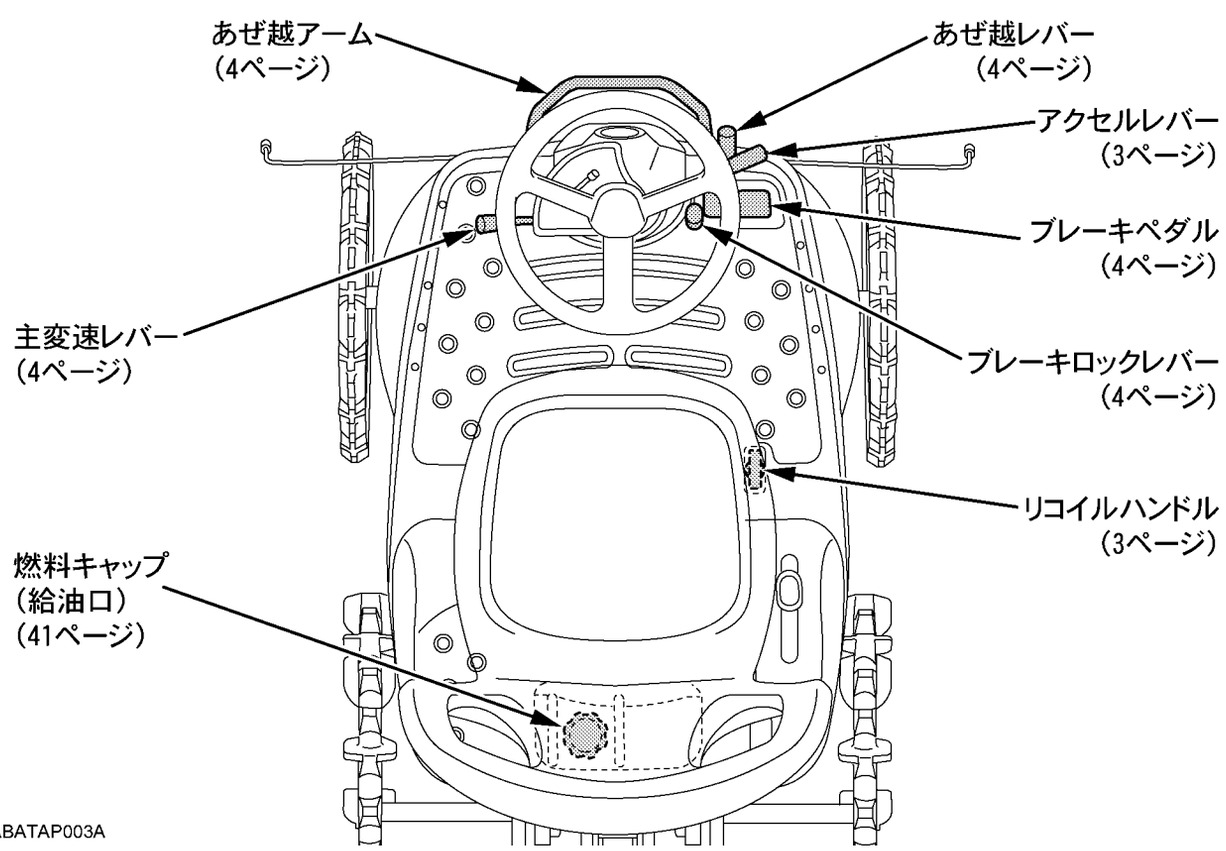
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称



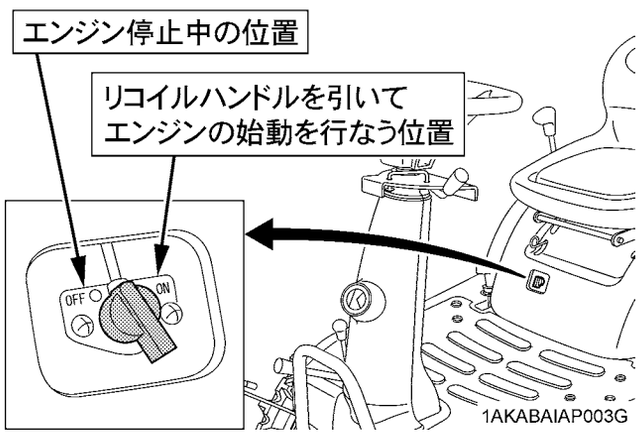
1AKABATAP002A



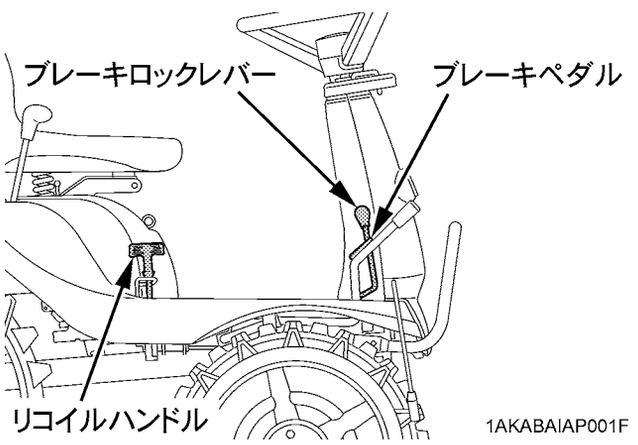
1AKABATAP003A

各部の名称とはたらき

■エンジンスイッチ
エンジンの始動・停止を行なうスイッチです。



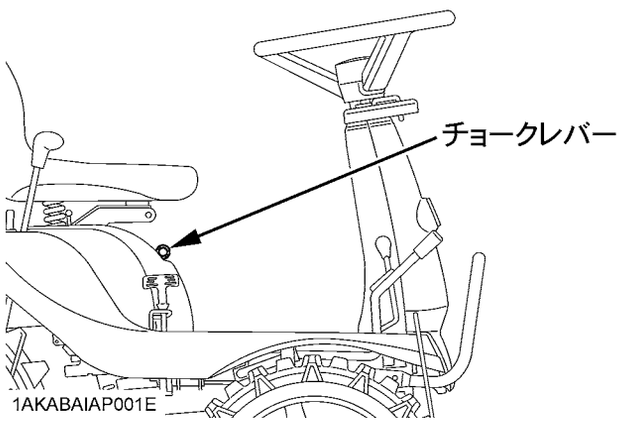
■リコイルハンドル
エンジンの始動を行なうハンドルです。



補　足

＊ ブレーキペダルをいっぱいまで踏込まないとエンジンは始動しません。
ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックして駐車ブレーキを掛けてからエンジンを始動してください。

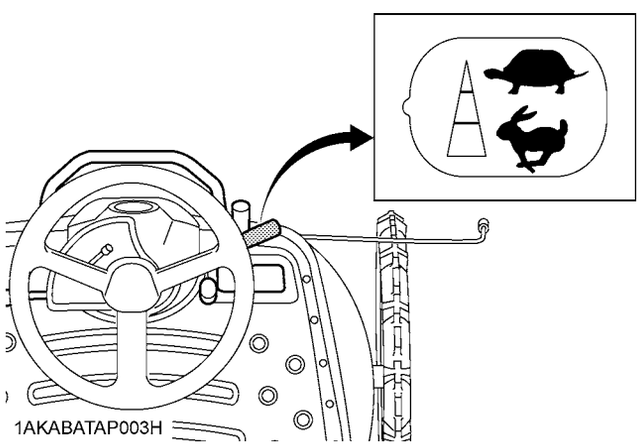
■チョークレバー
エンジンの始動を容易にするレバーです。レバーを引くと燃料の混合気が濃くなります。



補　足

＊ エンジンの始動以外は使用しないでください。

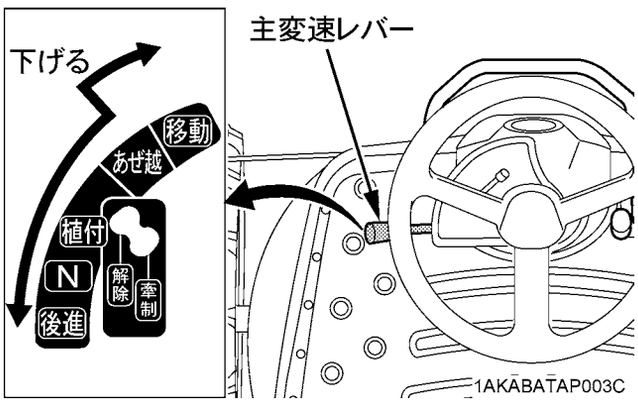
■アクセルレバー
エンジンの回転数をコントロールするレバーです。レバーを後方に引く（**[**🐢**]** 方向）と回転数が上がり，前方に押す（**[**🐇**]** 方向）と回転数は下がります。



走行装置の名称と取扱い

■主変速レバー

移動，あぜ越，植付，停止（N），後進の操作を行なうレバーです。



補　足

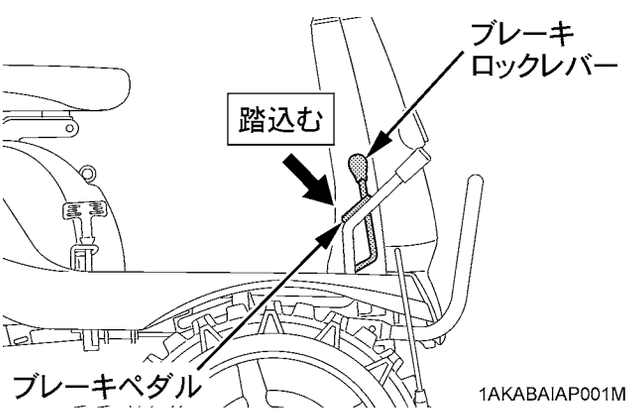
＊ 停止するときはブレーキペダルを踏んで，主変速レバーを**（N）［中立］**位置に合わせてください。
＊ 主変速レバーを操作する際は必ずブレーキペダルを踏込んでください。
＊ 主変速レバーを**［あぜ越］**から。**［移動］**へ動かす際はレバーを下げて操作してください。

■ブレーキペダル

踏込むとクラッチが切れブレーキが効きます。
エンジン始動時や緊急停止時，変速操作時に使用します。

■ブレーキロックレバー

駐車時，エンジン始動時に使用します。ブレーキを踏込んだ位置で，ブレーキロックレバーをペダルに掛けると駐車ブレーキが掛かります。もう１度踏込むとロックレバーが解除されます。



補　足

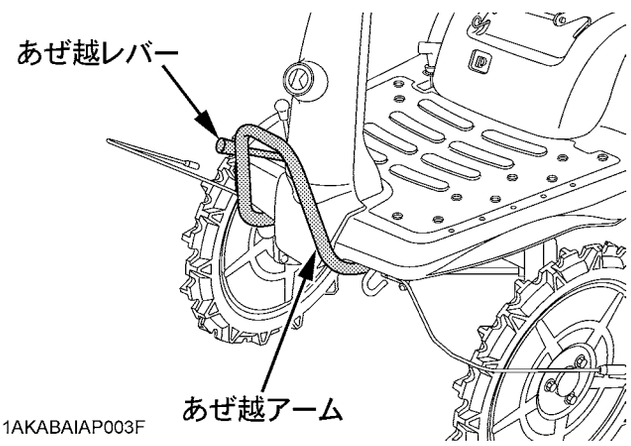
＊ エンジンを始動するときは，駐車ブレーキを必ず掛けてください。

■あぜ越レバー

機体から降りて走行する場合に機体の走行を一時停止するレバーです。停止させるときは，あぜ越レバーを押下げてブレーキロックレバーをペダルに掛けてください。解除するときはあぜ越レバーをいったん押下げてブレーキロックレバーのロックを解除してください。

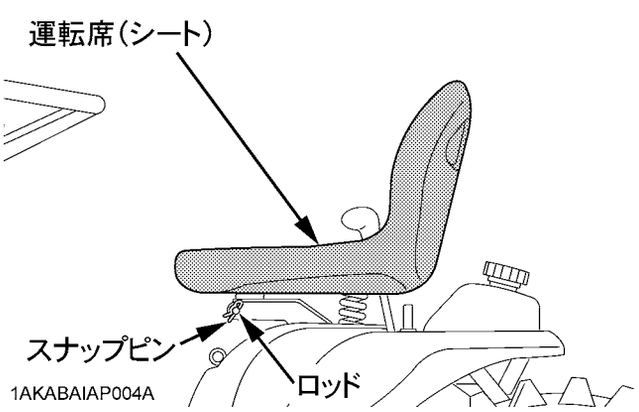
■あぜ越アーム

機体から降りてほ場の出入りをするときのあぜ越，トラックへの積み・降ろし，急な斜面を登り降りするとき，機械の浮き上がり防止・引上げ・方向修正などを行なうアームです。機械から離れるときは，あぜ越レバーを奥まで下げてブレーキロックレバーをペダルに掛けると駐車ブレーキがかかります。



■運転席（シート）

運転席は前後に調節することができます。運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し，穴を差換えて**前 ⟷ 後**に調節してください。

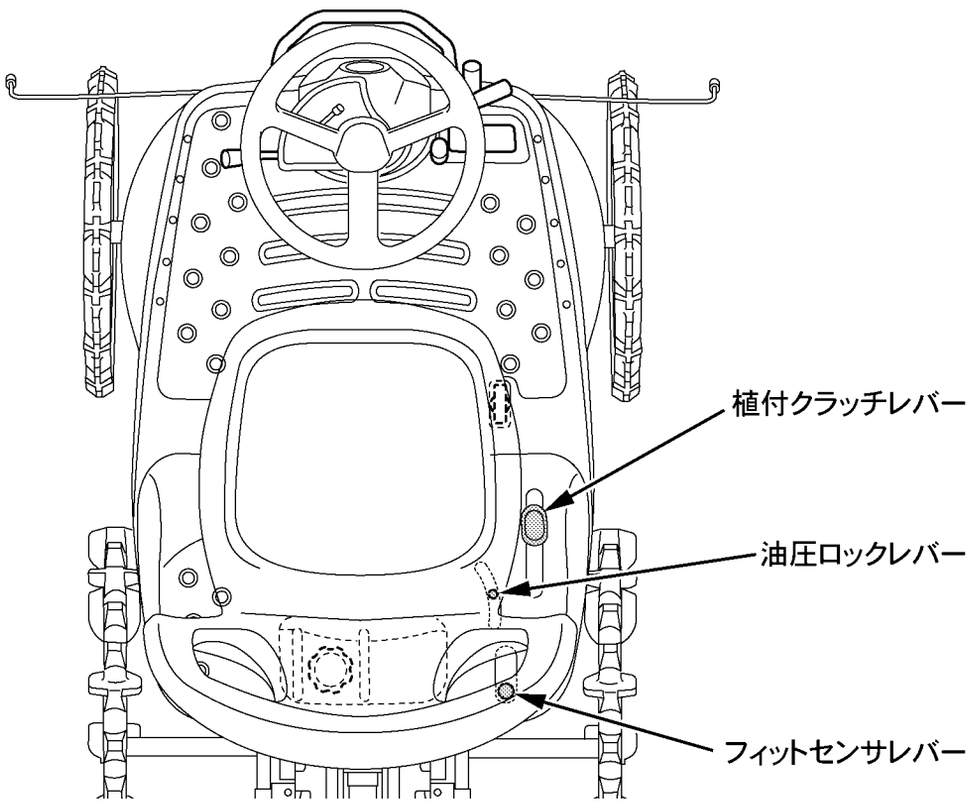


補　足

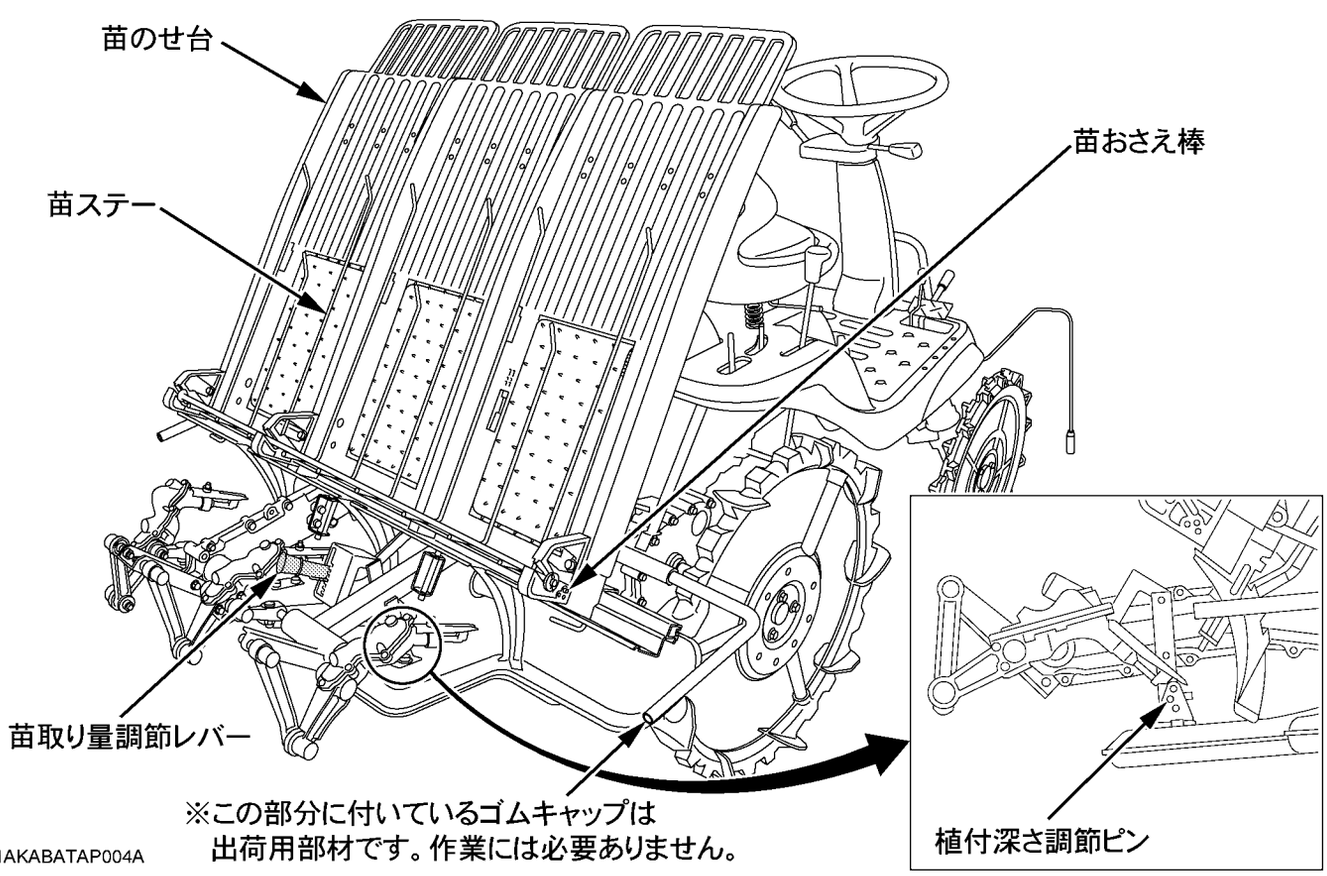
＊ 運転席を前方に倒しておくと，ほこりよけとなります。

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称と働き



1AKABATAP003D



1AKABATAP004A

■植付クラッチレバー

植付部の**上昇・下降**，動力伝達の入・切を操作するレバーです。

- **植付部操作**

［上］・・・・・・・・・ 植付部の駆動が停止し，上昇します。

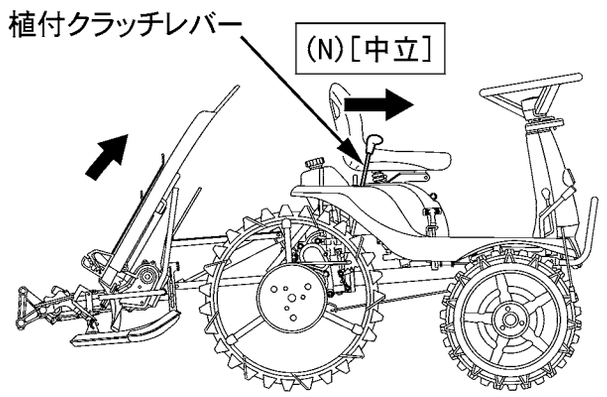
(N)［中立］・・・ 中立位置です。

［下］・・・・・・・・・ 植付部が下降します。

［植付］・・・・・・・ 植付部が駆動します。（植付爪が回転し，苗のせ台が横送りします。）

補　足

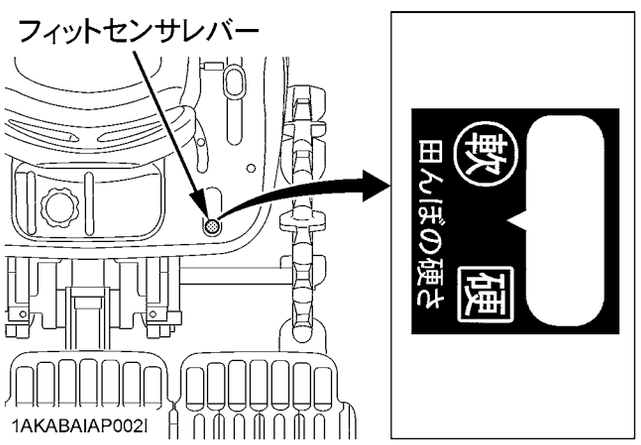
＊ 植付部が最上昇すると，レバーは自動的に**(N)［中立］**位置に戻ります。



1AKABAIAP001C

■フィットセンサレバー

フィットセンサは，フロートによるほ場表面の整地を最良にするため，ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調節する装置です。調節は７段階（１～７）行なえます。



1AKABAIAP002I

補　足

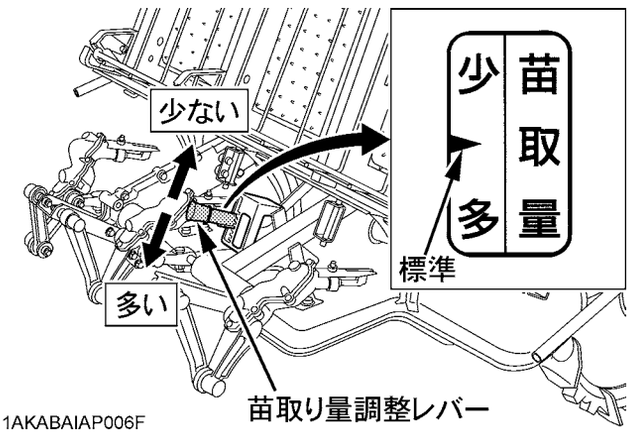
＊ 出荷時は，**［中央］**（標準）の位置です。

■苗取り量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて７段階の調節が行なえます。

補　足

＊ 出荷時は，**上（[少]）から４段目**位置です。



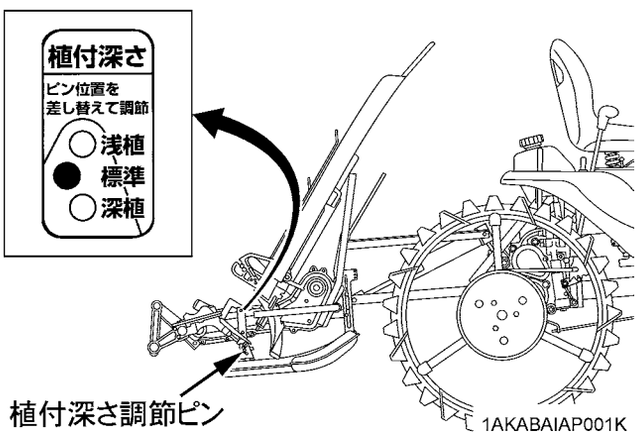
1AKABAIAP006F

■植付深さ調節ピン

ほ場に適した苗の植付深さを調節するピンです。苗の植付深さに合わせて３段階のピン穴調節が行なえます。
左右のピン穴は同じ深さに合わせてください。

補　足

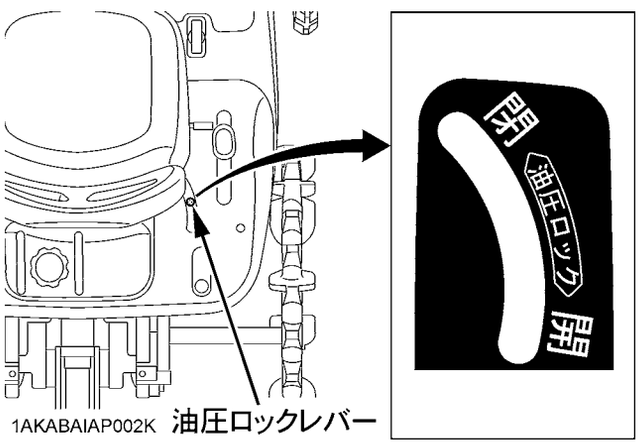
＊ 出荷時は，**［標準］**位置です。



1AKABAIAP001K

■油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。ロックレバーを前方に動かす（**【閉】**位置）と，エンジンが始動中に植付クラッチレバーを操作しても植付部は下降しません。解除するときは，ロックレバーを後方に動かして（**【開】**位置）ください。

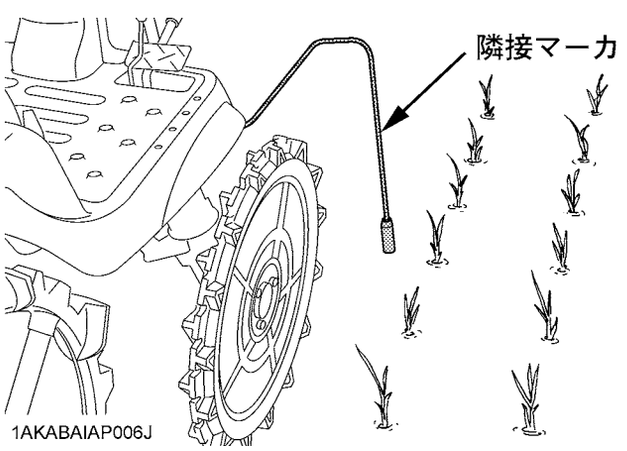


補　足

＊ レバーを操作するときは，前方又は，後方いっぱいまで操作してください。

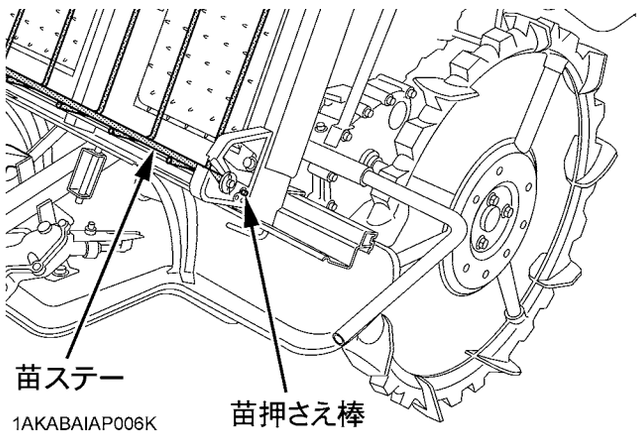
■隣接マーカ

あぜぎわの植付けを行なう場合やラインマーカ（オプション）で引かれた線が見えにくいときは，隣接条の苗の真上にマーカを合わせて植付けると適正な隣接条間が保てます。



■苗ステー，苗押さえ棒

苗ステーは，薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗が，苗のせ台からくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また，苗押さえ棒は，植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。



運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検・調整方法の詳細は，32 ページを参照。）

警　告

＊ 平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを掛けて行なってください。
＊ 燃料の補給中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ オイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。
＊ 定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊ マフラやエンジン・燃料タンク・ベルト部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときは水平な場所で行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ エンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**［クボタ純オイル・スペアグリース］**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊ ガソリンは１ヶ月以上放置した場合，気化し，エンジンの不調や故障の原因となります。必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取り，新しく補給してください。

◆ 前日の異常箇所
前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ 田植機の周りを歩いて
(1) 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(2) 油もれなどないか点検します。
(3) 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

日常点検項目

項目		点検内容	処置	参照ページ
機械の周りを歩いて	機械各部	1. 損傷や変形 2. ボルトやナットの緩みや脱落 3. 油もれ 4. ゴミや泥などの付着 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれ	1. 修理又は交換 2. 補充や増締め 3. ホースやパイプの取付部の締付け，又は部品交換 4. 掃除 5. 新しいラベルに貼替え	— — 45 33 ⚠-10
	タイヤ	● 摩擦や損傷	● 交換	49
	各ワイヤ，レバー支点部，しゅう動部	● たるみや損傷 ● 作動状態に異常	● 交換 ● 注油	48
	植付爪・押出し金具	● 摩擦や損傷，又は変形 ● 石などの異物のはさみこみ	● 調整，又は交換 ● 取除く	46
	燃料タンク	● 作業に必要な燃料はあるか	● 自動車用無鉛ガソリン補給	41
センタカバー	エアクリーナ	● エレメントの汚れ，ほこり	● 掃除	44
	エンジンオイル	● 油量は規定量（オイルゲージの上限線と下限線の間）あるか	● 規定量まで補給 クボタ純オイル G10W30 又は，API 分類 SE 級以上	41
	ホース，パイプ	● 油もれ	● 取付部の締付け，又は交換	45
エンジンを始動して機械を動かしてみて	エンジン	● 始動するか	● 購入先に連絡	—
	マフラ	● 異音はしないか ● 排気ガスの色に異常はないか		
	各操作レバー	● 各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか		—
	ブレーキペダル	● 踏込むと停止するか	● ブレーキペダルの遊び量を調整	49

重 要

＊ 処置しても異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。本製品は厳重な検査のもとに出荷されていますが，ならし運転はされていません。ならし運転期間中は各部がなじむまでは低速で走行し，過負荷な作業は避けてください。田植機の性能を最大に発揮し耐久力を維持するためには適正なならし運転が重要であり，新車時は次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期は，充分に暖機運転してください。
＊ エンジンは規定作業回転数以上に回さないでください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行してください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

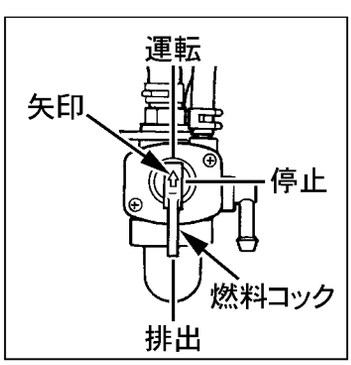
注 意

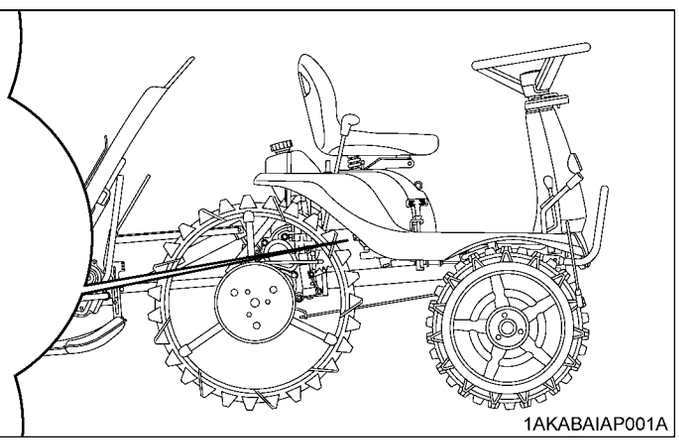
＊ 本書前編の黄色ページ［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みください。
＊ 田植機に貼ってある警告・注意ラベルを必ずお読みください。
＊ 排気ガス中毒を避けるため，換気が不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ エンジン始動前には，急発進を予防するため，主変速レバーを必ず（N）［中立］位置に戻してください。
＊ 始動操作は，周囲に合図をして，必ず運転席に座ってブレーキペダルを踏んで操作してください。
＊ 運転席への乗り降りは，転倒やケガをしないよう，必ずステップ横からゆっくり行なってください。
＊ 必ず運転席に座って行なってください。

■始動のしかた

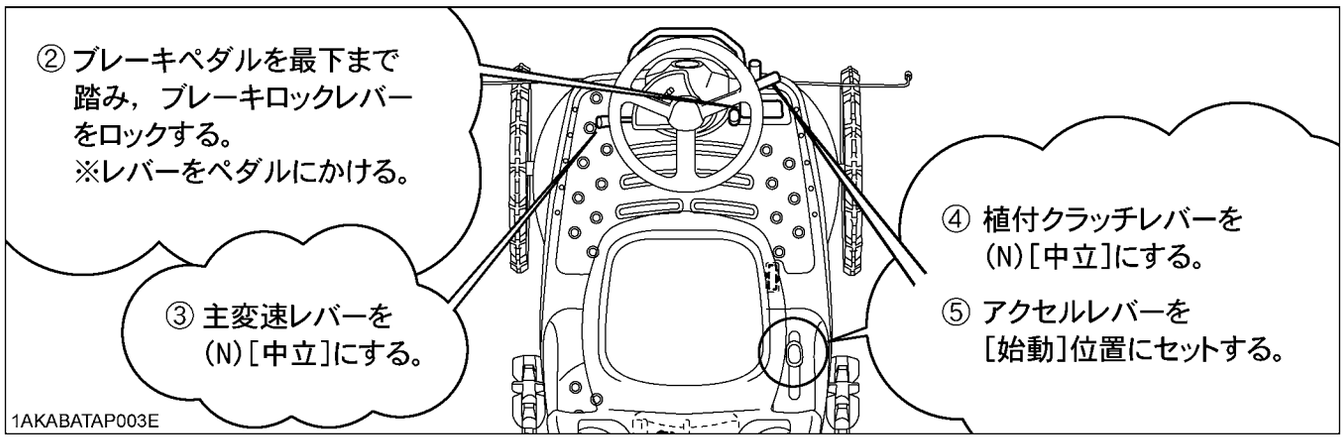
1. 燃料コックを開きます。

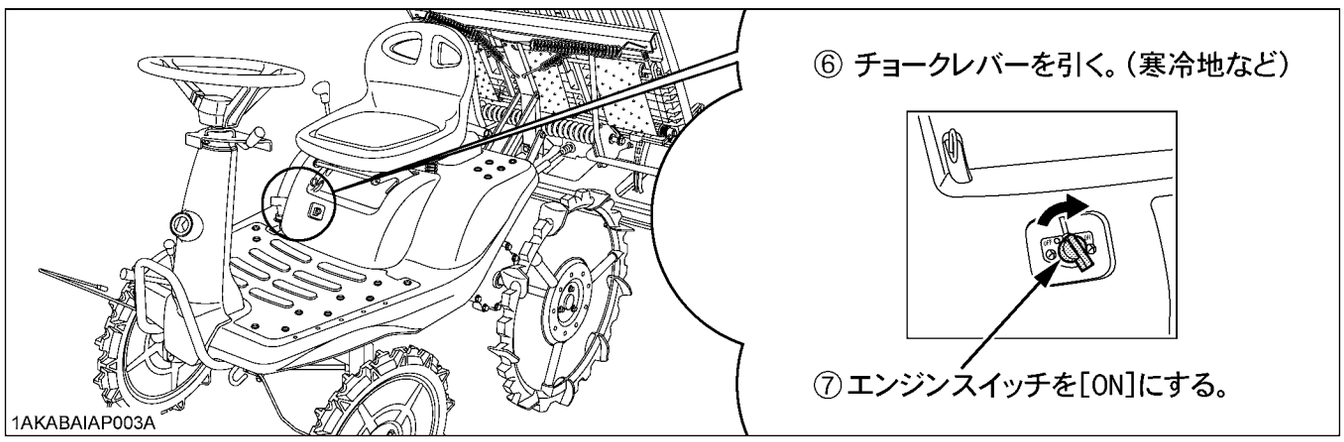
① 燃料コックレバーの矢印を［運転］位置に合わせる。



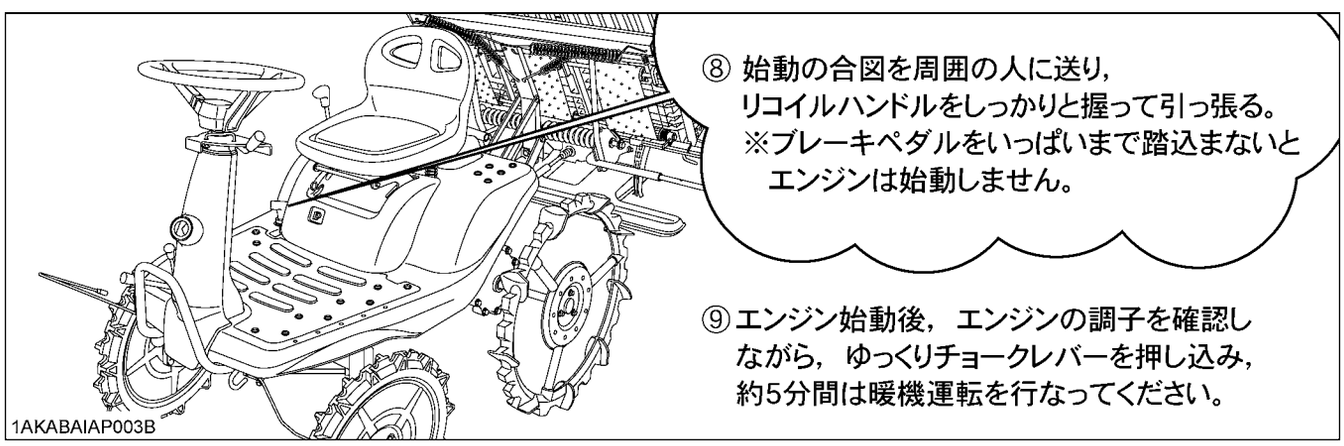


2. 各ペダル，レバーを規定位置にセットします。





3. リコイルハンドルを引きエンジンを始動します。



重 要

＊ 暖機運転はオイルを行き渡らせる作業です。始動後すぐに負荷をかけると破損の原因になります。
＊ 暖機運転が不十分だと，ペダルを離したときにエンジンが停止することがあります。

■停止のしかた

1. アクセルレバーを戻して**【低回転】**位置にします。
2. 主変速レバーと植付クラッチレバーが**(N)【中立】**位置にあることを確認する。
3. エンジンスイッチを**【OFF】**位置にしてエンジンを停止します。

移動走行と輸送

移動走行について

この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 機械には運転者以外は乗らないでください。
＊ 隣接マーカは機械前方に収納してください。
＊ 植付部は最上昇位置でロックしてください。
（植付部を下降した状態で走行すると，フロートが破損することがあります。）
＊ 苗はすべて降ろし，ステップには障害となる物は置かないでください。
＊ 苗ステーは，後方に倒れないようラックに取付けてください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）では，降りるか，あゆみ板を使ってください。
＊ あぜ越や傾斜地（あゆみ板や坂道など）を乗車して走行するときは，暴走や転倒を避けるため，下記事項に注意してください。
- **アクセルレバーを［低回転］位置，または主変速レバーを［あぜ越］位置にセットする**
- **あぜや斜面に対し直角に走行する**
- **上り方向は後進，下り方向は前進で走行する**
- **急なハンドル操作や主変速レバーの操作をしない**
- **下り坂で急にブレーキを踏込まない**

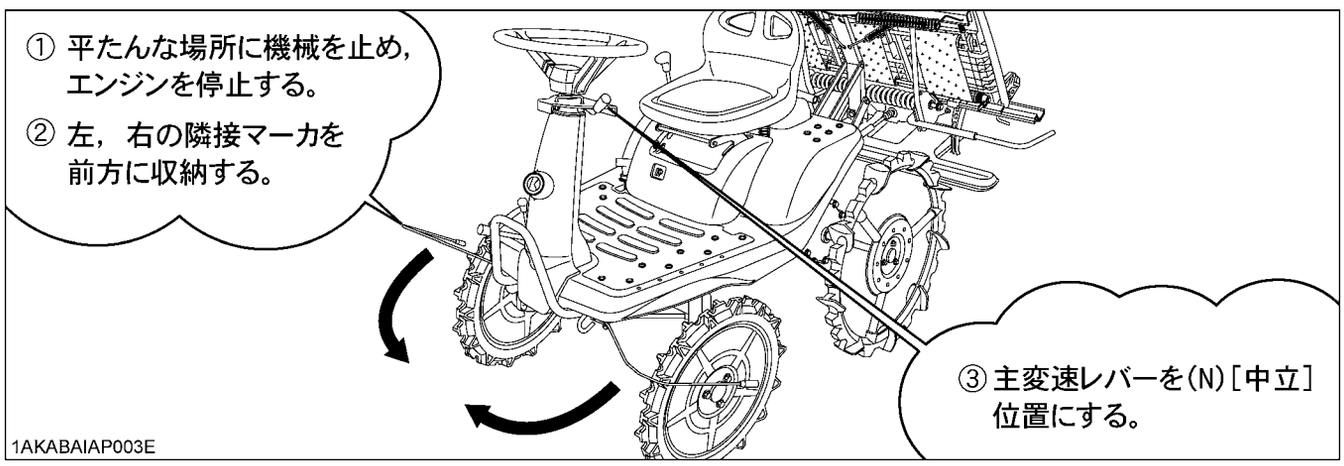
＊ 下記のようなところでは，暴走や転倒をするおそれがありますので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところ**
- **路面が草でおおわれて良く見えないところ**
- **左又は，右に大きく傾斜しているところ**

＊ 降りて走行するときは，下記事項に注意してください。
- **アクセルレバーを［低回転］位置，主変速レバーを［あぜ越］位置にセットする**
- **周囲の安全や足元に注意しながら走行する**
- **傾斜地では，主変速レバーを絶対に操作しない**
  （主変速レバーを（N）［中立］位置にするとブレーキが効かずに，機械が自重で動き出し急降下します）

■移動走行前の準備

注 意

＊ 苗のせ台にある苗や苗すくい板は，すべて降ろしてください。
＊ ステップの回りに物は置かないでください。
＊ 水平で平たんな場所で行なってください。

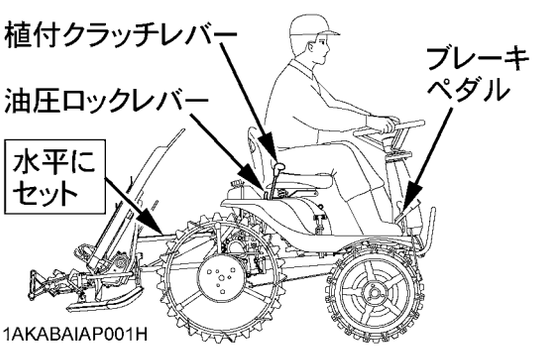


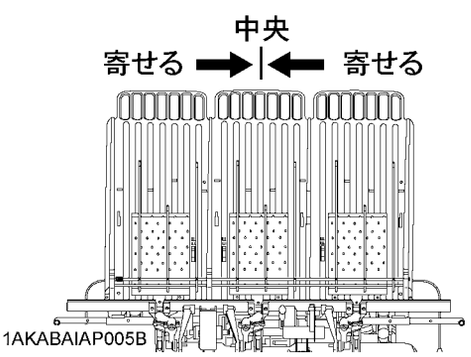
④次の手順で苗のせ台を機体中央に寄せます。
（走行時のバランスを良くするため）

- エンジンを始動する。
- 植付クラッチレバーを操作し，リンクが水平になる位置に植付部をセットする。
- 油圧ロックレバーを**［閉］**にする。
- 植付クラッチレバーを**［植付］**にする。
- ブレーキペダルをゆっくり上げる。

これで苗のせ台が横に動き出します。

- 苗のせ台の動きを確認しながら，機体中央まで来たらブレーキを踏んで止めます。



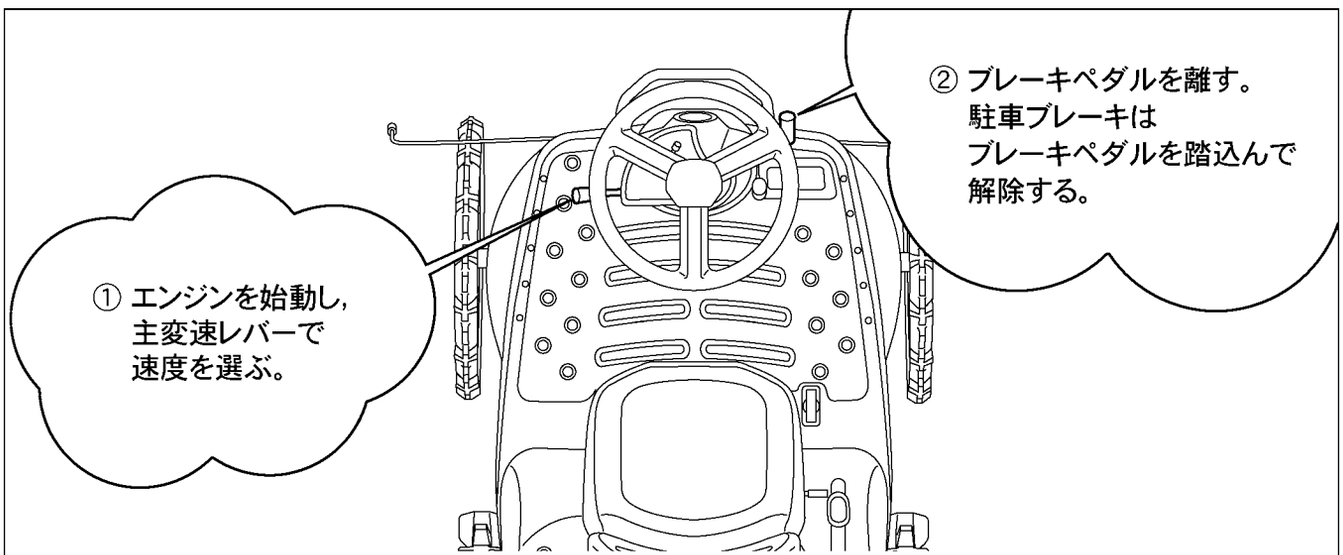


⑤油圧ロックレバーを**［開］**にして，植付クラッチレバーで植付部を最上昇にします。
⑥再び，油圧ロックレバーを**［閉］**にします。

■発進のしかた

注　意

＊ 始動操作は，必ず運転席で行なってください。
＊ 周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。
＊ 傾斜地で発進するとき及び主変速レバーを操作するときはブレーキペダルを必ず確実に踏込んでください。機体が動き出して急降下するおそれがあります。



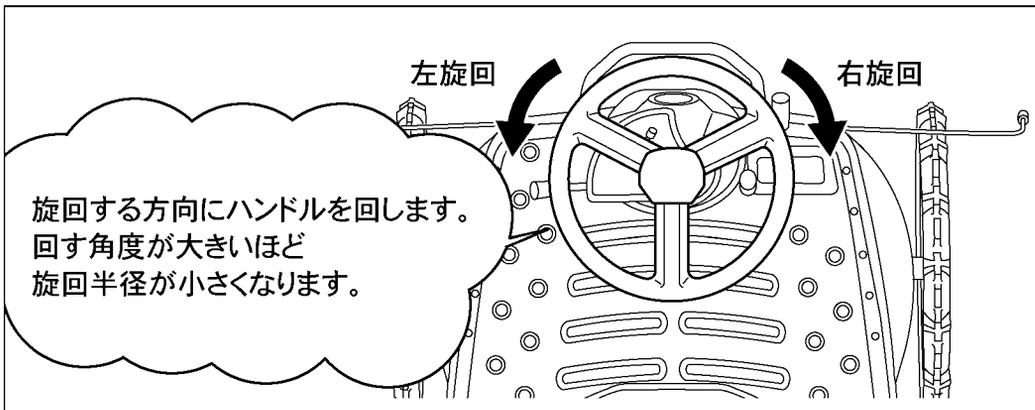
※アクセルレバーで作業に応じた速度に調節してください。

1AKABAIAP002F

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時に急旋回すると危険ですので，旋回前に必ず減速してください。
＊ 主変速レバーの切換えは平たんな場所で，ブレーキペダルを踏んで行なってください。



1AKABAIAP002C

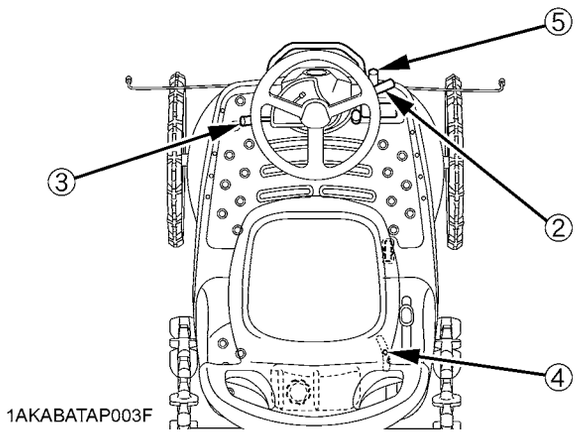
＊砂利道での急旋回は，タイヤが早く摩耗しますので避けてください。

■降りて走行するとき

注　意

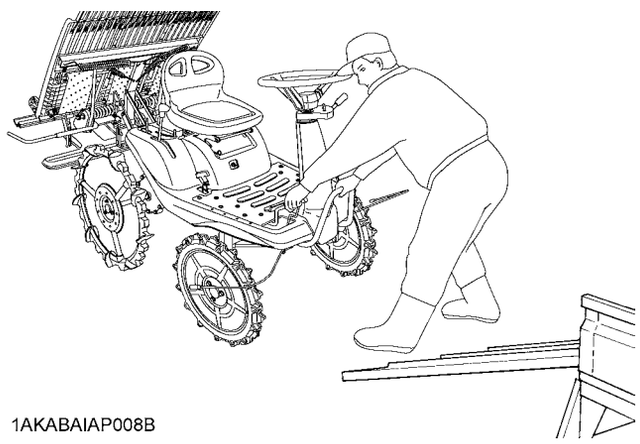
＊ 必ず前進（あぜ越速）で低速走行してください。
＊ 傾斜地では必ず前上がりで，あぜ越アームを持ち，前から操作してください。
＊ 傾斜地では主変速レバーを操作しないでください。
＊ 傾斜地で，やむをえずブレーキを操作するときは，素早くいっぱいまで押し込んでください。
＊ あぜ越アームを押さえたり横に振るときは，足元や周囲に充分注意してください。

1. 準備
   ①乗って始動した後，平たん地で停止します。
   ②アクセルレバーを**【低回転】**位置にします。
   ③主変速レバーを**【あぜ越】**位置にします。
   ④植付部を最上昇させ，油圧ロックレバーを**【閉】**にして油圧をロックします。
   ⑤ブレーキペダルをロックして機械から降ります。



1AKABATAP003F

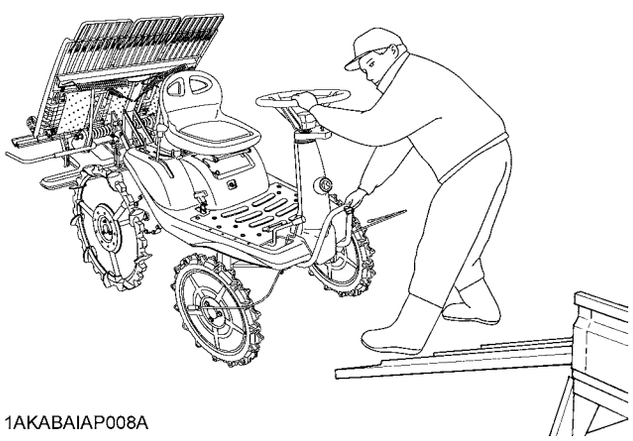
2. 発進・直進のしかた
   ①ブレーキペダルの斜め前に移動します。
   ②あぜ越アーム又はハンドルを右手で持ちます。
   ③あぜ越レバーでブレーキを解除します。
   ④発進したらハンドルを持ちます。
   ⑤足元と周囲に注意して移動します。


1AKABAIAP008B

3. 旋回
   ハンドルを回して操作します。

補　足

＊ あぜ越アームの使い方
☆傾斜地で，前が浮いたときに機体前方を押さえることができます。
☆平たん地で急旋回するときは，あぜ越アームを持って横に振ることもできます。


1AKABAIAP008A

移動走行と輸送

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ 田植機を離れるときは，平たんで安全な場所に置き，植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ 駐車ブレーキの操作は田植機の運転席に座って行なってください。
＊ 坂道やあぜ越などで，危険回避のために機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。
＊ 坂道で駐車するときは，ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けるだけでなく，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 平たんな場所で主変速レバーを**（N）［中立］**位置にします。
2. 駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
3. アクセルレバーを戻し，**［低回転］**位置にします。
4. エンジンを停止します。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積み込み・積み降ろしは平たん地で，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，下表の基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機械が接触しない位置に合わせてください。

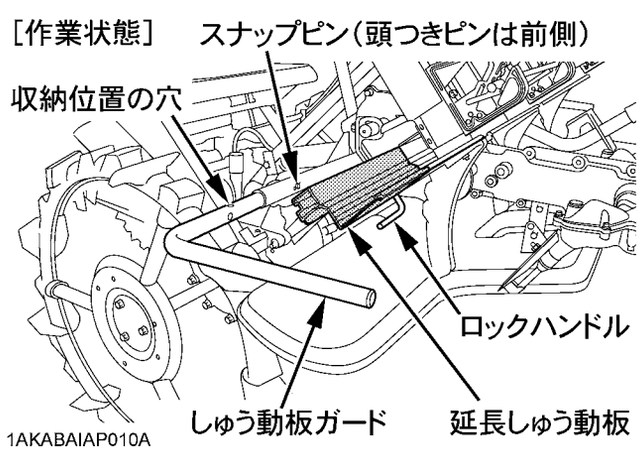
あゆみ板の基準

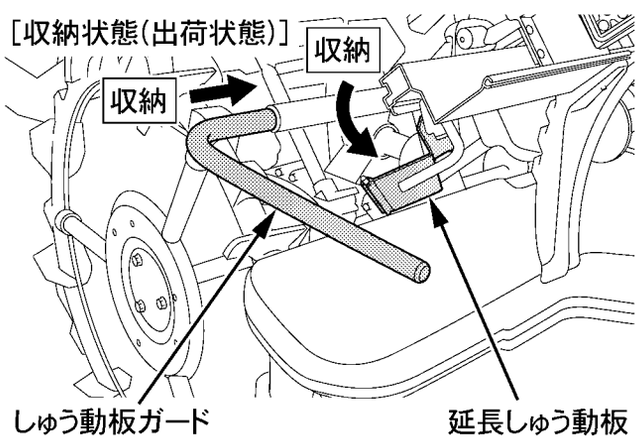
長さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm 以上
数量	２枚
強度	１枚が 250kg 以上の重量に耐えうる

■田植機の準備

苗のせ台の両端を収納しなくても軽トラックに積み込み可能です。

1. 苗や苗すくい板はすべて降し，隣接マーカを収納します。苗のせ台を中央によせ，植付部を最上昇位置で油圧をロックします。油圧ロックレバーを**【閉】**にするとロックされます。(13 ページを参照)
2. 狭い場所を通過するときは，左右の延長しゅう動板としゅう動板ガードを収納状態にします。
   (1) 延長しゅう動板はロックハンドルを回してゆるめ，前方に倒した状態でロックハンドルを軽く回してロックします。
   (2) しゅう動板ガードは，頭付きピンとスナップピンを取外し，パイプを押込んで，収納位置の穴に頭付きピンとスナップピンを取付けます。(収納状態での全幅は１ m です。)





補　足

＊ 収納状態（出荷状態）から，田植作業を行なうときは，しゅう動板及びしゅう動板ガードを作業状態に戻してください。
＊ しゅう動板を作業状態に戻すときは泥をきれいにふき取って，しゅう動板に段差やすき間が出来ないように締付けてください。
＊ しゅう動板を縦方向に向けた状態でも収納できます。

■田植機の積み込み・積み降ろしのしかた

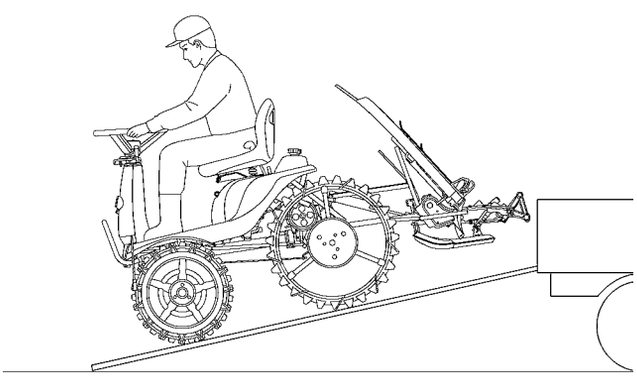
注　意

＊ 乗車しての積み込みは後進，降りての積み込みは前進（あぜ越速度）で，低速走行してください。
＊ あゆみ板の途中で，急にハンドル操作したり，主変速レバー，ブレーキの操作をしないでください。機械が急に降下する危険があります。
＊ 方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上がり下がりしてください。
＊ やむをえずブレーキを操作するときは，素早く奥まで操作してください。

[乗車走行をする場合]

◆ 下記事項に注意してください。

- 共同作業者は，あゆみ板を走行中の田植機から離れてください。
- 平たん地を選び，できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なってください。また，田植機の周辺に人を近づけないでください。



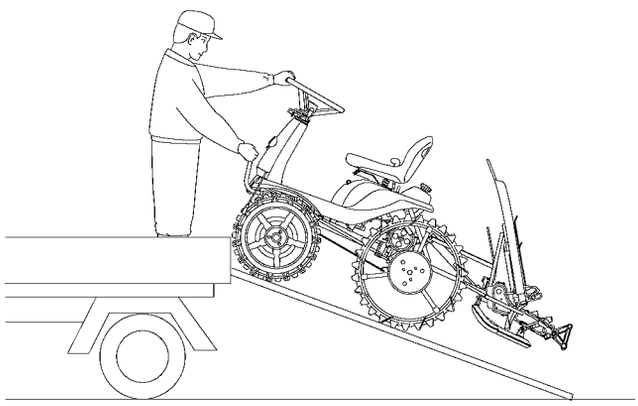
1AKABAIAP004D

1. 積み込みするときは，主変速レバーを**[後進]**位置に操作して後進で，積み降ろしするときは**[あぜ越]**位置に操作して前進します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左，右の前輪と後輪の中心を合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから，斜面に対して直角に積み込み・積み降ろしを行ないます。
3. 荷台に乗り終わったら駐車ブレーキを掛けて，走行を停止します。

[降りて走行する場合]

◆ 下記事項に注意してください。

- 機体を真っ直ぐにしハンドルを持って走行してください。
- 積み込むときは，あゆみ板の間に入らないでください。機械とトラックにはさまれ，ケガをするおそれがあります。
- 前輪が浮き上がるときは，あぜ越アームを押さえ，浮き上がりを防止してください。
- あぜ越アームに力を入れるときは，足元にじゅうぶん注意してください。



1AKABAIAP004C

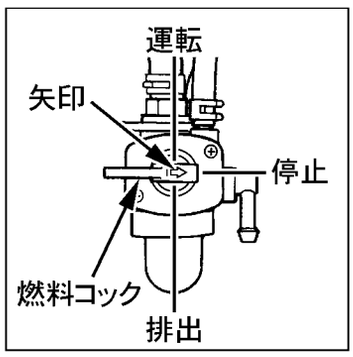
1. あゆみ板の前まで前進し，一旦停止します。
2. アクセルレバーを**[低回転]**位置にします。
3. 植付部を最上昇にし，主変速レバーを**(N)[中立]**にし駐車ブレーキを掛け降車します。
4. あゆみ板の中央に，左右の前輪と後輪の中心を合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから機械の左前方に立ちます。
5. 主変速レバーを**[あぜ越]**位置に入れ，ハンドルを持ちながら，駐車ブレーキを解除して左側のあゆみ板を渡ります。
6. 荷台への積み込みが終わるとあぜ越レバーを押さえ，駐車ブレーキを掛けます。
7. 荷積み降ろしは，逆の手順で行ないます。

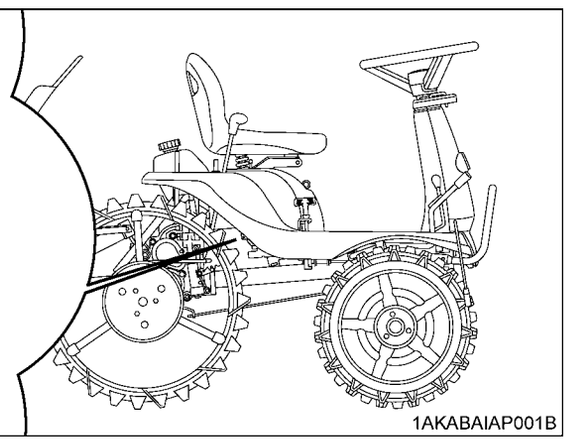
■トラック上での処置

注　意

＊ 駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

① エンジンを停止し，燃料コックを閉じ［停止］位置にします。
＊トラック輸送時の燃料もれ防止

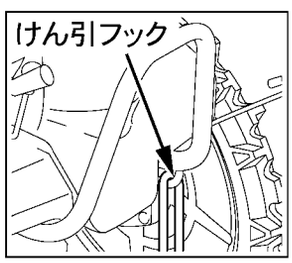




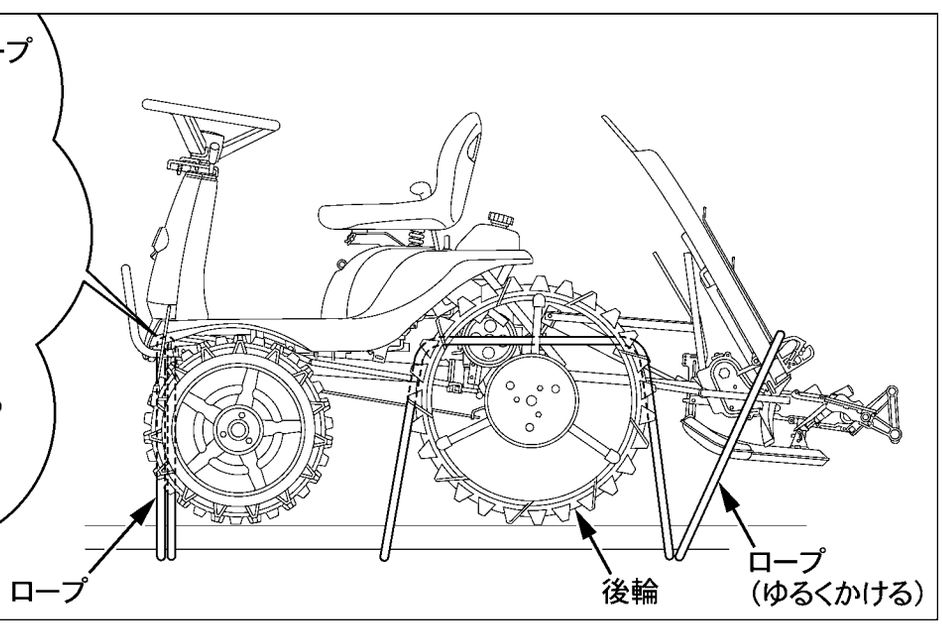
重　要

＊ 植付部が破損するおそれがあるので，フロートをあおりの上に乗せた状態で運搬しないでください。

② 後輪及びけん引フックにロープを掛けて機体を固定します。



＊機械前部にロープを掛けるときは，けん引フック以外のところに掛けないでください。



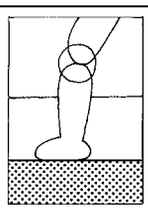
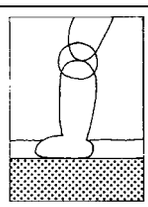
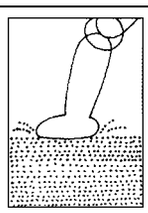
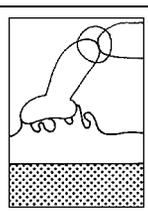
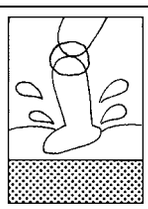
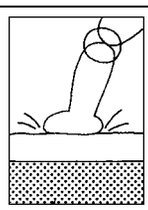
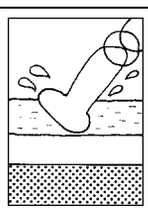
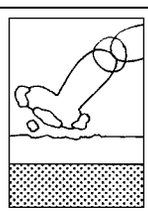
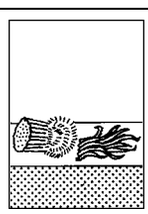
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件，苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

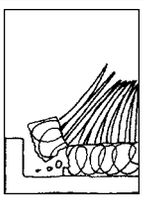
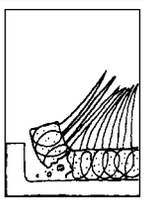
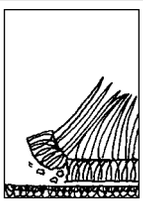
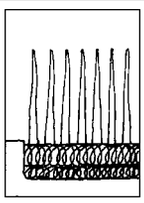
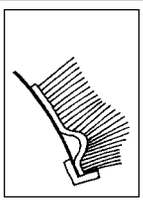
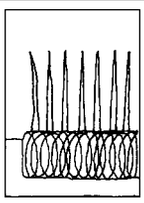
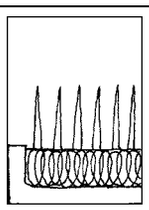
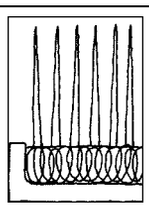
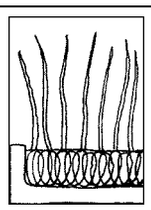
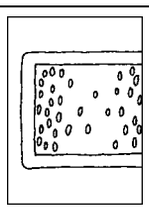
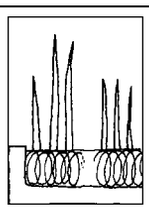
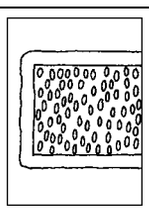
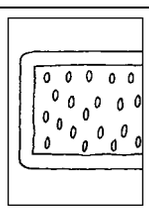
■ほ場条件

ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので，最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センターなど）や経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
深さ	1. 耕盤までの深さが 30cm 以上ある深いほ場。 	2. 耕盤までの深さが 10cm 以下の浅いほ場。 
土質	1. 砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場） 	2. 強粘土質のほ場 （歩くのが困難な粘いほ場）。 
硬さ	1. 代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。 	2. 代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。 
水深	1. 水深の平均が３ cm を越える水の多いほ場。 	2. 水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。 
夾雑物	1. 裏作跡などで，刈り株・排ワラ又は雑草が十分腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。 	

■苗条件

苗づくりは，各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センターなど）の指導を仰いだり，経験者に相談して，良い苗（健苗）づくりを行なってください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
苗床	1. 砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。 	2. 根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。 
	3. 根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。 	4. 根の張り過ぎた，植付け爪のささりにくい苗。 
	5. 苗床厚（マット厚）が２ cm 以下の，薄い苗。 	6. 苗床厚（マット厚）が４ cm 以上の，厚い苗。 
草丈	1. 草丈が８ cm 以下の，短い苗。 	2. 草丈が 20cm 以上の，長い苗。 
素質	1. 軟弱徒長苗 	2. 播種ムラのひどい苗。 
		3. 成育ムラや成育不良のある苗。 
播種量	1. 催芽もみで，1 箱当り 250g 以上の，厚播きの苗 	2. 催芽もみで，1 箱当り 100g 以下の，薄播きの苗。 

田植作業のしかた

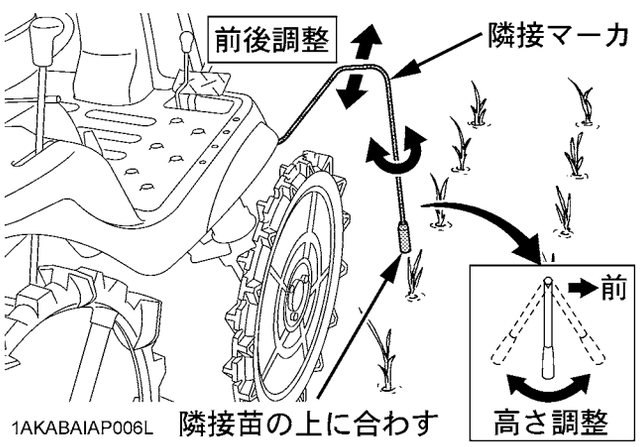
田植機の準備

警　告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

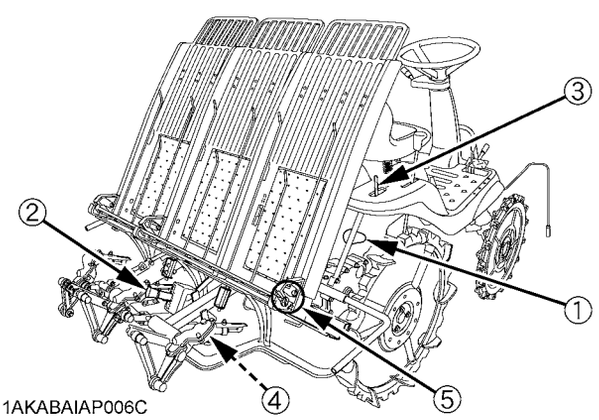
■作業前の準備

1. 隣接マーカを作業状態にセットします。
   ※高さは，ほ場の位置にあわせて角度調整してください。



2. 下記項目を好みの位置にセットします。
   ①植付株数切替えギヤ
   ②苗取り量レバー
   ③フィットセンサレバー
   ④植付深さ調節ピン
   ⑤苗ステー・苗押さえ棒

   ※各項目の詳細は 28 ページを参照してください。
   ※基準が解りにくいときは，参照ページに記載の標準位置にセットしてください。
   ※少し植付けた後で植付状態を確認し，適正でない項目があれば再度調節してください。



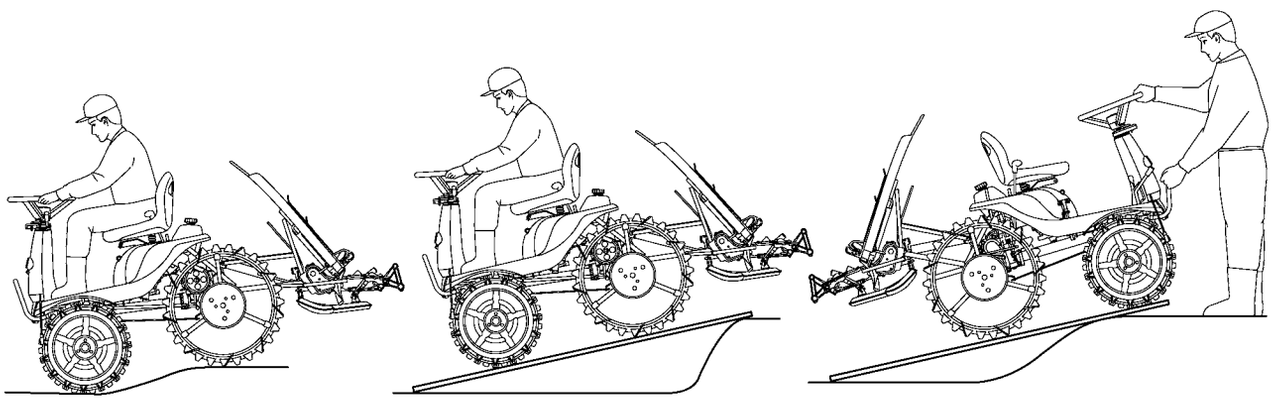
植付作業のしかた

注　意

＊ 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
＊ 川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。
＊ 乗り降りや機械の上で作業を行なうとき，主変速レバーに体が接触すると機械が発進するおそれがあります。必ず駐車ブレーキを掛けてください。

■ほ場の出入りのしかた

緩やかなあぜでは乗って前進方向でほ場に入ります。
急なあぜは，あゆみ板を使用してほ場に入ります。
必ず主変速レバーを**［あぜ越］**位置にし，アクセルレバーを**［低回転］**位置にし，下記の注意を守り走行してください。

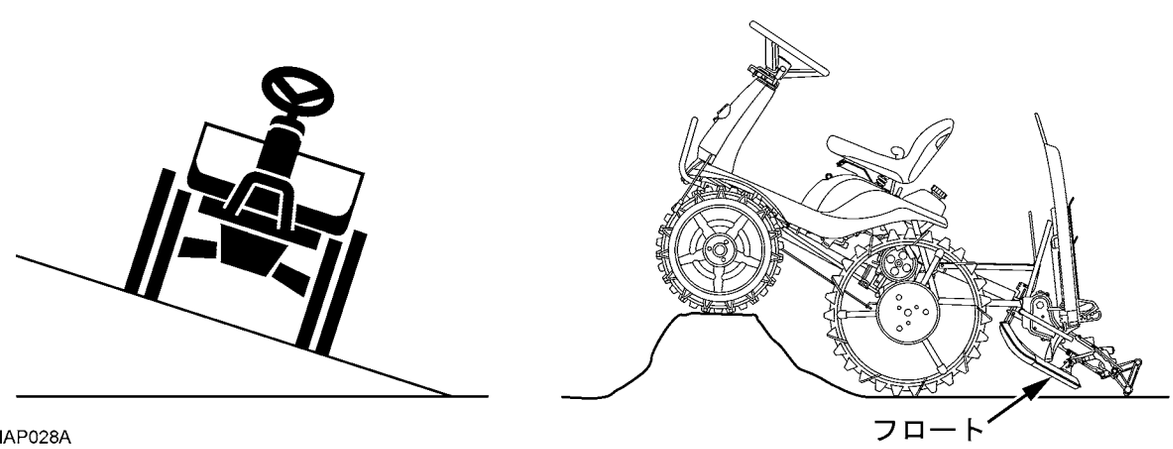


ゆるい所で前進　　あゆみ板使用　　降りて後進　　1AKABAIAP205A

注　意

＊ あぜ越や急な傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，暴走や転倒をするおそれがありますので，下記事項に注意してください。
- **走行速度を落とす。**
- **あぜや斜面に対し，直角に走行する。**
- **上り方向は後進，下り方向は前進で走行する。**
- **主変速レバーは途中で操作しない。**

＊ 右又は，左に大きく傾いた所では，転倒するおそれがあるので走行しないでください。
＊ 下記条件の場合は，必ずあゆみ板を使用してください。
- **機械が傾くと滑り落ちるところ**
- **機械が右又は左に大きく傾くところ**
- **あぜやコンクリート畦畔など，10cm 以上の段差のあるところ**
- **段差や傾斜角度が大きく，植付部を最上昇にしてフロートが地面に当たるところ**



1AKABAIAP028A

＊ 降りて走行するとき，前輪が浮き上がるときは，あぜ越アームを押さえ，浮き上がりを防止してください。
＊ あぜ越アーム使用時は，足元に充分注意してください。

田植作業のしかた

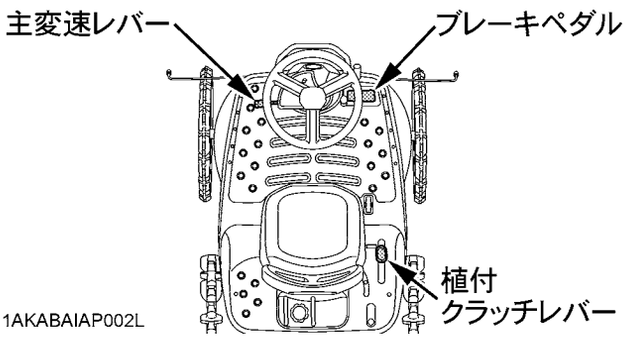
■植付作業の手順

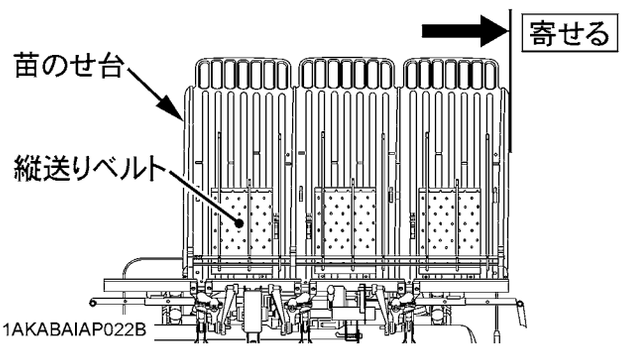
注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは，安全のため低速で注意しながら行なってください。
＊ 苗のせ台を横に移動するときは，必ず機械が動かないような水平で平たんな場所で行なってください。

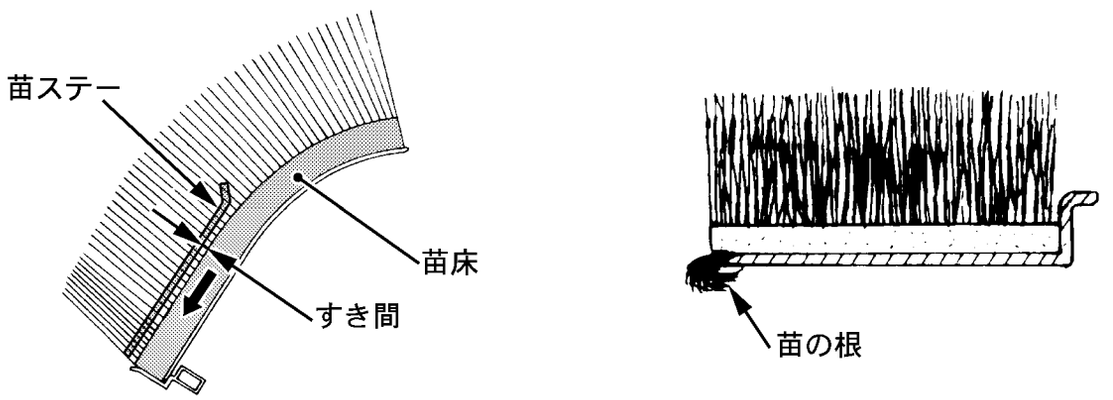
◆ 苗補給の手順（初回補給時）

1. ほ場に入り，苗補給位置まで移動します。
   ※植付部を降ろし移動した方がほ場が荒れません。
   ※急旋回するときは，いったん植付部を上げます。
2. 苗のせ台の横送りができる状態にセットします。
   ①駐車ブレーキを掛けます。
   ②主変速レバーを**（N）［中立］**位置にします。
   ③植付クラッチレバーを**［植付］**位置にします。
3. 苗のせ台を最右又は最左の端に寄せます。
   ①ブレーキを解除し，横送りを開始します。
   ②最端まで移動して，縦送りベルトが少し回転したら，植付クラッチレバーを**［植付］**から**［下降］**にして止めます。
4. 駐車ブレーキを掛け苗補給をします。



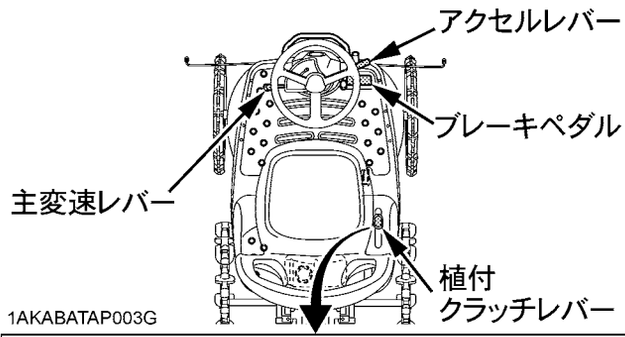


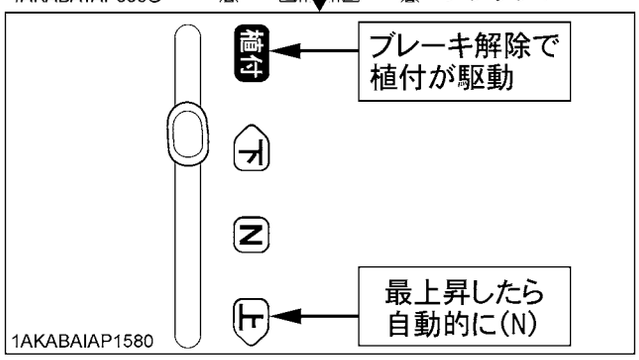
＊ 苗のせ台が端に寄っていない状態で初回の苗補給をすると，欠株する原因となります。
＊ 補給時には，苗がくずれ落ちないよう苗ステーとのすき間を確認してください。(28 ページから始まる**作業に合わせた各部の調節・調整**の **４．苗ステー・苗おさえ棒の調節**を参照)
＊ 苗すくい板の先端に苗の根がからみついて，固まりができることがあります。
この根は必ず取除いてください。そのまま入れると欠株の原因になります。



◆ 植付（直進，旋回）の要領

1. 植付作業を開始します。
   ①植付開始位置まで移動し，ブレーキペダルをロックします。
   ※ 26 ページの植付手順を参照してください。
   ※主変速レバーは好みの位置で結構です。
   ②植付クラッチレバーを**【植付】**位置にして，植付部を降ろします。
   ③主変速レバーを**【植付】**位置にして，ブレーキを解除すると植付が始まります。
   ※アクセルレバーは**【低回転】**位置から始めて，好みの位置まで増速してください。



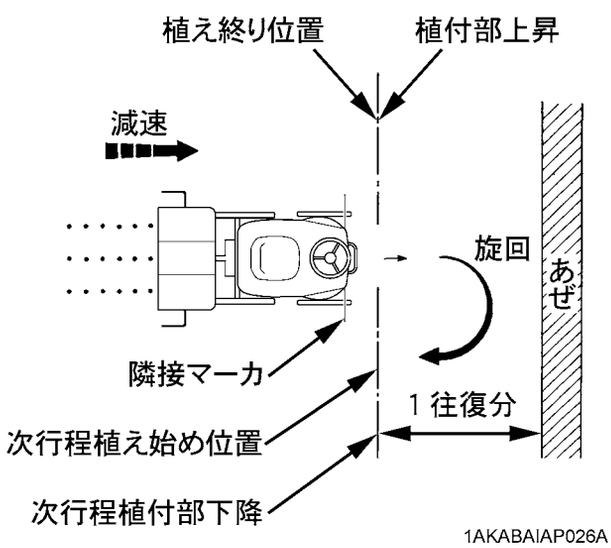


重　要

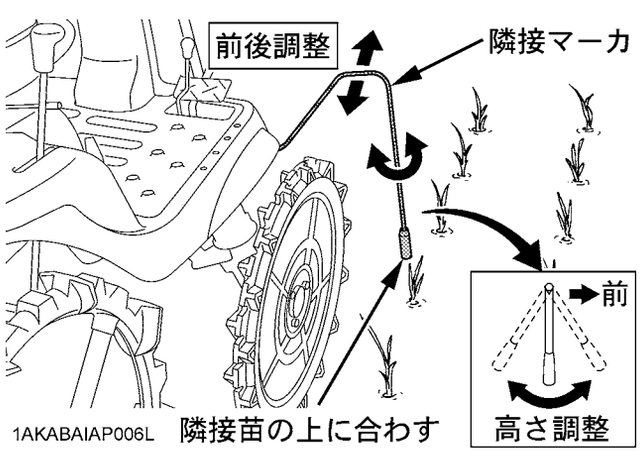
＊ 植付作業時は必ず主変速レバーを**【植付】**位置にします。**【あぜ越】【移動】**では株間と植付姿勢が崩れ，植付不良になります。
＊ 第一列を植えるときは，5 m ほど植えたら一度停止し，植付本数，深さや植付状態などを確認してください。

2. 直進を植え終わったら旋回します。

①植付クラッチレバーを**【上】**位置にします。
※最上昇後，植付クラッチレバーは自動的に**(N)【中立】**に戻ります。
②ハンドルを切って次の植付位置に移動
※ゆっくり廻りたい時はアクセルレバーで減速します。
※変形田等で廻りにくいときは，一度止まるか，切返してください。
※深田・軟弱地で旋回しにくいときは下記で補助してください。
☆前が浮く時は少し体を前に倒す。
（又はオプションウエイト）
☆スリップが激しいときは少しハンドルを戻す。



③直進植付を再開します。
※隣接マーカを，前回植付けた苗の最後の条に合わせてください。



補　足

＊ 植付の順路は 26 ページを参照してください。

田植作業のしかた

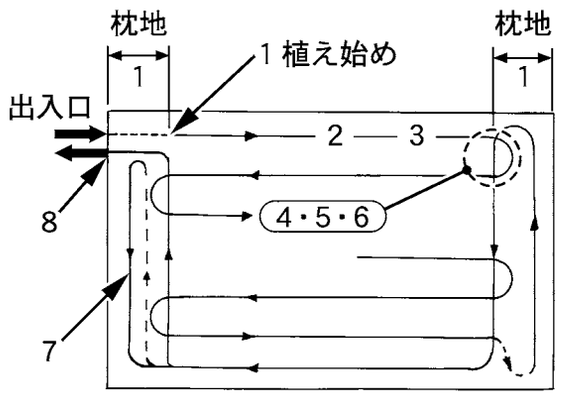
◆ 枕地の植えかた

ほ場の外周にあわせ，ゆっくり植えます。
☆あぜとの間隔は隣接マーカで確認します。
☆少し「フィットセンサレバー」を硬めにした方がきれいに植わります。

■植付手順

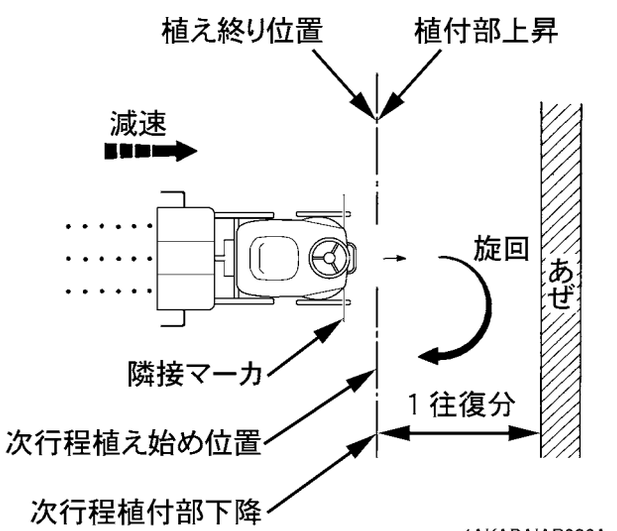
ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なります。植付手順の例をいくつか紹介しますが，出入口の位置，日照方向等によっても手順は変わりますので，購入先に事前に相談してください。

１．長方形田



1AKABAIAP025A

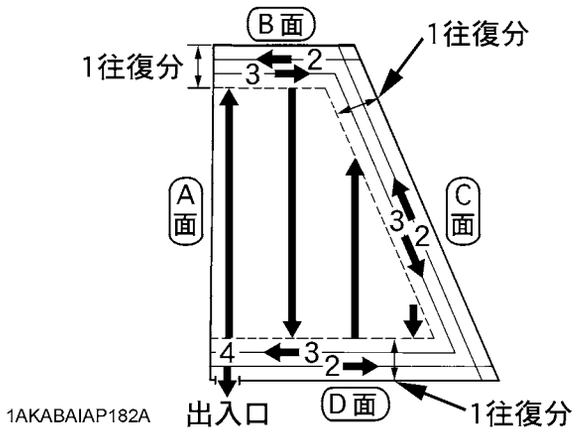
1. １往復分残した位置から長辺方向に植始めます。（反対側の枕地も１往復分残します。）
   ※アクセルレバーを操作し，好みの速度まで上げます。
   ※１往復分は 2.0 ～ 2.1m（６条分）
2. 枕地が近づくと，アクセルレバーで減速し，植付部を上昇させます。
3. 次に植える側に旋回します。
4. 植付部を接地するまで下降させます。
5. 隣接マーカを，隣接苗に合わせて植始めます。



1AKABAIAP026A

6. 次行程から同じ作業を繰り返します。
7. 長辺方向の最終行程の前に，条合わせが必要なときは，あぜぎわ植えを始めます。
8. 枕地を植付けて出入口から出ます。

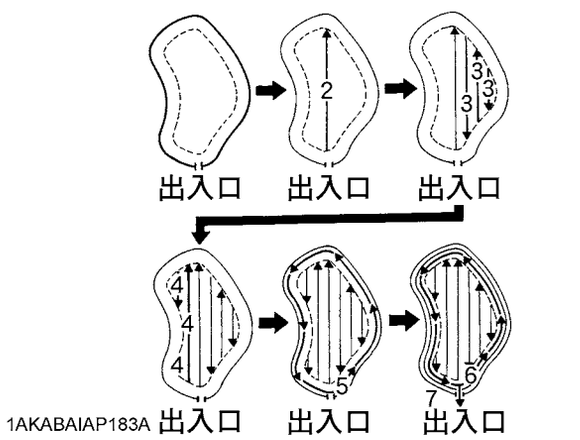
２．台形田（A 面基準）



1AKABAIAP182A

1. B，C，D 面に一往復分の枕地を残して，A 面（長辺方向）植付けます。
2. D，C，B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B，C，D 面の順に残った所を植付けます。
4. 出入口から出ます。

３．変形田

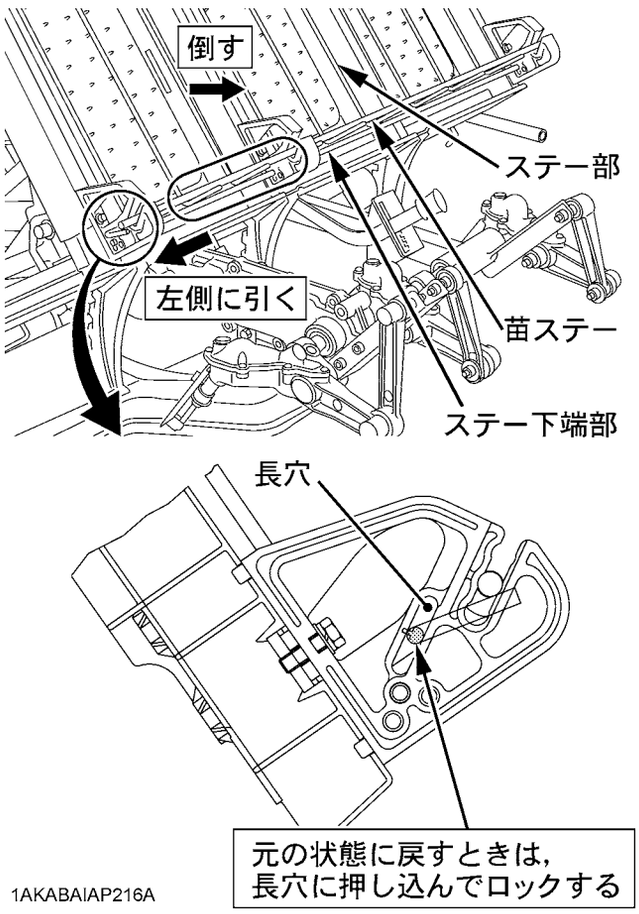


1AKABAIAP183A

1. あぜのまわりに，２往復分の枕地を残します。
2. 長辺側をまっすぐ植付けます。
3. 2. で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜに沿って１周を植付けます。
6. 5. の残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

■残り苗の取り出し方

1. 必ず先にエンジンを停止します。
2. 苗ステー下端を左に引きロックを解除します。
3. 苗ステーを後方に倒し，苗を取り出します。
4. 苗を取り出した後は，必ず苗ステーを右側に押し込んで，元のロック状態にしてください。



重　要

＊ 苗を押さえるステー部を持つと曲がったり，破損するおそれがありますので，ステー下端部を持って操作してください。

◆ 安全クラッチについて

安全クラッチは，植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったとき，破損防止のためにはたらく機能です。ガッガッと高い音がしたときは，下記の手順で処置してください。

警　告

＊ 点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず停止してください。

1. 作業をいったん中止したあと，エンジンを停止します。
2. 駐車ブレーキを掛け，主変速レバーを **(N)［中立］** 位置にします。このとき，植付クラッチレバーは **［植付］** 位置の状態にしておきます。
3. 植付爪の異物を取除きます。
4. 異常がないことを確認後，植付作業を再開します。

重　要

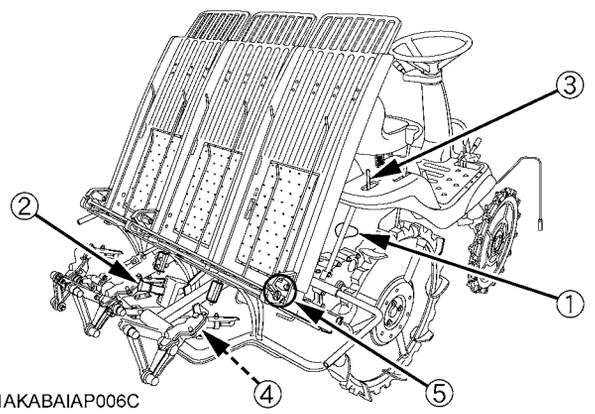
＊ 安全クラッチがはたらいている状態を続けると，植付爪や押出し金具が破損したり，安全クラッチの摩耗により安全クラッチが作動しやすくなり，植付不良が起こりやすくなります。

＊ 異物を取除いたあと植付爪や押出し金具の破損や変形がないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。(46 ページ参照)
また，植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり，重い場合は購入先に連絡してください。

作業に合わせた各部の調節･調整

次の項目を，ほ場や苗の条件に合うよう調節してください。

①植付株数切替えギヤ
②苗取り量調節レバー
③フィットセンサレバー
④植付深さ調節ピン
⑤苗ステー・苗押さえ棒
※横送り回数の仕様は 26 回です。
（20 回はオプション対応）



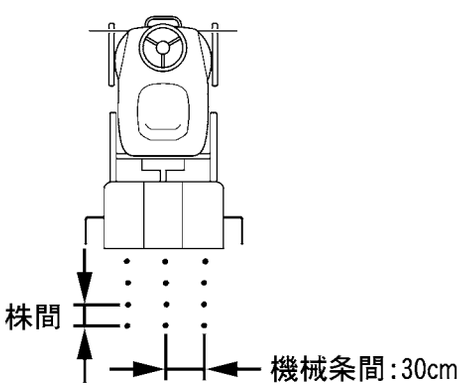
1AKABAIAP006C

警 告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキを掛けて行なってください。

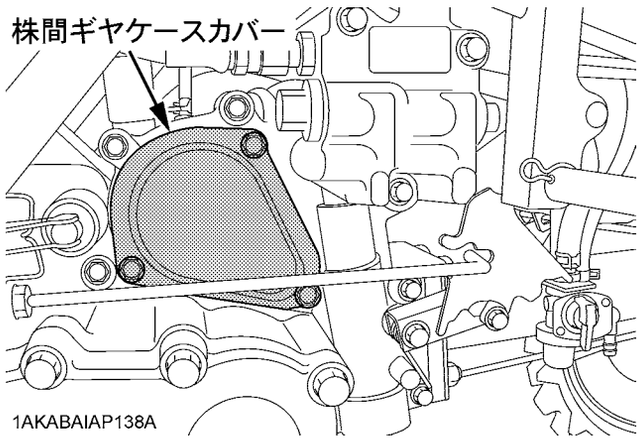
１．植付株数の調節

株間ギヤの組替えで調整します。
選べる株数は次表の４通りです。
植付株数は株間が広くなるほど少なくなります。



1AKABAIAP136A

1. 主変速レバーを **(N)［中立］** 位置にしてエンジンを停止します。
2. 植付クラッチレバーを **(N)［中立］** 位置にします。
3. 主ミッションケースの右後輪内側にある株間ギヤケースのカバーを取外します。

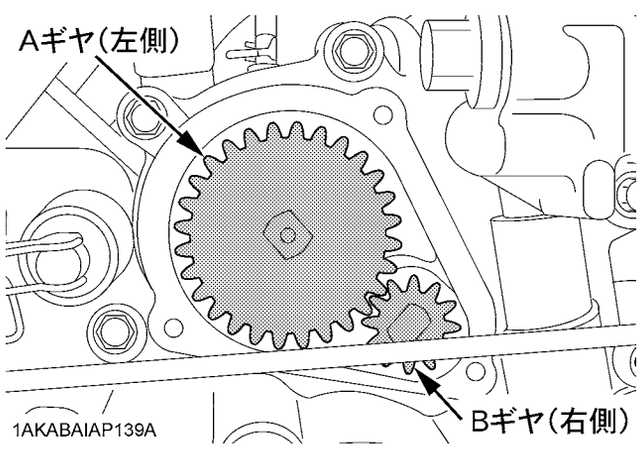


1AKABAIAP138A

4. 下表を参照して目標の株間になるギヤに組替えます。

株間（cm）	14	16	**18**	21	24
株数（株/3.3㎡）	80	70	**60**	50	45
A（歯数）	26	28	**28**	30	30
B（歯数）	14	13	**12**	11	10
備　考	オプション	13 ギヤは付属品	**出荷時**	オプション	オプション

5. 株間ギヤケースのカバーを取付けます。
6. 念のため，植付作業を少しした後，植付状態を確認してください。



1AKABAIAP139A

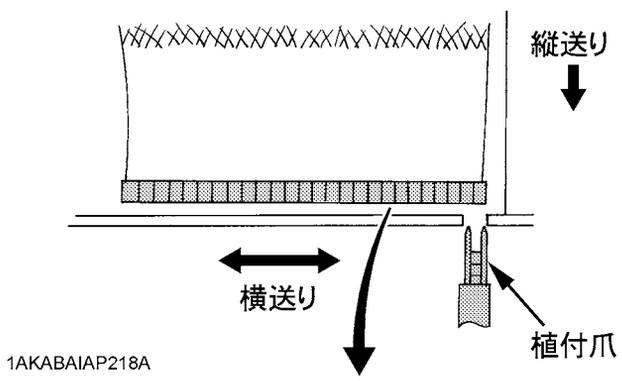
補 足

＊ この株数は車輪スリップ率 10％での表示です。

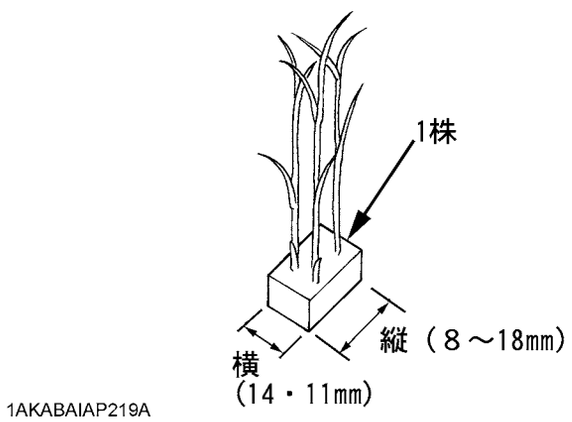
◆ 苗取り量調節レバー

植付爪が取出す１株あたりの本数の調節するレバーです。

※１株の適正本数は条件によって異なりますが３～５本が標準です。



1AKABAIAP218A



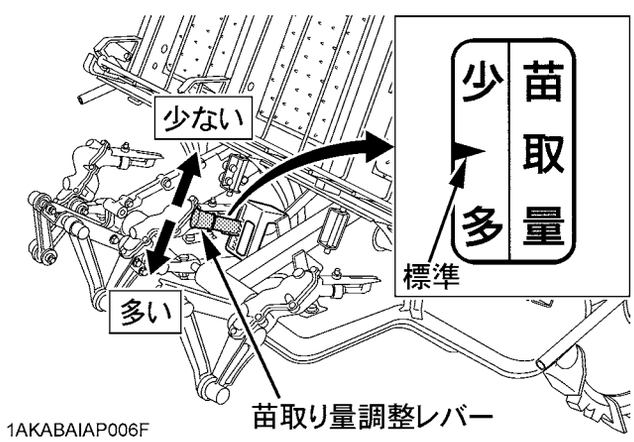
1AKABAIAP219A

◆ 調節方法

苗や苗床によってレバーを調節してください。

調節は８～ 18mm まで７段階行なえます。

切替え時はレバーを確実にガイド溝の奥まで差込んでください。



1AKABAIAP006F

◆ 植付株数と苗の使用量について

10 アール（ａ）あたりの苗の使用量は，栽植密度（植付株数）と１株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して，苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

横送り回数（回）	苗取り量レバー位置	3.3㎡当り株数（株）				
		45	50	60	70	80
26	４段目	12	14	16	18	21
20	４段目	16	18	21	23	27

※ 20 回送りはオプションです。

※苗取り量レバー位置は，上（**[少]**ない）から数えた位置。

※□ 枠内は，目安の苗箱（箱）の使用量です。また，播種量は稚苗 200 ～ 220g，中苗 100g を基準にして算出します。

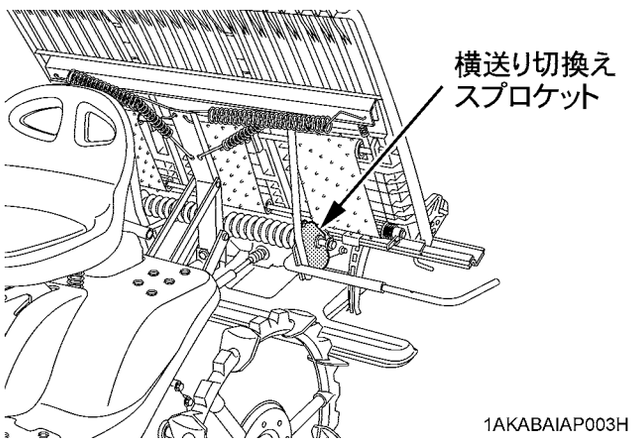
※出荷時は 60 株位置です。

補　足

＊ 苗取り量（縦取り量）のレバーを１段変更すると，苗箱は 10 ～ 12％増減します。

＊ 上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。

＊ 横送りの切替えは植付部左下横の「横送り切替えスプロケット」カバー内の部品交換で切替えます。



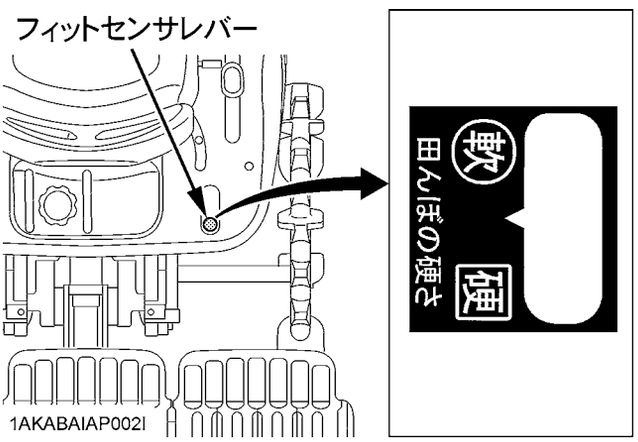
1AKABAIAP003H

警　告

＊ ケガのおそれがあるので，レバー操作時は，エンジンを止めること。

2．フィットセンサレバー

植付時に植付部のフロートがほ場を押さえる強さを調整するレバーです。
ほ場が軟らかく泥を押したり，凹凸が充分整地されていないときは感度調節してください。
調節は７段階できます。



● 設定位置

ほ場状態を確認しながら，レバーで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

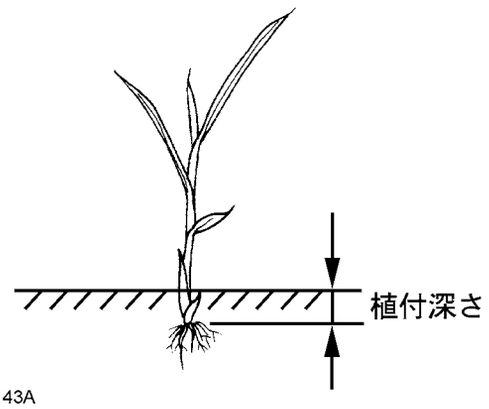
ほ　場　状　態		設定位置
軟らかい ↑ 標準 ↓ 硬い	● トロトロした状態で，泥押しをする。	1 ～ 3
	● 整地も良く，泥押しが少ない。	4
	● 硬くて整地が悪い。	5・6
	● 凹凸が激しく，荒れている。（車輪跡や足跡が残っている。）	7

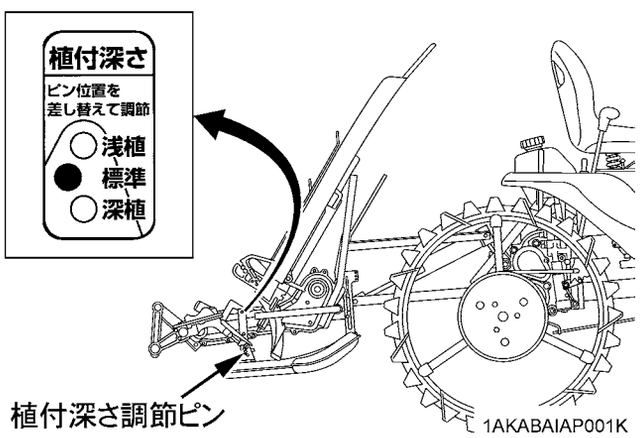
補　足

＊ 調節を行なったときは，植付深さの調節も同時に行なってください。
- **［軟らかい］→［硬い］**に変更すると植付深さが深くなることがあります。
- **［硬い］→［軟らかい］**に変更すると植付深さが浅くなることがあります。

3．植付深さ調節

ほ場や苗の条件に合わせて，苗の植付深さの調節をフロート金具のピン穴の差し替えで行なってください。調節は２～４ cm まで３段階行なえます。





1. 植付部を最上昇させ，油圧ロックレバーを**［閉］**にして油圧をロックします。
2. フロート右側の金具のピンを抜きます。
3. フロートを左に寄せて，左側金具のピンを抜きます。
4. 2.3. の逆の行程でピン位置を変更します。

重　要

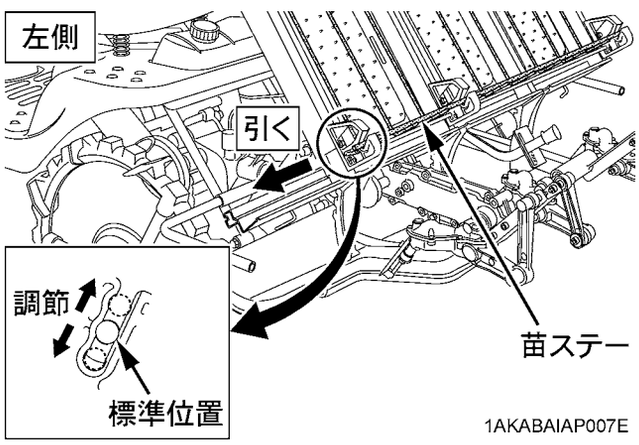
＊ 必ず，ピン穴位置は左右同じ高さにセットし，最奥まで押し込んでください。

4．苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗の厚さや，苗床の状態（薄くて軟弱，根張りが悪いなど）に合わせて位置を調整します。
苗と苗ステーの隙間が多いとき，苗が崩れ落ちたり前後に倒れたりするとき，苗を押さえ過ぎて苗の縦送りが悪いときは位置を調整してください。

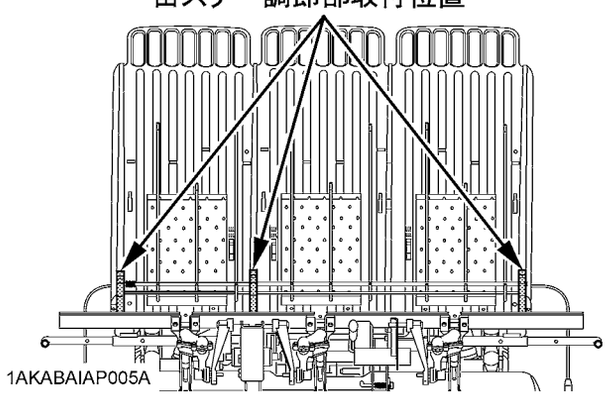
◆ 苗ステー

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. 苗ステーを苗床表面とのすき間が１～ 1.5cmになる位置に変更します。
3. 左，真中，右のそれぞれ３段階ある調節部で，苗床と苗ステーのすき間が均等になるように上，下に動かして調整します。



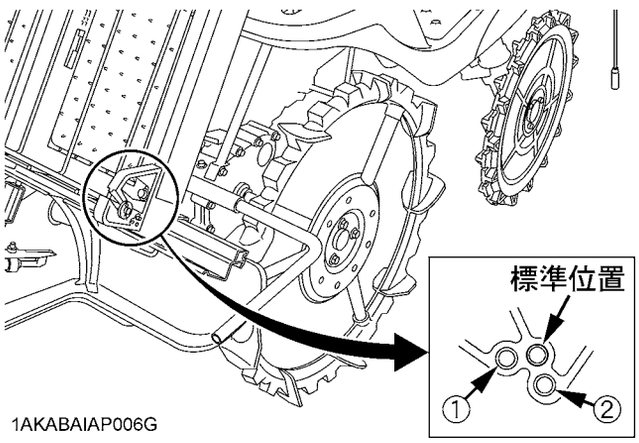
1AKABAIAP007E

苗ステー調節部取付位置


1AKABAIAP005A

◆ 苗押さえ棒

1. 植付部を下降させたあと，エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと，ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと，スナップピンを取付けます。



1AKABAIAP006G

● 調節位置

現　　象	取付穴位置
● 苗が短い。 ● 植付けたとき，苗が後に倒れる。 ● 苗床が軟弱で，植付けるとバラケやすい。	標準→② 又は， ①→標準
● 苗が長い。 ● 植付けたとき，苗が前に倒れる。 ● 苗が押さえ棒に引掛かり，しゅう動板まで降りてこない。	標準→① 又は， ②→標準

メンテナンス

1. 植付作業後の手入れ……36 ページ～

＊ 田植作業後に行なう，日常の手入れの項目です。
39 ページの給・注油点検一覧も参照し，丁寧に手入れを行なってください。

2. 定期点検……38 ページ～

＊ 田植作業を行なう人が定期的に行なう点検項目です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，性能が低下します。
これを放置しておくと，故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命が縮まります。
性能がいつまでも発揮できるよう定期的に点検を行ないましょう。
＊ 38 ページの一覧表以降のページをよく読み，安全作業を行なってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合，及び定期点検一覧表に☆印のある項目は，購入先に御相談ください。
＊ 点検，交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従って，一つの目安として早めの点検をお願いします。

警　告

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて，各レバー類を（N）［中立］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。

注　意

＊ 植付部を上げた状態で作業を行なうときは，油圧ロックレバーを［閉］にして油圧をロックし，植付部の下降防止を行なってください。
＊ カバー類を開けるときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイルの補給中は火気厳禁。
＊ 燃料やオイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

各部の開閉と脱着のしかた

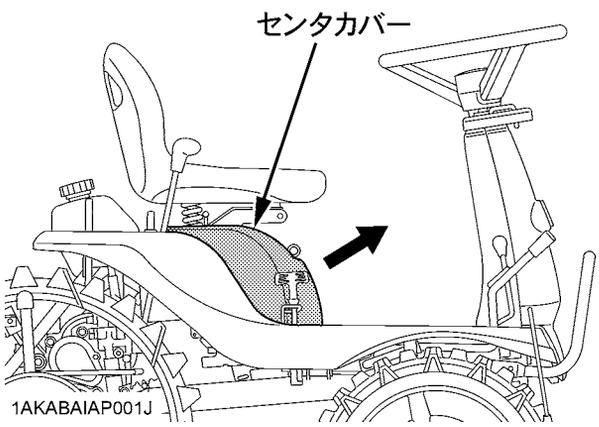
警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

■センタカバーの脱着のしかた

◆ 取外しかた

1. カバー４ヶ所の爪を外し，前方にカバーを引き出します。



各部の掃除のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 植付部を上げた状態で作業するときは，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 植付爪の爪先には注意してください。

■掃除のしかた

一日の作業が終わったあとや長期格納前は，各部の泥やゴミの掃除を必ず行なってください。掃除するときは，高圧水などを使用すると，泥落としが早く行なえます。

補　足

＊ エンジン上部に泥が付着しているときは，水で軽く洗い流してください。ただし高圧洗車機は使用しないでください。

各部の注油のしかた

■注油のしかた

機械各部の掃除が終わったあとや長期格納前又は，田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

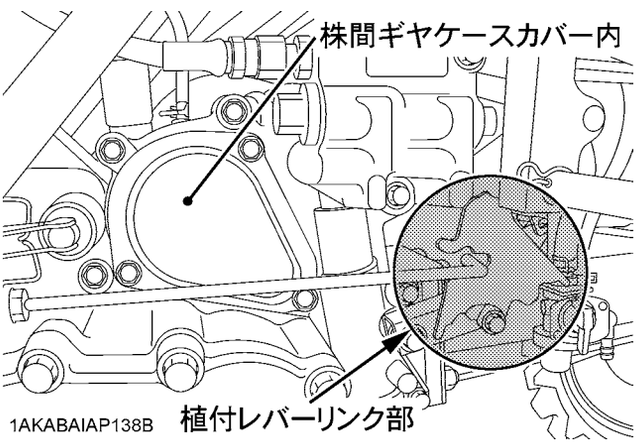
補　足

＊ 注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

◆ 注油，グリース補給・塗布

● 植付レバーリンク部

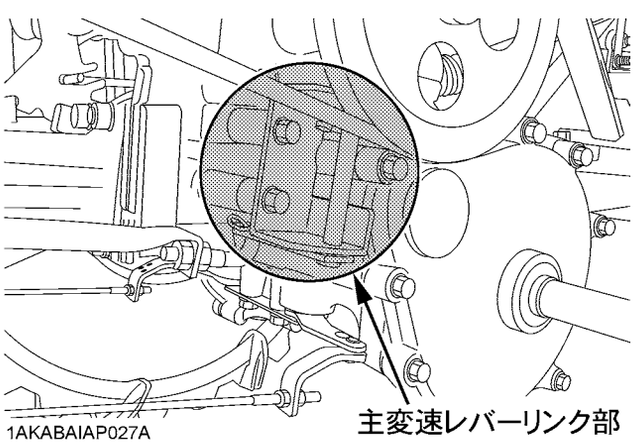
株間ギヤケースカバー内のグリース塗布は，ボルトを取外してください。



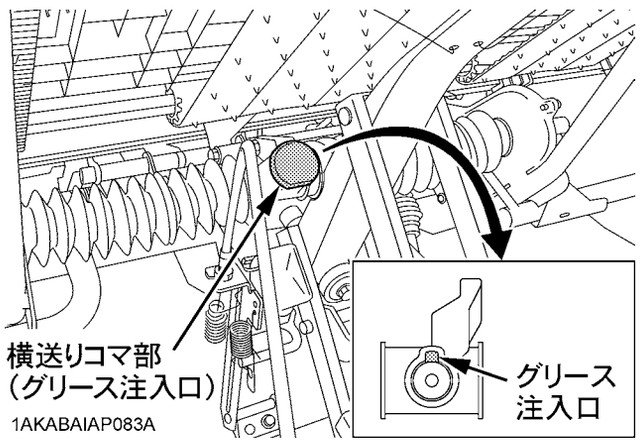
補　足

＊ 株間ギヤケースカバー内のギヤや軸のかみ合い部はモリサーム No.2（住鉱潤滑剤（株）製）・相当品などの二硫化モリブデン含有グリースを塗布してください。

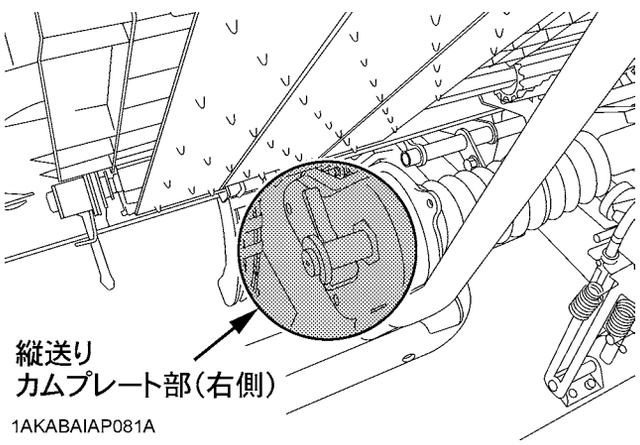
● 主変速レバーリンク部

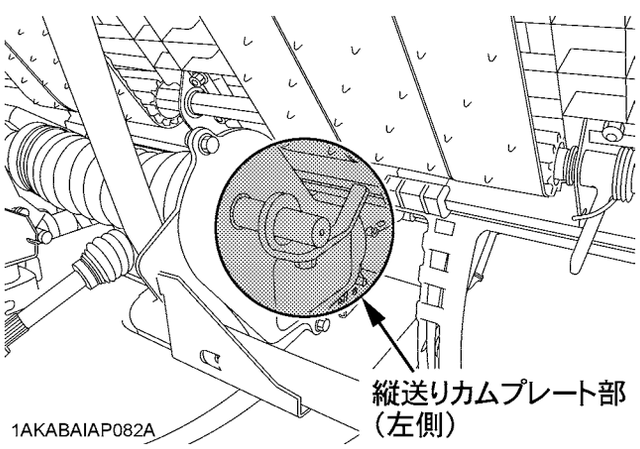


● 横送りコマ部（グリース注入）

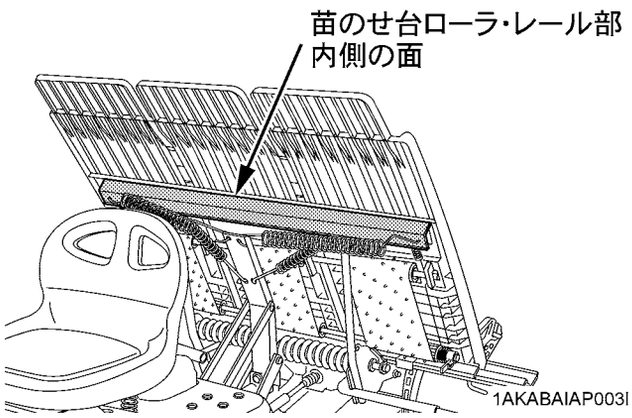


● 縦送りカムプレート部（グリース塗布）

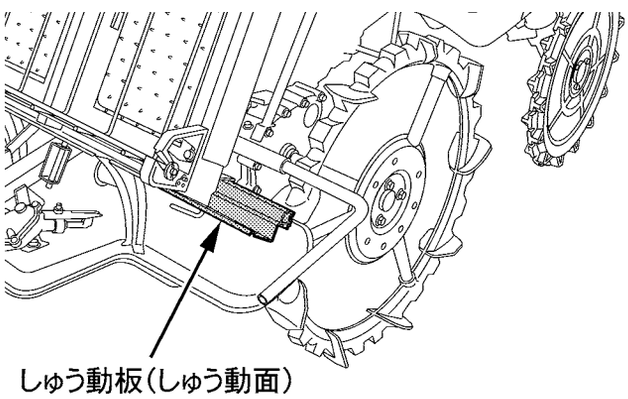


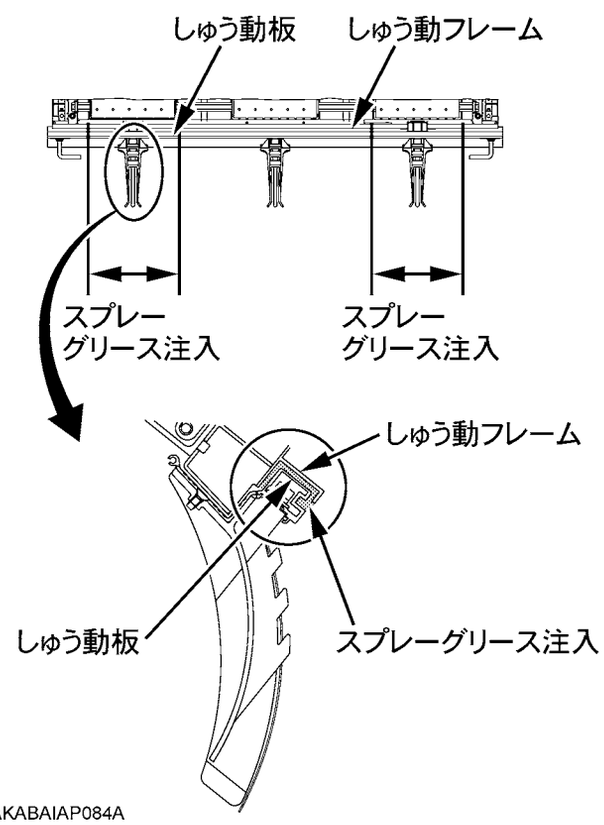


● **苗のせ台ローラ・レール部（グリース塗布）**

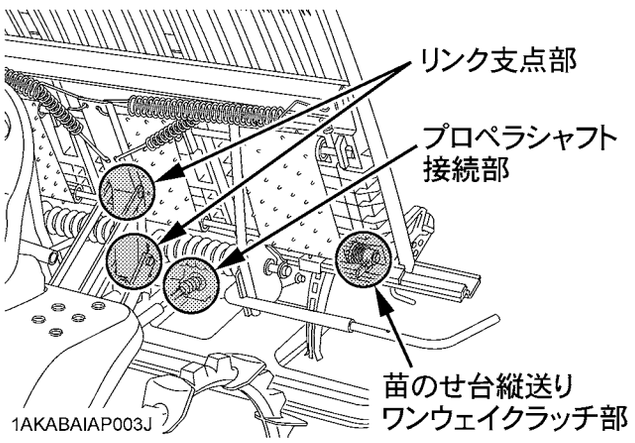


● **しゅう動板（グリース塗布）**

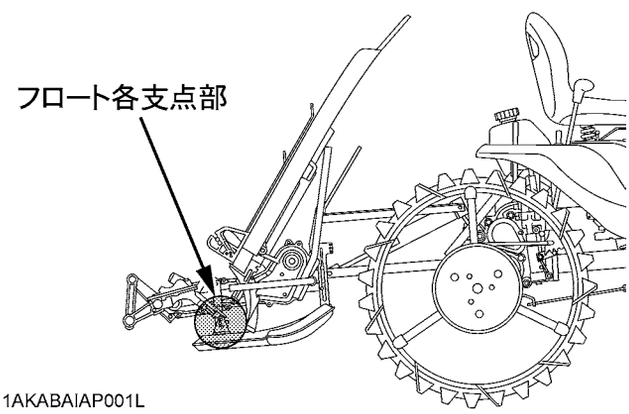




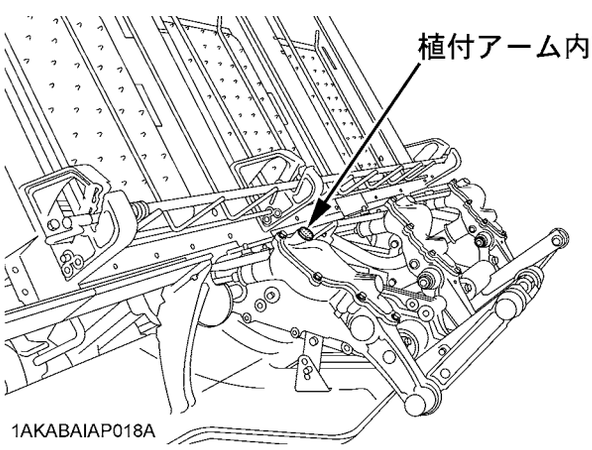
● **苗のせ台縦送りワンウェイクラッチ部（グリース塗布）**
● **リンク支点部（注油）**
● **プロペラシャフト接続部（グリース塗布）**



● **フロート支点部（注油）**



● **植付アームへのオイル又は新日本石油　G574 グリースの補給**



植付作業後の手入れ

植付作業後，機械の点検・整備を怠らず，翌日，又は，翌年の田植作業に備えてください。

注　意

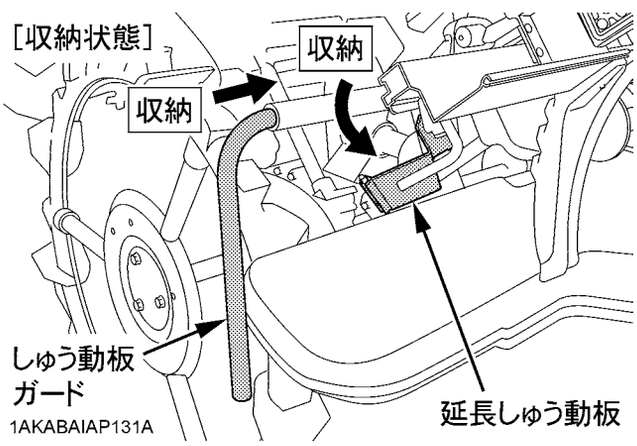
＊ 機械にカバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。
＊ 掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊ 燃料抜取り時は火気厳禁。

■毎日の作業後

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機械各部の泥などを取除いたあと，必要に応じて各部に注油を行ないます。
   (39 ページ参照)
3. 格納場所に格納します。

重　要

＊ 狭い場所に収納するときは，左，右の延長しゅう動板及び，しゅう動板ガードを収納してください。(17 ページ参照)



4. 植付部を降ろします。

重　要

＊ 植付アームなどが破損するおそれがありますので，フロート下面にまたがるように木片などを置いて，床面に直接降ろさないでください。

補　足

＊ しゅう動板ガードを縦（下）に向けた方向に付け直すと，植付部のスタンドとして使用することができます。

5. 駐車ブレーキを掛けます。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の下記の点検・整備を念入りに行なってください。

1. 各部の掃除，注油と補修
2. 燃料の排出
3. 各レバー等の点検

◆ 各部の掃除・注油と補修

機械を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後，ゴミ・水滴をじゅうぶんふき取り，油をしみこませた布で清掃してください
- 各グリース塗布個所にはグリース，注油個所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら，必ずふき取ってください。
- 植付爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ，増締めを行なってください。

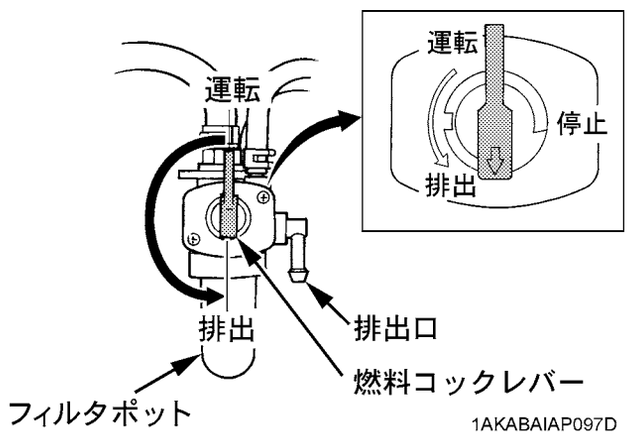
◆ 燃料の排出

注　意

＊ 燃料を排出するときは，エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。火災が発生するおそれがあります。

来シーズンに備えて燃料タンク内及び燃料フィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

1. 燃料排出口の下に容器を準備します。
2. 燃料コックレバーを**【排出】**位置にして燃料タンク及びキャブレター内の燃料を排出します。

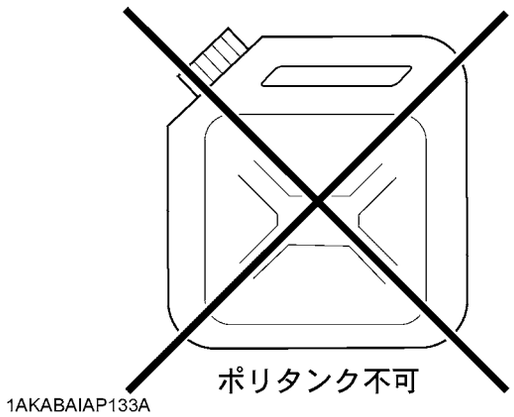


3. フィルタポット内のガソリンを排出します。また，必要に応じて掃除を行なってください。
4. フィルタポットを取付けます。
5. 燃料の排出が終わると，燃料コックレバーを**【停止】**位置にします。

重　要

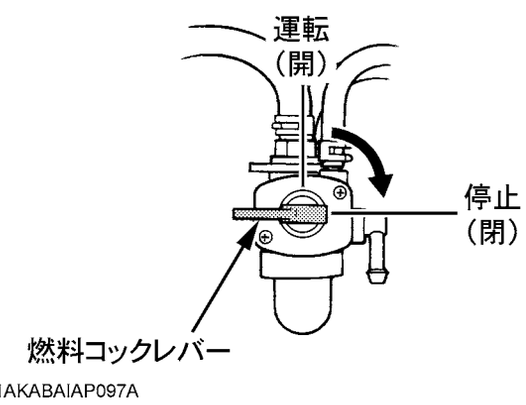
＊ 燃料のガソリンは1ヶ月以上放置した場合，気化し，エンジンの不調や故障の原因になります。必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取ってください。

＊ 燃料のガソリンを保管するときは，必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると，ガソリンが樹脂成分を溶解したり，紫外線透過によりガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となります。



補　足

＊ 燃料を入れるときは，燃料コックレバーを必ず，**【停止】**位置にし，エンジンを動かす前に，**【運転】**位置にしてください。



◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは植付部をフロート下面に木片などを置いたところに降ろし，下記事項を行なってください。

- アクセルレバーを前方いっぱいまで押して止めておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- リコイルハンドルをゆっくり引いて，重く手ごたえのある所で止めてください。(エンジンのバルブが閉じた状態)
- 運転席（シート）は前方向に倒してください。

■定期点検一覧表

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">点検箇所・項目</td><td>時間</td><td colspan="7">点検・交換時期</td><td rowspan="2">参照
ページ</td></tr>
<tr><td>点検
・
処置</td><td>作業
前後</td><td>シー
ズン
前後</td><td>35 時間</td><td>50 時間</td><td>200 時間</td><td>１年
ごと</td><td>２年
ごと</td></tr>
<tr><td rowspan="9">エンジン部</td><td>燃料フィルタポット
（燃料フィルタ）</td><td>掃除
洗浄</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>43</td></tr>
<tr><td>エアクリーナエレメント</td><td>掃除</td><td colspan="7">○ :50 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除）
△：汚れがひどいとき</td><td>44</td></tr>
<tr><td rowspan="2">点火プラグ</td><td>掃除</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">45</td></tr>
<tr><td>すきま
調整</td><td colspan="7">○：(200 時間ごと)</td></tr>
<tr><td>気化器（キャブレタ）</td><td>掃除</td><td colspan="7">○：エンジン不調時など</td><td>☆</td></tr>
<tr><td>燃料タンクの燃料こしあみ</td><td>掃除</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>41</td></tr>
<tr><td rowspan="2">燃料パイプ</td><td rowspan="2">バンド
締付け</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>△</td><td rowspan="2">45</td></tr>
<tr><td colspan="7">（作業前後点検し，燃料もれしているときは締付けバンドの締付け
又は，交換）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行部</td><td>ブレーキペダル</td><td>調整</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>49</td></tr>
<tr><td>ミッションオイルフィルタ</td><td>―</td><td colspan="7">○：50 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除）
△：汚れがひどいとき</td><td>44
☆</td></tr>
<tr><td>ミッション駆動ベルト</td><td>―</td><td colspan="7">△：摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れが発生したとき</td><td>46
☆</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイヤ</td><td rowspan="2">点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">49</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：８㎜以上摩耗したとき</td></tr>
<tr><td rowspan="6">植付・操作部</td><td rowspan="2">植付爪</td><td rowspan="2">点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">46</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：３㎜以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">押出し金具</td><td rowspan="2">点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">46</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：破損や変形がひどいとき（うき苗，ころび苗，ばらけ苗が発生）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">縦送りベルト</td><td rowspan="2">掃除</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">☆</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：破損や摩耗がひどいとき</td></tr>
<tr><td rowspan="2">しゅう動板・苗のせ台受け</td><td rowspan="2">点検</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">48
☆</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：すき間が２㎜以下になったとき</td></tr>
<tr><td>各ワイヤ</td><td>調整</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>☆</td></tr>
</table>

＊ 参照ページに☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊ 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

＊ 使用時間については，**［主要諸元］**の**［作業能率］**を参照して確認してください。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点　検　箇　所	処置	点検・交換時期		容量・規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	—	●容量…3	自動車用無鉛ガソリン	41
オイル	エンジン	補給・交換		●初回…20 時間目 ●２回目以降…100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量…0.55	クボタ純オイル G10W 30 又は，API 分類 SE 級以上	41
	ミッションケース	補給・交換	作業前又は，作業後	● 50 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量…4.7	クボタ純オイル スーパー UDT-2	41
グリース	前車軸ケース左右のグリース補給	補給	作業シーズン前，後	—	適量	クボタ純グリース No.2	☆
	ステアリングギヤケースのグリース補給						
	植付アーム					クボタ田植機ツメ用グリース	
	植付ケース					クボタ純グリース No.2	
	横送りネジ部のグリース補給						
	横送りコマのホルダ						
	植付クラッチレバー取付部周り						
	主変速レバーデテント部		操作荷重が重くなったとき				

＊ 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。

重　要

各部への補給と交換

＊ 点検するときは，機械を平たんな場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ エンジンオイル量の点検は，エンジン停止後，５分以上経過してから行なってください。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・純グリースを使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

補　足

＊ 使用時間については，**［主要諸元］**の**［作業能率］**を参照して確認してください。

定期点検

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

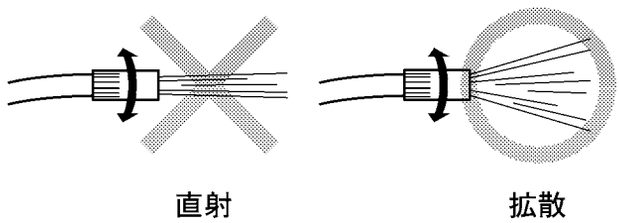
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

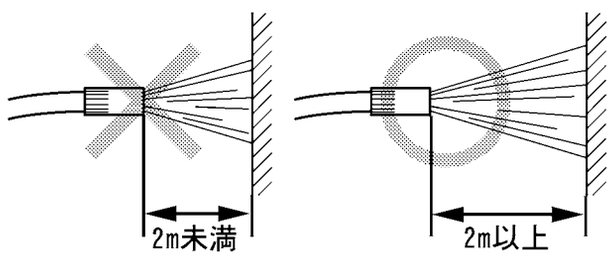
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

■燃料･オイルの点検･補給･交換

警　告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

重　要

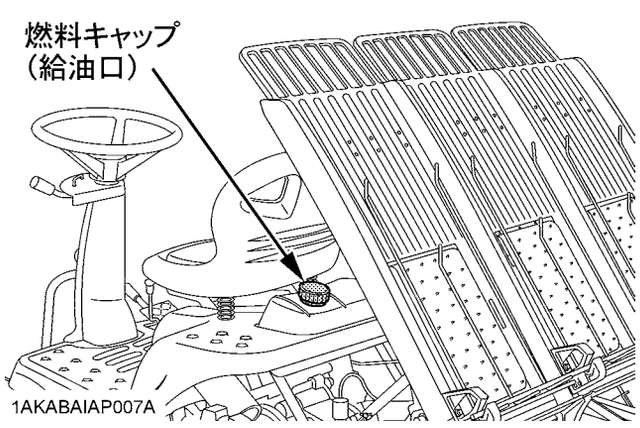
＊ 点検するときは機械を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- **給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。**
- **使用するオイルはクボタ純オイルを使用してください。**

＊ 燃料は，自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また，下記のような燃料は使用しないでください。
- 燃料タンク内に１ヶ月以上放置した燃料
- 樹脂製タンクに長期保管した燃料
- ゴミや水など異物の混ざった燃料
- 変色のひどい燃料
- くさった古い燃料
  (昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。)

＊ １ヶ月エンジンを始動しないと，燃料は変質し，エンジントラブルの原因となります。

１．燃料

燃料は作業前に必ず補給してください。



燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車無鉛ガソリン	約３ Ｌ

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 燃料キャップを締付けるとき，キャップ裏側にあるスペーサやパッキンをなくさないようにしてください。
＊ 燃料の残量は，燃料キャップを外して燃料こしあみを上から又は，取外して確認してください。

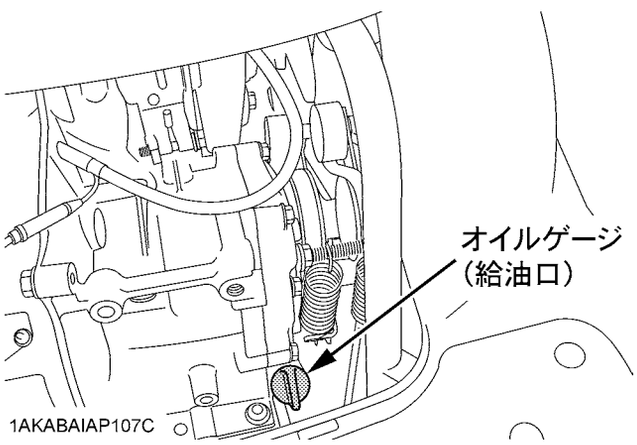
◆ 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。

２．エンジンオイル

◆ 点検・補給

センタカバーを取外したあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度ねじ込んでから抜き，ゲージの先端にオイルが付着しているか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



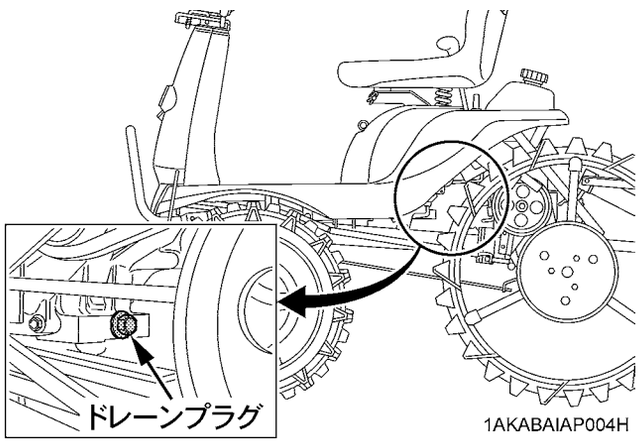
◆ 交換

● 排油のしかた

注 意

＊ マフラやエンジンオイルが十分冷えてからオイルを排出してください。

オイルゲージを外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。



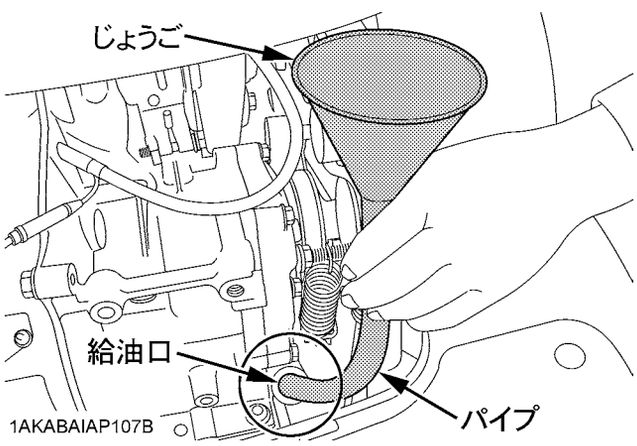
● 給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを締付けてください。

補 足

＊ 給油するときは，給油口からオイルがあふれるまで入れてください。オイルがあふれるところが上限の位置です。

＊ 補給・給油を行なうときは，じょうごとパイプを使用してください。



重 要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル G10W30	0.55L

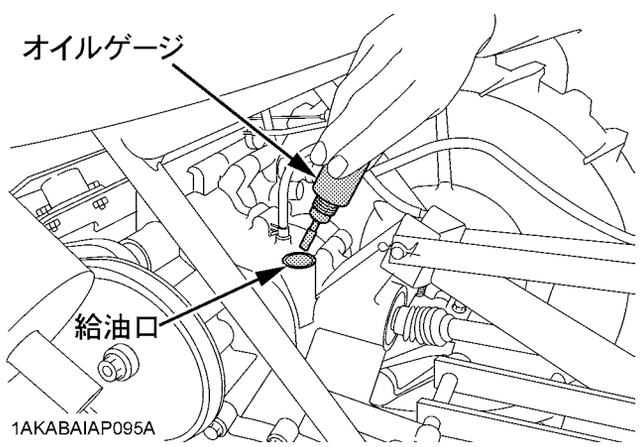
＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API 分類 SE 級以上のオイルをお使いください。

3．ミッションオイル

植付部を下降させてください。

◆ 点検・補給

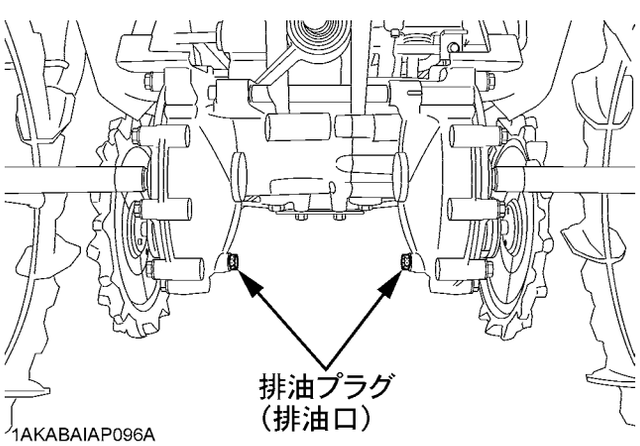
植付部を下降させて，オイルゲージを外し，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んで締付けてから抜き，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ 交換

● 排油のしかた

オイルゲージを外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない不足しているときは，オイルを追加補給してください。

警　告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

■燃料フィルタポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

警　告

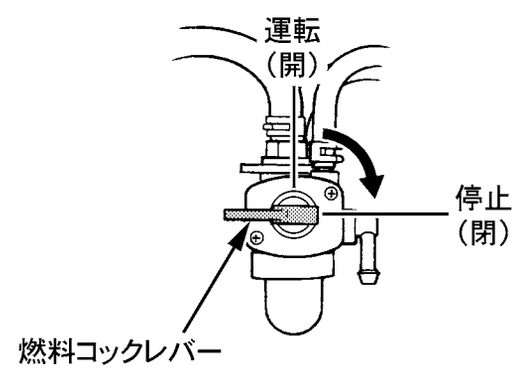
＊ 点検・掃除中は火気厳禁です。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。
＊ フィルタポット下部に水が溜まっているときは，早目に掃除又は交換してください。

◆ **点検・掃除**

1. 燃料コックレバーを**［運転］（開）**位置から**［停止］（閉）**位置にします。



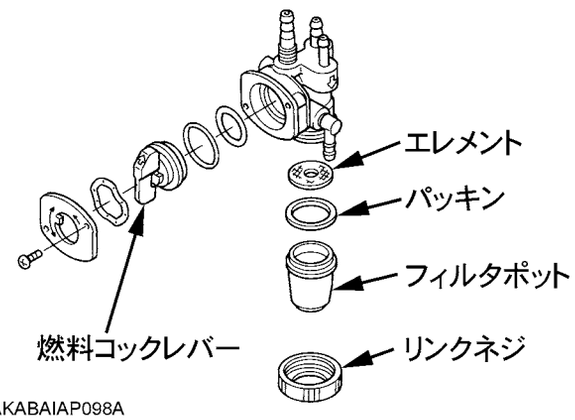
1AKABAIAP097A

2. リングネジをゆるめてポットを外します。

重　要

＊ フィルタポットを外すとき，パッキンやエレメントも同時に外れますので失くさないようにしてください。

3. エレメントを取出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合は交換してください。



1AKABAIAP098A

重　要

＊ エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

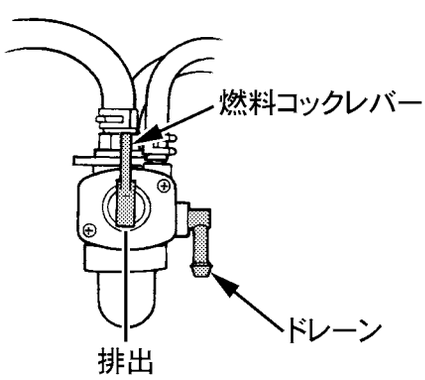
4. パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ ゴミが燃料内に混入すると，故障の原因となります。

補　足

＊ 燃料コックレバーを**［排出］**位置にすると，ドレーンからキャブレタ内と燃料タンク内の燃料を排出します。



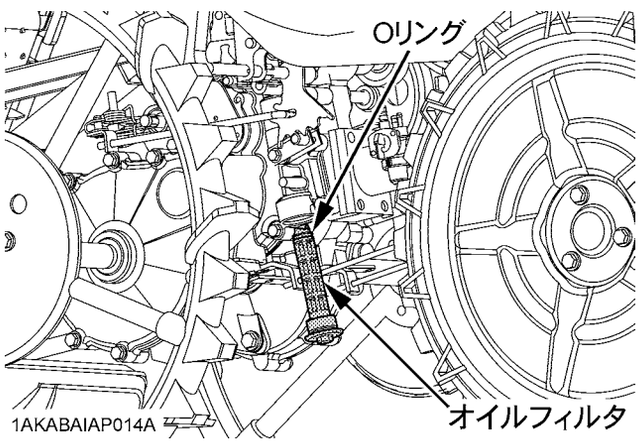
1AKABAIAP097B

■ミッションオイルフィルタの点検･掃除･交換

ミッションオイルの交換と同時にオイルフィルタの掃除を行なってください。

◆ 点検・掃除・交換

1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。(41 ページ参照)
3. オイルフィルタを抜出して掃除します。また，汚れのひどい場合は交換してください。



重　要

＊ O リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ オイルフィルタを締め込むときは，つば部がケース面に密着してから 1/4 回転締め込んでください。締め込みすぎると六角部が変形します。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，掃除を行なっても短時間で目詰まりします。

4. オイルゲージの上限線までミッションオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

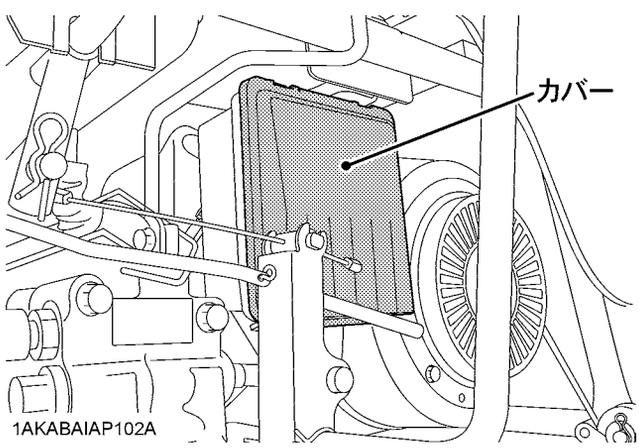
■エアクリーナエレメントの点検･掃除

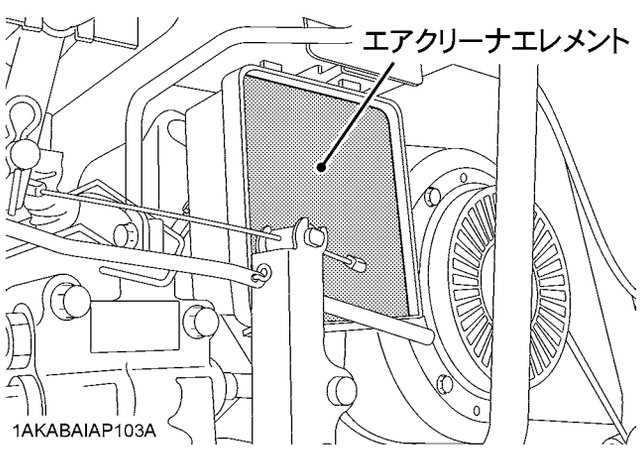
重　要

＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆ 点検・掃除

1. センタカバーを外したあと，エアクリーナのカバーを取外します。
2. エレメント（スポンジ）を取外し，灯油又は，家庭用洗剤で洗浄（もみ洗い）をします。このとき，汚れや破損のひどい場合は交換してください。
3. エレメント（スポンジ）を乾燥させます。
4. エンジンオイルに浸して固く絞ってから取付けたあと，エアクリーナのカバーを取付けます。





■点火プラグの点検･掃除･調整

注 意

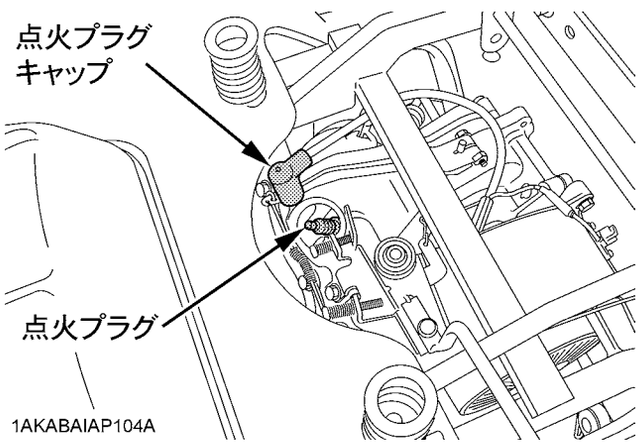
＊ 点火プラグの取外しは，エンジンが冷えた状態で行なってください。

重 要

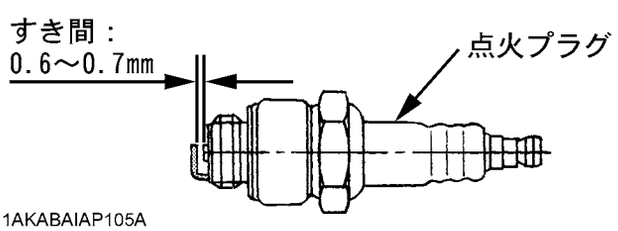
＊ 点火プラグの電極が溶けて，すき間が広がったり，カーボンが付着したり，碍子（ガイシ）部が損傷するとエンジンの不調の原因となります。

◆ 点検・掃除・調整

1. センタカバーを取外し，点火プラグのキャップを外します。
2. プラグレンチでプラグを取外します。



3. ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと，電極のすき間を確認し，異常があれば，すき間調整又は，点火プラグの交換を行ないます。すき間は，0.6 ～ 0.7mm に調整します。



重 要

＊ プラグの交換時は，必ず同じ型式の物を使用してください。異なったプラグを使用すると，失火や始動不良を起こすおそれがあります。

点火プラグ型式	数量
BP2HS	1

■パイプ･ホース類の点検･交換

注 意

＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

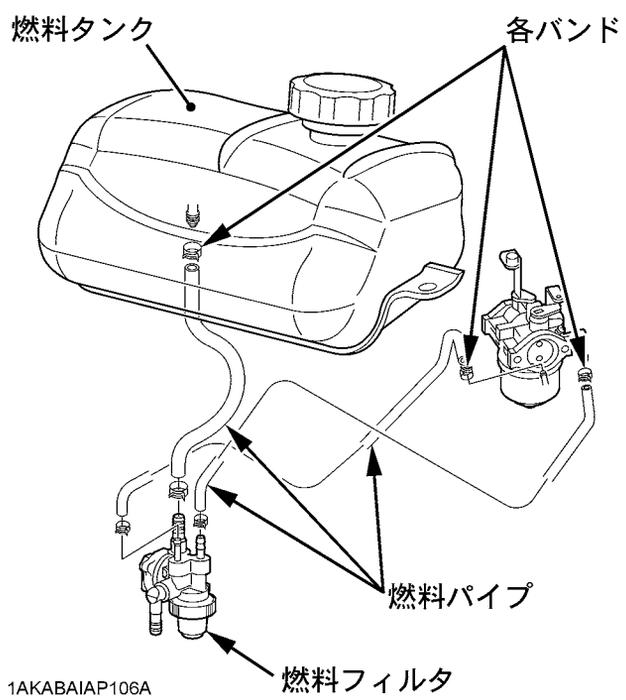
エンジン，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油などがもれているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

＊ 油などがもれていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。交換については購入先に連絡してください。

◆ 締付け

締付不足がないよう締付けてください。

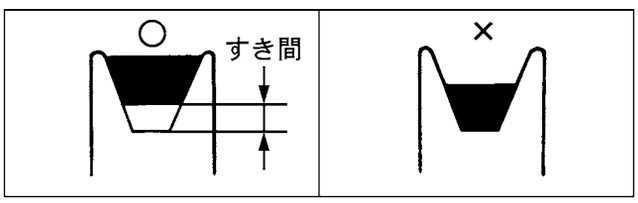


■ミッション駆動ベルト・ポンプ駆動ベルトの点検

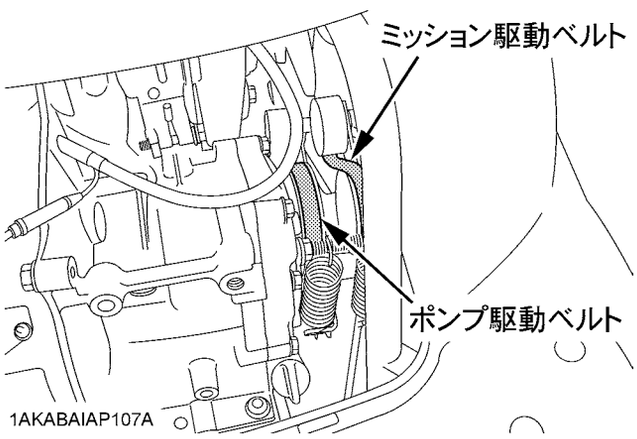
◆ 点検

ベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ
2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



上記の事項を確認したとき，異常があれば購入先へ連絡してベルト交換を行なってください。



重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

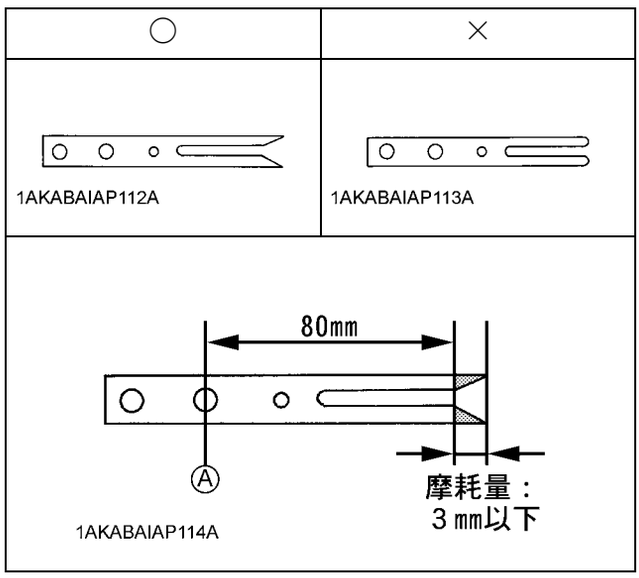
■植付爪･押出し金具の点検･調整･交換

警　告

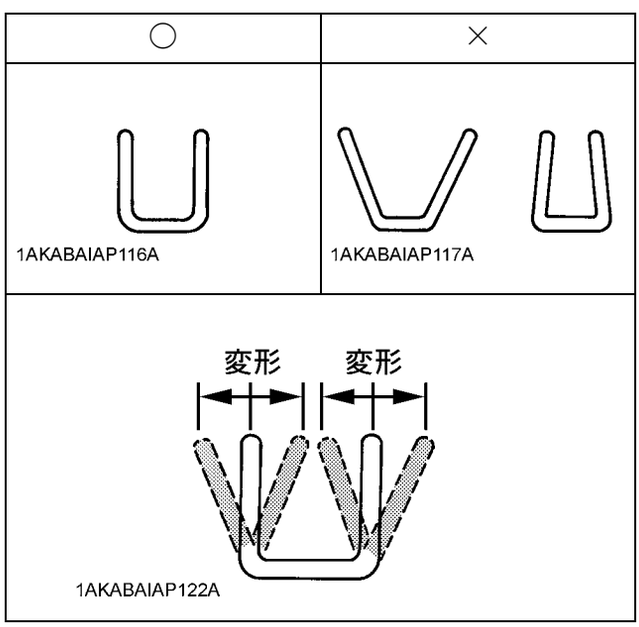
＊ 植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので，植付爪の交換・調整・清掃，苗取り出し口の異物の除去，残り苗の取り出しなどを行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

植付爪が摩耗や破損したり，押出し金具が変形や破損をすると，植付不良になりますので，定期点検をよく行なってください。

● 植付爪

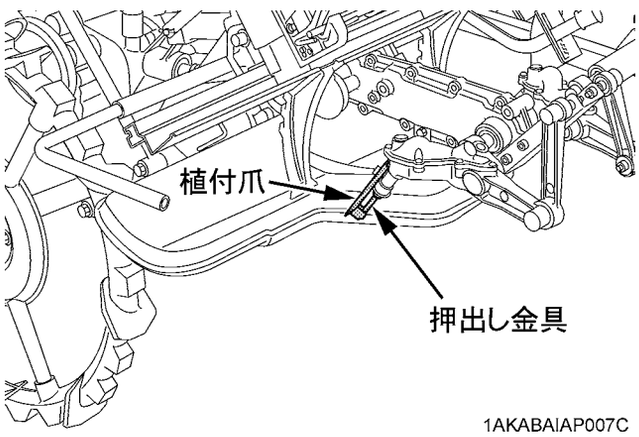


● 押出し金具



◆ 点検

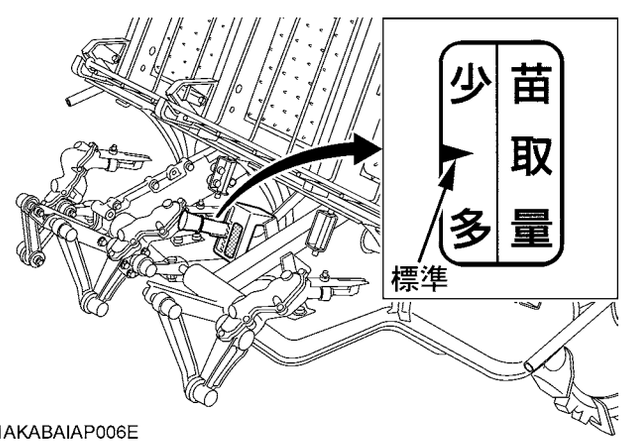
1. 機械を平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出し金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が３㎜以内のときは，苗取りゲージで高さ調整を行ない，３㎜以上（A位置から残り 80㎜）摩耗しているときは交換してください。また，押出し金具の変形量により，押出し金具の押出し確認又は，購入先に連絡して交換してください。



1AKABAIAP007C

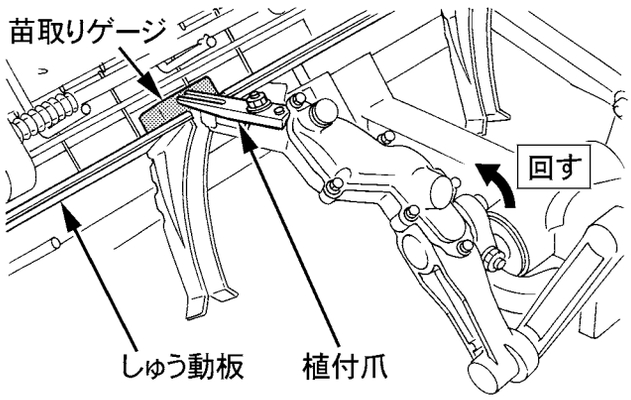
◆ 植付爪の調整

1. エンジンを始動したあと，植付部を最上昇させ，油圧ロックレバーを**【閉】**にして油圧をロックし，植付部の下降防止を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**【植付】**位置にしたあと，苗のせ台が中央の位置で植付爪を停止させ，ブレーキをロックし，エンジンを停止します。
3. 苗取り量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと，**【少】**ない方から４段目の切欠溝にセットします。

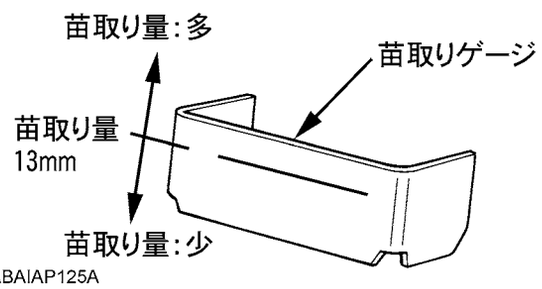


1AKABAIAP006E

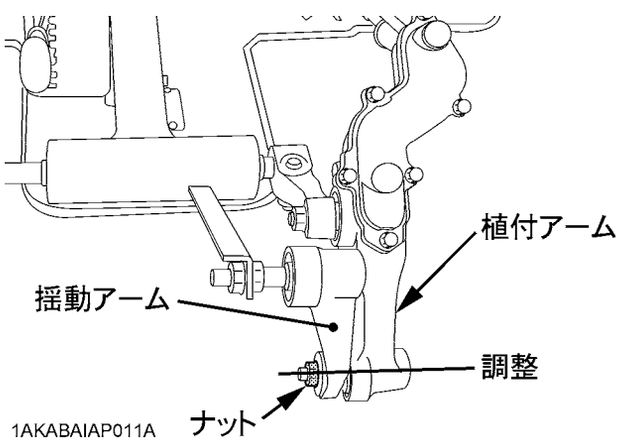
4. しゅう動板の切欠部に苗取りゲージを図のようにセットし，植付爪がゲージに当たるまで手で回します。
5. 植付アームと揺動アームを締付けているナットを軽くゆるめたあと，植付爪の先端を苗取りゲージの**【苗取量 13】**（13㎜）の線に軽く接触させて，樹脂ハンマー等で植付アームを軽くたたいて調整し，**【苗取量 13】**（13㎜）の線と合わせます。



1AKABAIAP124A



1AKABAIAP125A

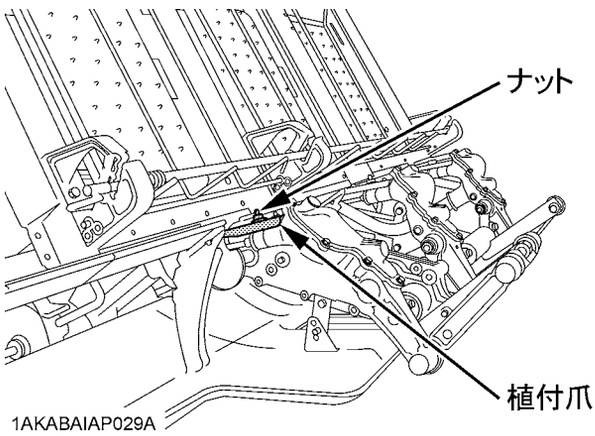


1AKABAIAP011A

6. 植付アームと揺動アームを締付けているナットを締付けます。

◆ 植付爪の交換

1. **植付爪の調整**の１と２を行ないます。
2. 植付爪を取付けているナットを取外します。
3. 新しい爪と交換します。
4. ナットを締付けます。
5. 植付爪の高さ調節を行ないます。



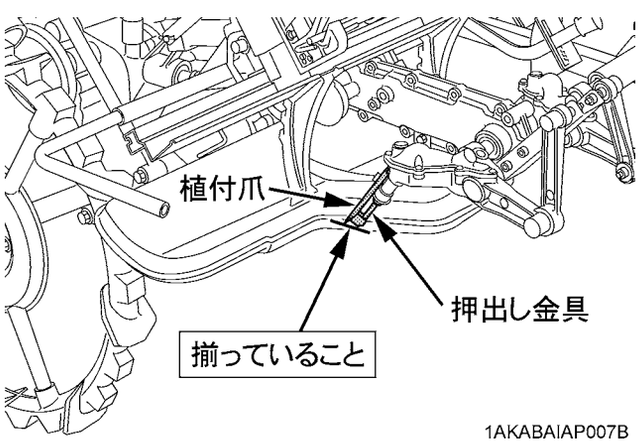
◆ 押出し金具の動作確認

1. **植付爪の調整**の１と２を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**［植付］**位置にします。

補　足

＊ 植付クラッチレバーが**［植付］**位置以外のときは，植付爪が下まで動きません。

3. 植付爪を手で回して，最下端のときに押出し金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



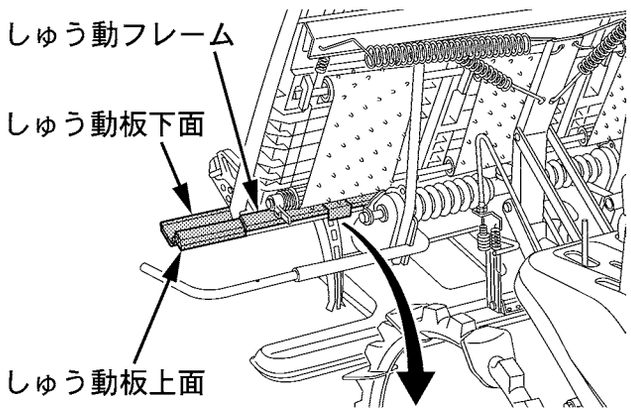
4. 押出し金具の変形や破損で動かないときは，購入先に連絡して交換してください。

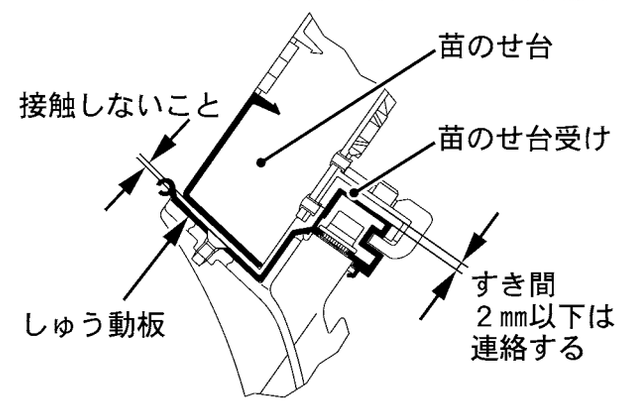
■苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると，正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

◆ 点検

しゅう動板上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り，２㎜以下のときは，苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。

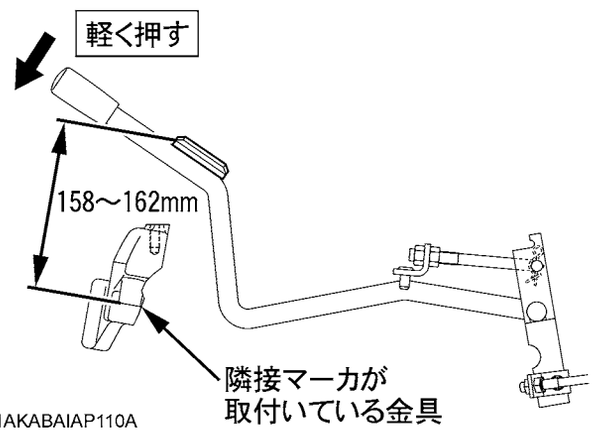




■ブレーキペダルの点検･調整

◆ 点検

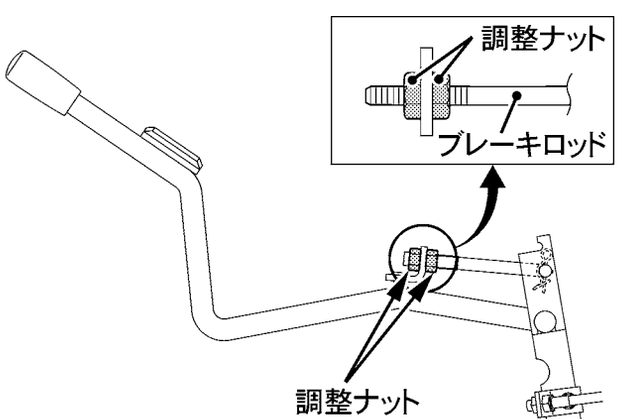
1. ブレーキペダルを解除状態にします。
2. ブレーキペダルの遊びをなくしたときのペダル前部の高さを測定します。
3. 測定値が 158 ～ 162mm の範囲外のときは調整します。



1AKABAIAP110A

◆ 調整

1. 調整ナット２個を緩め, すきまを調整します。
2. 調整ナット２個を締付けます。



1AKABAIAP110B

3. 点検の１～３を行ない, すき間の再確認をし, 規定値から外れているときは, 再調整します。

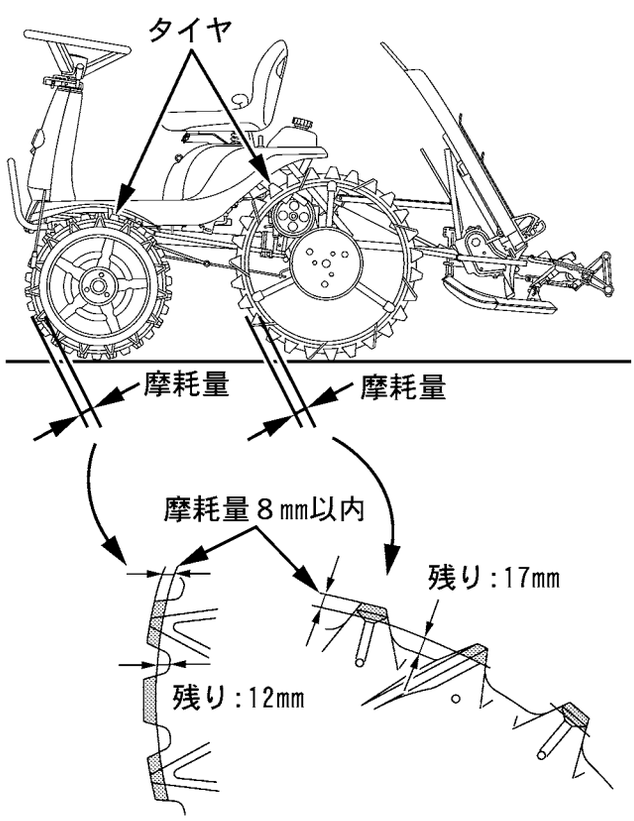
■タイヤの点検

警 告

＊ タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため，あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

◆ 点検

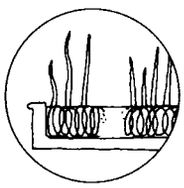
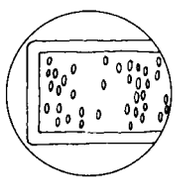
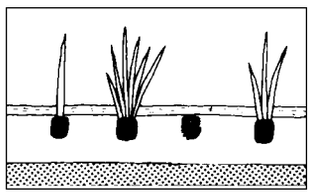
前輪・後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，８ ㎜ 以上摩耗している場合や, 破損がひどい場合は, 購入先に連絡して交換してください。

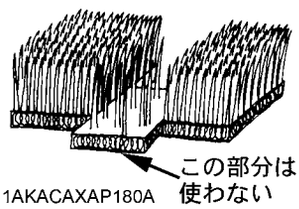


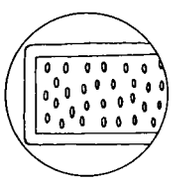
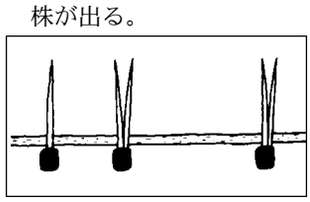
1AKABAIAP111A

乗用田植機の不調と処置

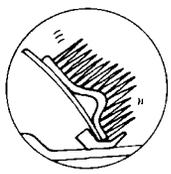
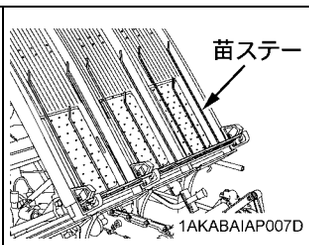
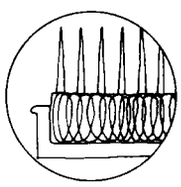
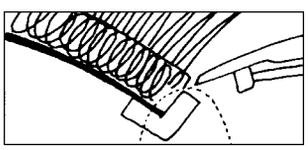
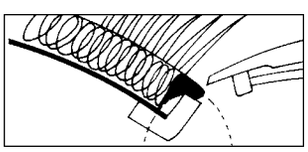
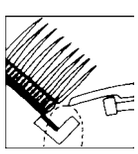
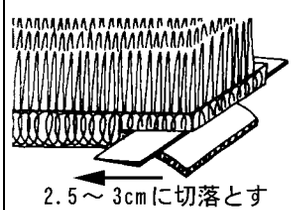
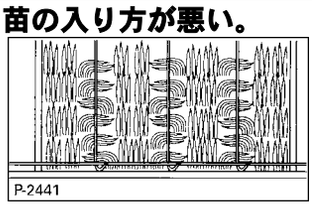
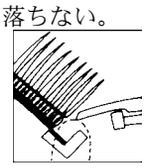
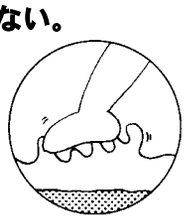
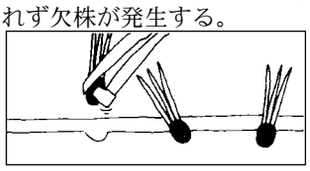
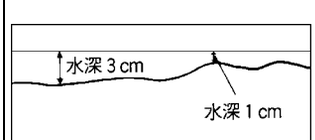
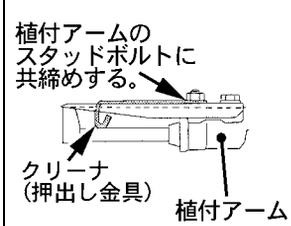
欠株が出る

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗に生育ムラやハゲた部分がある苗
 
苗の播種ムラがひどい苗
  </td>
<td>●植付けの本数がバラついたり欠株が出る。
  </td>
<td>苗の処置
①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植付ける。
②悪い苗は，使用しない。
（補植えに使用する）

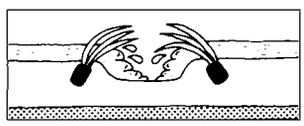
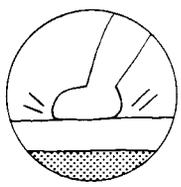
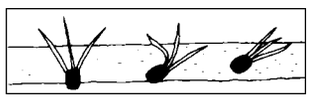
機械の処置
苗取り量は多く，横送り回数は少なくする
(横送り量を多くする)。
（◆苗取り量調節レバー参照）
（■横送り切り替え参照）オプション</td>
<td> 

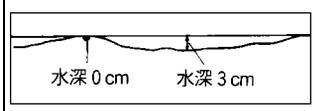
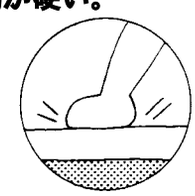
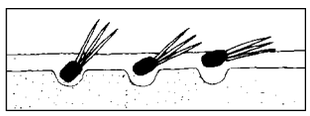
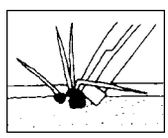
1AKACAXAP180A</td>
</tr>
<tr>
<td>播種量が少ない苗
  </td>
<td>●植付け本数が少なくなり欠株が出る。
  </td>
<td>苗の処置
中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。

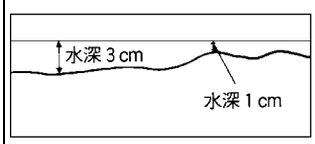
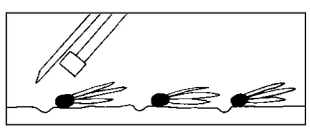
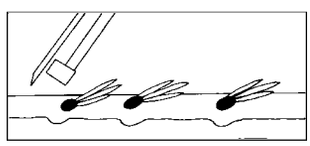
機械の処置
苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。
(横送り量を多くする)
（◆苗取り量調節レバー参照）</td>
<td></td>
</tr>
</table>

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗床がうすく又根張りが悪い苗 **苗床が軟らかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。 （**4．苗ステー・苗押さえ棒の調節**参照） **苗の処置** ①苗床厚が２㎝以上の苗を使用する。 ②苗床を乾かして硬めにする。	
苗床が厚い苗 	①苗がうまく取れないため，苗取量が少なかったり欠株が出る。  ②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。  ③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。 	**機械の処置** ①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。 （**◆苗取り量調節レバー**参照） ②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。 （**4．苗ステー・苗押さえ棒の調節**参照） **苗の処置** ①苗床厚（マット厚）が2.5～３㎝になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。 ②植付け前にかん水してすべりを良くする。	 1AKACAXAP181A
苗の入り方が悪い。 	苗が苗ステーに引っかかって落ちない。 	**苗の処置** 引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。	
床土が粘土質で粘りが強い苗。 **粘土質のほ場でしかも水が少ない。** 	植付け時，苗が植付爪より離れず欠株が発生する。 	**苗の処置** 苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。 **ほ場の処置** ほ場に水を１～３㎝程度張り苗が爪より離れやすくなる。 **機械の処置** 別売り（オプション）のクリーナ（押出し金具）を取付ける。	  1AKACAIAP252A

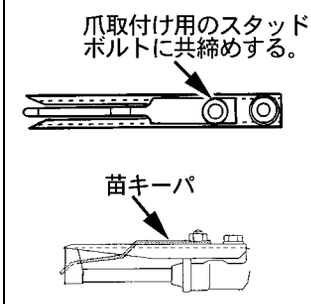
浮苗が出る・植付けが乱れる

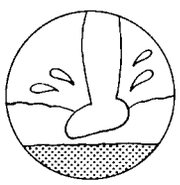
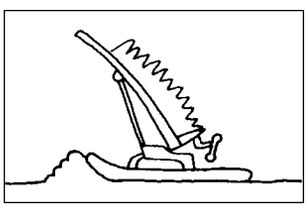
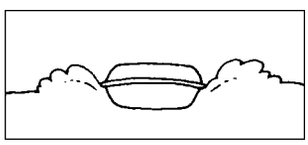
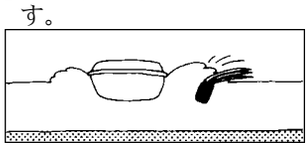
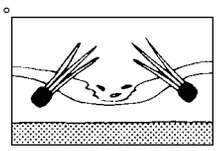
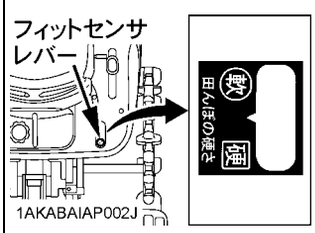
<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>水深が 3 cm 以上あるほ場。
 </td>
<td>①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。
 
 
②植付け姿勢が悪い又は浮苗が発生する。
  </td>
<td>ほ場の処置
水を落す。水深０～３ cm にする。

機械の処置
①植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。
②植付け深さを許せる範囲で深めにする。</td>
<td>  </td>
</tr>
<tr>
<td>ほ場が硬い。
  </td>
<td>①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。
 
②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。
  </td>
<td>ほ場の処置
①再度代かきして植えやすい硬さにする。
②水を１～３ cm 入れ軟らかくして植える。

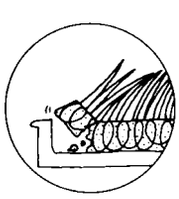
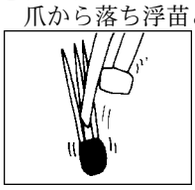
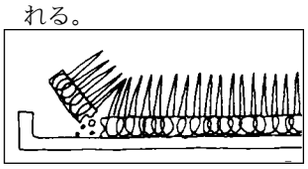
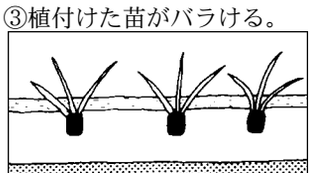
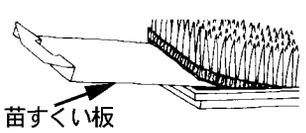
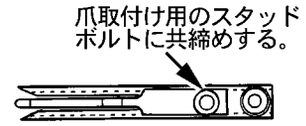
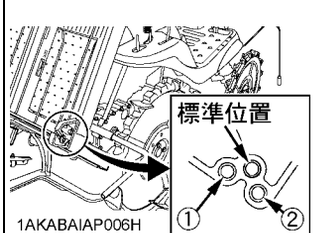
機械の処置
●植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。</td>
<td>  </td>
</tr>
<tr>
<td>根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。</td>
<td>①苗がころぶ。
 
②水がある場合，浮苗ができる。
  </td>
<td>ほ場の処置
水が多い場合は水を落とす。

苗の処置
①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。
②床土は水に溶けにくい土質のものにする。
③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。

機械の処置
別売り（オプション）の苗キーパを取付ける。</td>
<td> 
1AKACAIAP266A</td>
</tr>
</table>

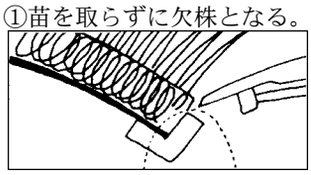
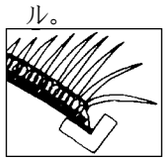
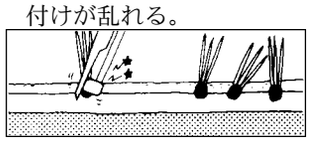
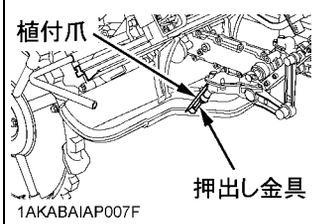
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	①フロートが沈み，泥を押す。   ②泥を押して，隣接苗を倒す。  ③フロート通過跡が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。 	**ほ場の処置** ●水を落として表面を硬くする又は表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** ①フィットセンサレバーを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 ②植付け速度を遅くする。	フィットセンサレバー 

浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	①苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。  ②苗を取り出すとき苗がくずれる。  ③植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** ●植付け速度を遅くする。 ●別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 ●苗押さえ棒を②（内側）の穴に差替える。	  

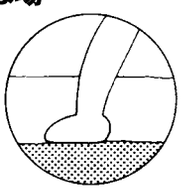
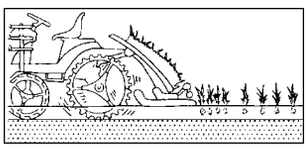
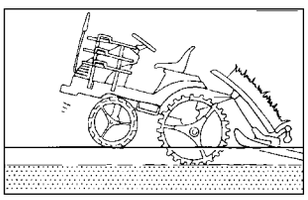
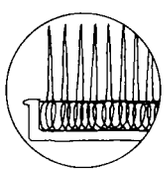
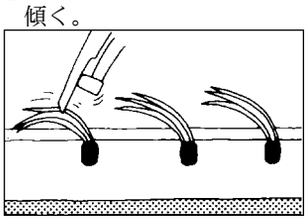
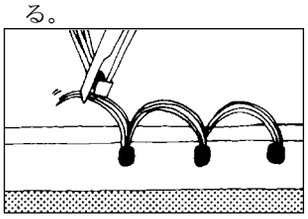
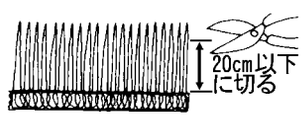
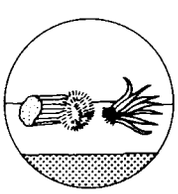
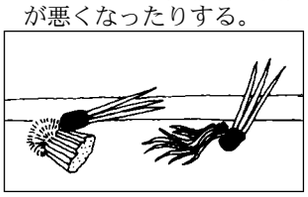
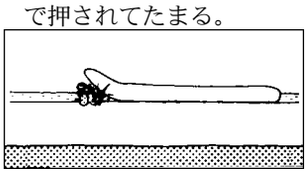
乗用田植機の不調と処置

植付けが乱れる・欠株が出る

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>植付爪の異常
●爪の磨耗
●爪の変形
●押出し金具の変形
●押出し金具が十分押出さない。</td>
<td>①苗を取らずに欠株となる。
 
②苗取り後残りの苗がバラケル。
 
③押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。
  </td>
<td>機械の処置
①植付爪と押出し金具の点検。
●爪の曲がりを直す。
●押出し金具の曲がりを直す。
②爪，押出し金具などの部品を新品と交換する。</td>
<td> 

1AKABAIAP007F</td>
</tr>
</table>

その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   ②機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** 株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	
苗の草丈が長すぎる。 **草丈が20cm以上ある苗の植付け。** 	①植付けた苗が爪に押されて傾く。  ②植付けた苗がアーチ状になる。 	**苗の処置** 葉先を 20cm 以下に切りそろえる。 **機械の処置** ①植付け深さを深めにする。 （**3. 植付深さ調節**参照） ②植付け速度を遅くする。 ③苗押さえ棒の位置を一番上にあげる。	 1AKACAIAP294A
夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。 	①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。  ②夾雑物がフロート，整地板で押されてたまる。 	**ほ場の処置** ①代かき時，夾雑物をすき込む。 ②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。 **機械の処置** ①植付け深さをやや深くする。 （**3. 植付深さ調節**参照） ②植付け速度を遅くする。	

付表

主要諸元

名　　称				ウエルスターキュート
型　　式				EP3
駆動方式				４輪駆動
機械寸法	全　長（mm）（格納時）{作業時}			2010 {作業時 2040}
	全　幅（mm）（格納時）{作業時}			1020 {作業時 1250}
	全　高（mm）			1120
	最低地上高（mm）			320
質　　量（kg）				150
エンジン	型式名			GR130-1-PB1
	種　類			空冷４サイクル単気筒 OHV ガソリンエンジン
	総排気量（L {cc}）			0.125 {125}
	出力 / 回転速度（kW {PS} /rpm）			1.5 {2.1} / 2700［最大 3.2 {4.3}］
	使用燃料 / タンク容量（L）			自動車用無鉛ガソリン /3.0
	始動方式			リコイルスタータ式
走行部	かじ取り方式			アッカーマン方式マニュアルステアリング
	車　輪	種　類	前輪	ノーパンクタイヤ（ソリッドタイヤ）
			後輪	ゴム両ラグ車輪
		外　径	前輪（mm）	500
			後輪（mm）	660
		輪　距	前輪（mm）	785
			後輪（mm）	780
		軸距（mm）		785
	変速方式			ギヤ式
	変速段数（段）			前進３段（植付１段・あぜ越１段・移動１段）・後進１段
植付部	植付方式			クランク式強制植付け
	植　付	条　数（条）		3
		条　間（cm）		30
		株　間（cm）		16，18　※ 14，21，24 はオプション
		株　数（株 /3.3 ㎡）		70，60　※ 80，50，45 はオプション
	１株本数調整方式	横送り量（mm（回数）/ 株）		11(26)　※ 14(20) はオプション
		縦かき取り量（mm）		8 ～ 18
作業速度（m/ 秒）				～ 0.43［スリップ率 10％］
作業能率（分 /10a）				57 ～

＊ この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1
＊ 取扱説明書	1
＊ 苗取りゲージ	1
＊ 苗すくい板	1
＊ 株間ギヤ	
・13 ギヤ	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■苗キーパ

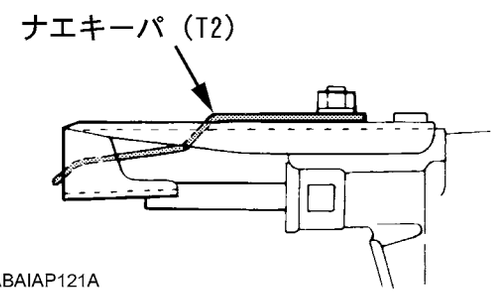
苗キーパは，苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品　名	品　番	数量
ナエキーパアッシ(3)	PK301-9380-0	1

※単品の場合

品　名	品　番
ナエキーパ（T2）	PA401-5372-0



1AKABAIAP121A

■クリーナ

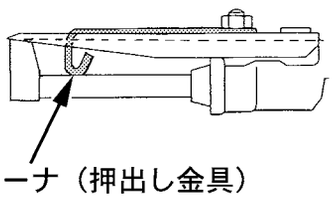
クリーナは，苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり，植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品　名	品　番	数量
クリーナ，キット（3）	PK301-9370-2	1

※単品の場合

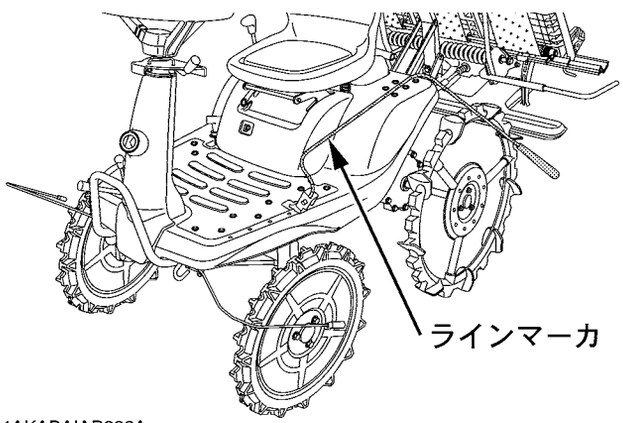
品　名	品　番
クリーナ(オシダシカナグ)	PK401-9371-0



1AKABAIAP115A

■ラインマーカ

品　名	品　番
マーカ，キット（ライン）	PK301-9830-2

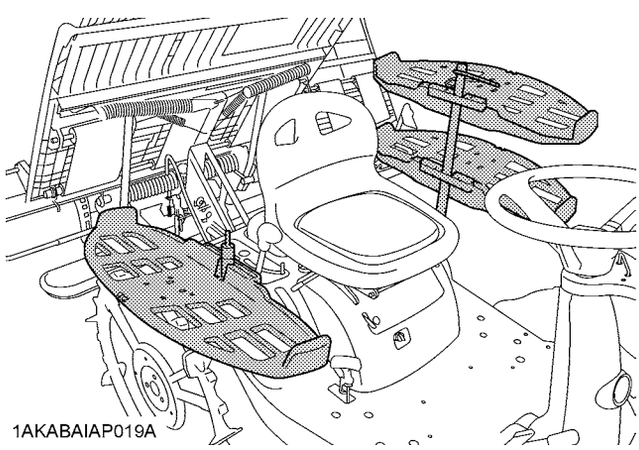


1AKABAIAP222A

■予備苗台

予備苗を３枚乗せることができます。

品　名	品　番
ナエノセダイ，キット（ヨビナエ）	PK301-9820-2

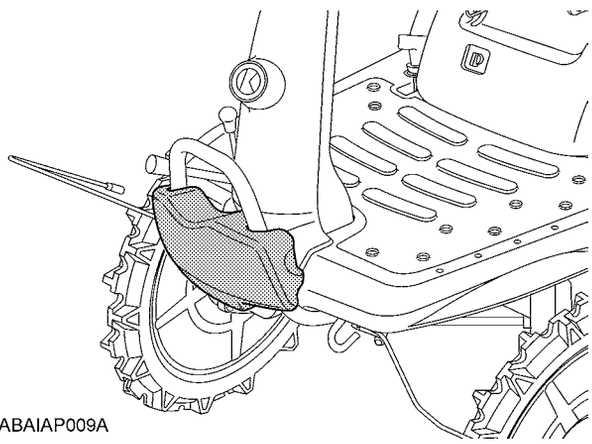


1AKABAIAP019A

■前部ウエイト

深いほ場で前輪が浮上がるのを防止し，直進性，走行性が良くなります。

品　名	品　番
ウエイト， キット（オプション）	PK301-9880-0

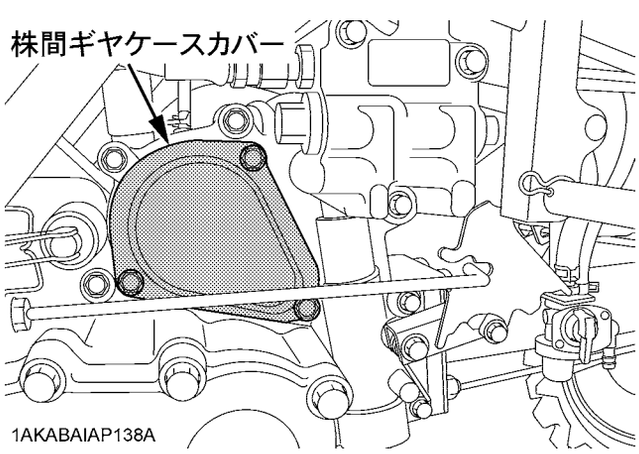


1AKABAIAP009A

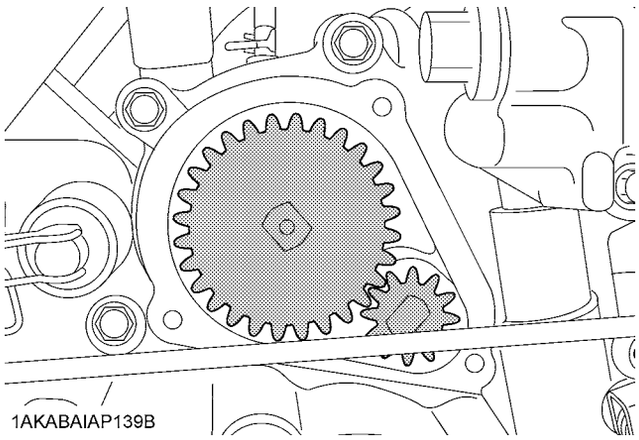
■株間切り替え

植付け株間を変更するときに使用します。

品　名	品　番	株　間
ギヤ，アッシ （カブマ，14）	PK301-9771-0	14cm 用 （80 株）
ギヤ，アッシ （カブマ，21）	PK301-9773-0	21cm 用 （50 株）
ギヤ，キット （ソショクカブマ）	PK301-9850-0	24cm 用 （45 株）



1AKABAIAP138A

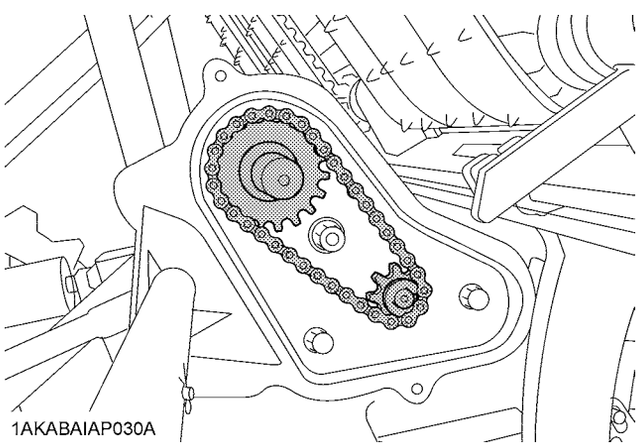


1AKABAIAP139B

■横送り切り替え

苗のせ台の横送り回数を 20 回にするときに使用します。

品　名	品　番
スプロケット， アッシ（20）	PK301-9780-2



1AKABAIAP030A

■苗スライドストッパー

軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

● 取付けかた

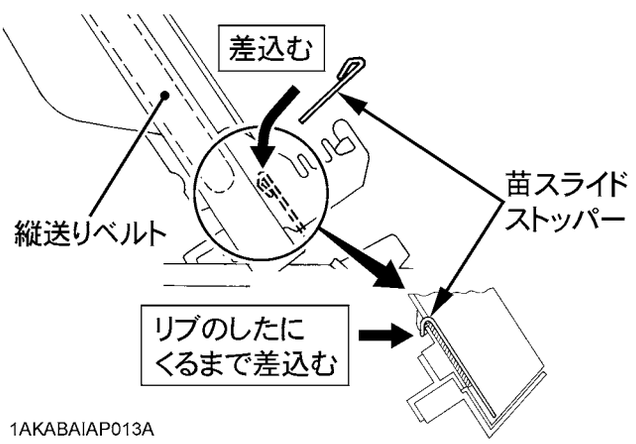
1. 植付部を上昇させたあと，エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に下図のような方向から，苗スライドストッパーを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。

※単品の場合

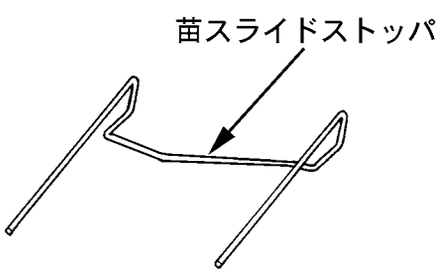
品　名	品　番	1台当り数量
ストッパ(ナエスライド)	PK401-9841-0	6

※アッシ（セット）の場合

品　名	品　番	1台当り数量
ストッパ，キット(3，ナエスライド)	PK301-9840-0	6



1AKABAIAP013A



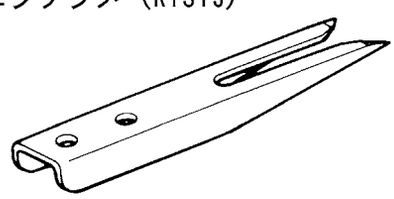
1AKACAIAP432A

消耗部品（純正品を使いましょう）

■植付爪

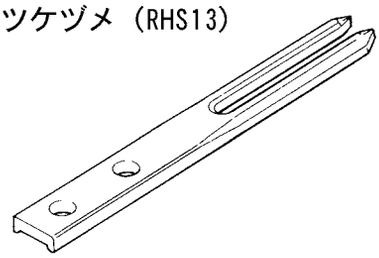
品　名	品　番	1台当り数量
ウエツケヅメ(RIS13)	PA401-5171-3	3
ウエツケヅメ(RHS13)	PK401-5371-0	3

ウエツケヅメ（RIS13）



1AKABAIAP089A

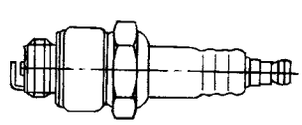
ウエツケヅメ（RHS13）



1AKABAIAP090A

■点火プラグ

品　名	品　番
BP2HS(NGK)	12045-6771-0



1AKABAIAP093A

クボタ純オイル

オイルは クボタ純オイル をお使いください

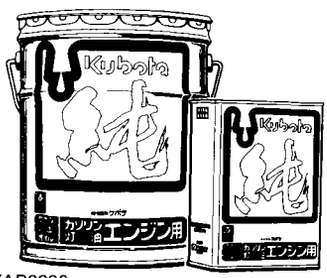
● オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

● エンジンには

クボタ純オイル

ガソリン・灯油エンジン用

スーパーG
10W-30



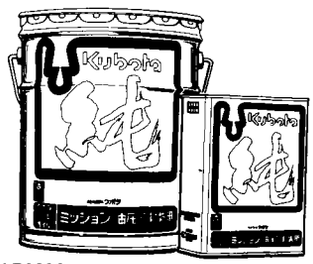
1AKACAXAP2280

● 田植機本体には

クボタ純オイル

ミッション用

スーパーUDT-2



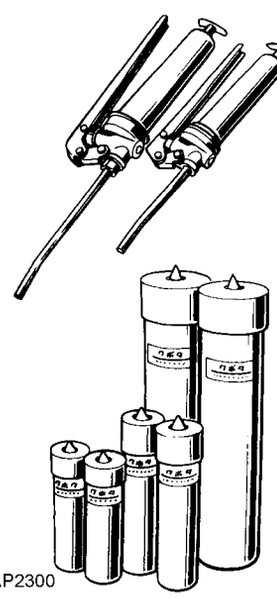
1AKACAXAP229A

● グリースアップには

クボタ純グリースNo.2

● 植付アームには

クボタ田植機ツメ用グリース



1AKACAXAP2300

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは購入先へご用命ください。

1AKACAZBP0100

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

北海道事務所	電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地３－１
秋田事務所	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所	電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182－１
東京事務所	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２-36
新潟事務所	電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所	電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956－１
名古屋事務所	電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所	電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所	電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846－１
株式会社四国クボタ本社	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647－３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター	電(072)241-1375	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

EP3
AR．E．4-5．3．AK

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　PK351-9751-1